



BERNINA 540

取扱説明書

made to create **BERNINA**

ベルニナユーザーの皆様へ



この度はベルニナミシンをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ベルニナミシンは、これから長年にわたってあなたの信頼にお応えしていくことでしょう。当社は100年以上にわたりユーザーの皆様にご満足いただける製品を作り続けてまいりました。精密で完成度が高く、将来を見据えたソーイングテクノロジーに培われて作り出されたスイスのミシンを、行き届いたカスタマーサービスと共にお届けできることを誇りに思っております。

ベルニナ5シリーズは、開発の際に最高級のテクノロジーと使いやすさだけでなく、デザインにもこだわった最新のモデルです。品質だけでなくデザインも重視されるクリエイティブなユーザーの皆様にご満足いただける製品であると自信を持ってお届けいたします。

あなたの新しいBERNINA 540でクリエイティブなソーイングや刺しゅう、キルティングをお楽しみください。また、ホームページ www.bernina.com で、多彩なアクセサリーについての情報や、無料でダウンロードできる作品の作り方などをぜひご覧ください。

経験豊富なベルニナ正規販売代理店が、皆様のアフターサービスを担当いたします。

ユーザーの皆様が新しいベルニナミシンでクリエイティブな時間を楽しんでいただけますよう、心から願っております。

H.P. ウルチ

オーナー

ベルニナインターナショナル株式会社

CH-8266 シュテックボルン

目次

安全上の注意事項	9	2.6 送り歯	32
重要事項	11	送り歯の調整	32
1 マイベルニナ	13	2.7 ソーイングテーブル	32
1.1 イントロダクション	13	ソーイングテーブルを取り付ける	32
1.2 ベルニナの品質管理について	13	2.8 押え金	32
1.3 ベルニナの世界へようこそ	13	押え上げレバーで押え金の位置を変える	32
1.4 ミシンについて	15	押え金を交換する	33
前面部 操作部分名称	15	ユーザーインターフェースで押え金を選択する	33
前面部名称	16	押え圧の設定	34
側面部名称	17	2.9 送り歯の調整	34
各部の名称（後）	18	2.10 針と針板	34
1.5 付属アクセサリー	18	針を交換する	34
アクセサリーについて	19	ユーザーインターフェースで針を選択する	34
押え金について	20	針の種類と針のサイズの確認	35
アクセサリーボックス	21	針位置 上／下を設定する	35
1.6 ユーザーインターフェースについて	21	針基線 左／右を設定する	35
機能／表示について	21	針停止 上／下（常時）を設定する	36
システム設定について	22	針板を交換する	36
ソーイング選択メニューについて	22	針板をユーザーインターフェースで選択する	36
ソフトウェアの操作	22	2.11 糸をかける	37
1.7 針、糸、布地	24	上糸をかける	37
針について	24	二本針に糸を通す	39
針の種類	27	三本針に糸を通す	40
糸の選択	27	下糸を巻く	40
針と糸の組み合わせ	27	下糸をかける	41
2 ソーイングの準備	28	下糸をかける	43
2.1 初めてミシンをご使用になる前に	28	3 セットアッププログラム	44
2.2 アクセサリーボックス	28	3.1 ソーイング機能の設定	44
アクセサリーボックスの取り外しと取り付け	28	上糸調子を設定する	44
アクセサリーを保管する	28	ソーイングスピードの最高速度を設定する	44
2.3 接続と電源	29	留め縫いを設定する	44
フットコントローラーを接続する	29	糸切りボタンをプログラムする	44
ミシンを電源に接続する	29	留め縫いボタンをプログラムする	45
押え上げレバーを取り付ける	29	返し縫いボタンをプログラムする	45
タッチペンを取り付ける	30	3.2 刺しゅう機能の設定	46
ミシンの電源を入れる	30	上糸調子の設定	46
2.4 フットコントローラー	30	刺しゅうスピードの最高速度を設定する	46
ソーイングスピードをフットコントローラーでコン トロールする	30	開いた時の刺しゅうモチーフの位置を決める	46
2.5 糸立て棒	31	刺しゅう枠の調整	46
収納式糸立て	31	布地の厚さを設定する	47
平行糸立て棒	31	留め縫いを設定する	47
		糸切り機能の設定	48
		単位の変更	48
		3.3 パーソナル画面を設定する	49

3.4	センサー機能	49	ステッチパターンのコンビネーションを反転させる	60
	上糸センサーの設定	49	ステッチパターンのコンビネーションを分割する	61
3.5	操作音の設定をする	49	ステッチパターンのコンビネーションを途中で区切る	61
3.6	ミシンの設定	50	ステッチパターンのコンビネーションを留め縫いする	61
	ミシンの設定	50	模様繰り返し機能を設定する	61
	ディスプレイの明るさを設定する	50	5.6 ステッチパターンを編集する	62
	ソーイングライトの設定	50	ステッチパターン設定を保存する	62
	総ステッチ数を確認する	51	ステッチパターンをユーザーメモリーに保存する	62
	販売店情報を入力	51	ユーザーメモリー内のステッチパターンを上書きする	62
	サービスデータを保存する	51	ユーザーメモリー内にあるステッチパターンを呼び出す	62
	標準設定に戻す	52	ユーザーメモリー内にあるステッチパターンを消去する	63
	ユーザーデータを消去する	52	ステッチパターンをベルニナUSBメモリーに保存する	63
	ベルニナUSBメモリー内のモチーフを消去する	52	ベルニナUSBメモリーからステッチパターンを呼び出す	63
	布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aのキャリブレーション	53	ベルニナUSBメモリーからステッチパターンを消去する	63
	刺しゅう機を収納する	53	5.7 留め縫い	64
4	システム設定	54	「留め縫い」ボタンを押して、留め縫いをする	64
4.1	チュートリアルを開く	54	「留め縫い」アイコンで留め縫いをする	64
4.2	ソーイングアドバイザーを開く	54	5.8 布地の高さを調節する	64
4.3	エコモードについて	54	5.9 角を縫う	64
4.4	ヘルプを開く	54	6 実用縫い	66
4.5	«clr»で変更を取り消す	54	6.1 実用縫い一覧	66
5	クリエイティブなソーイング	55	6.2 直線縫い	68
5.1	ソーイング選択メニューについて	55	6.3 自動留め縫いプログラムで留め縫いをする	68
	ステッチパターンを選択する	55	6.4 ファスナーを縫い付ける	69
5.2	ソーイングスピードを調節する	55	6.5 ファスナーの両側を下から上に縫い付ける	70
5.3	上糸調子を設定する	55	6.6 トリプル直線縫い	70
5.4	ステッチパターンの編集	56	6.7 トリプルジグザグ縫い	71
	振る幅を変更する	56	6.8 マニュアル式繕い縫い	71
	送り長さを変更する	56	6.9 自動繕い縫い	73
	バランスを調整する	56	6.10 自動補強繕い縫い	73
	模様繰り返し機能を設定する	57	6.11 補強の繕い縫い	74
	ステッチパターンを反転させる	57	6.12 布端の処理をする	74
	返し縫い	57	6.13 ダブルオーバーロック	75
	続けて返し縫いをする	57	6.14 布端のトップステッチ（小幅）	75
	バックステップ縫い	58	6.15 布端のトップステッチ（大幅）	75
5.5	ステッチパターンのコンビネーションを作成する	58	6.16 シームガイド（オプションアクセサリ）を使用したトップステッチ	76
	コンビネーションモードについて	58	6.17 裾を縫う	76
	ステッチパターンのコンビネーションを作成する	58		
	ステッチパターンのコンビネーションを保存する	58		
	ステッチパターンのコンビネーションを呼び出す	59		
	ステッチパターンのコンビネーションを上書きする	59		
	ステッチパターンのコンビネーションを消去する	59		
	単独のステッチパターンを編集する	59		
	ステッチパターンの一部を消去する	60		
	単独のステッチパターンを追加する	60		

目次

6.18	まつり縫い	77	9.16	ボタンを縫い付ける	95
6.19	飾りヘムステッチ	78	9.17	アイレットを縫う	96
6.20	フラット縫い	78	10	キルティング	97
6.21	しつけ縫い	79	10.1	キルトステッチについて	97
7	飾りステッチ	80	10.2	キルティング用留め縫いプログラム	97
7.1	飾りステッチについて	80	10.3	手縫い風ステッチを縫う	98
7.2	ボビンマジック	80	10.4	フリーモーションキルティング	98
7.3	クロスステッチ	81	11	ベルニナステッチレギュレーター(BSR)	100
7.4	ピンタック	82	11.1	BSRモード1	100
	ピンタック	82	11.2	BSRモード2	100
	タックフットの概要	82	11.3	BSR機能を直線縫いNo. 1で使用する	100
	アクセントヤーンの引き込み	83	11.4	BSR機能をジグザグ縫いNo. 2で使用する	100
	ピンタックを縫う	84	11.5	キルティングの準備をする	100
8	アルファベット	85		BSR押えを取り付ける	100
8.1	アルファベットについて	85		押え底を交換する	101
8.2	文字列を入力する	85	11.6	BSRモードを使用する	101
8.3	文字の大きさを変更する	86	11.7	留め縫い	102
9	ボタンホール	87		BSRモード1で、「スタート/ストップ」ボタンを使 用して留め縫いする	102
9.1	ボタンホール	87		BSRモード2での止め縫い	102
9.2	高さ調節板を使用する	88	12	マイベルニナ刺しゅう	103
9.3	ボタンホール用布送りサポートを使用する	88	12.1	刺しゅう機について	103
9.4	ボタンホールの印をつける	89	12.2	刺しゅう機付属アクセサリー	103
9.5	ボタンホール芯	89		刺しゅう機の付属アクセサリーについて	103
	コード芯を布ガイド付き自動ボタンホール押え #3A と一緒に使用します	89	12.3	ユーザーインターフェースについて	104
	ボタンホール芯をボタンホール押え #3Cと一緒に使 用します	90		機能/表示について	104
9.6	試し縫いをする	91		システム設定について	105
9.7	ボタンホールの穴幅を設定する	92		刺しゅう選択メニューについて	105
9.8	布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを使用 して、ボタンホールの大きさを決めます	92	12.4	刺しゅうについての重要事項	105
9.9	ボタンホール押え#3Cを使用して、ボタンホール の大きさを決めます	92		上糸	105
9.10	ボタンホールを自動で縫う	93		下糸	106
9.11	手縫い風ボタンホールをプログラムする	93		刺しゅうデータフォーマットの選択	106
9.12	ボタンホール押さえ#3Cを使用して、手動7ステ ップボタンホールを縫います	93		試し縫い	106
9.13	ボタンホール押さえ#3Cを使用して、手動5ステ ップボタンホールを縫います	94		刺しゅうモチーフの大きさ	106
9.14	ボタンホールをシームリッパーで切り開く	95		サードパーティーからのモチーフを刺しゅうする	106
9.15	ボタンホールカッター（オプションアクセサリ ー）でボタンホールを切り開く	95		アンダーレイステッチ	107
				サテンステッチとリーフステッチ	107
				たたみ縫い	107
				つなぎステッチ	108
			13	刺しゅうの準備	109
			13.1	刺しゅう機を取り付ける	109
			13.2	刺しゅう機を取り外す	109
			13.3	ミシンの準備をする	109

送り歯を下げる	109	刺しゅうモチーフを移動する	121
刺しゅうモチーフを選択する	109	刺しゅうモチーフを回転させる	121
13.4 刺しゅう押え	110	刺しゅうモチーフの大きさを比例的に変更する	121
刺しゅう押えを取り付ける	110	刺しゅうモチーフの大きさを変更する	122
刺しゅう押えをユーザーインターフェースで選択する	110	刺しゅうモチーフを反転させる	122
13.5 針と針板	111	ステッチの種類を変更する	123
刺しゅう針を取り付ける	111	ステッチの密度を変更する	123
刺しゅう針をユーザーインターフェースで選択する	111	刺しゅうモチーフの大きさと位置を確認する	123
針の種類と針のサイズの確認	111	刺しゅうモチーフを複製する	124
針位置 上／下を設定する	112	刺しゅうモチーフを削除する	124
針板を取り付ける	112	15.6 刺しゅうモチーフのコンビネーション	124
針板をユーザーインターフェースで選択する	112	刺しゅうモチーフのコンビネーション	124
下糸を上を持ってくる	113	刺しゅうモチーフを一つずつ消去する	125
13.6 刺しゅう枠	113	コンビネーションを複製する	125
刺しゅう枠の表示について	113	15.7 文字列を作成する	126
刺しゅう枠を選択する	113	刺しゅう文字一覧	126
破り取る安定紙	113	レタリングの作成	126
切り取る安定紙	114	レタリングの編集	127
スプレーのりを使用する	114	15.8 刺しゅうモチーフの色を変更する	127
スプレー洗濯のりを使用する	114	色の変更について	127
アイロン接着芯を使用する	114	色の変更	127
のり付き安定紙を使用する	114	糸メーカーを変更する	127
水溶性安定紙を使用する	114	15.9 刺しゅうモチーフを刺しゅうする	128
刺しゅう枠を準備する	114	刺しゅうメニュー一覧	128
刺しゅう枠を取り付ける	115	しつけ縫いステッチを追加する	128
刺しゅう機能について	116	刺しゅう枠の移動	128
針が中心になる位置に刺しゅう枠を移動する	116	糸切れの際に刺しゅうの工程を確認する	128
刺しゅう枠を後ろへ移動する	116	つなぎステッチを切る	129
刺しゅう機を待機させる	117	色換えの頻度を少なくする	129
グリッド線の表示／非表示	117	複数色の刺しゅうモチーフ オン／オフ	129
刺しゅうモチーフの中心を選択する	117	色表示	129
刺しゅう枠の位置を仮に決める	117	15.10 フリーアーム刺しゅう	129
14 セットアッププログラム	118	15.11 刺しゅうモチーフの管理	130
14.1 刺しゅう機能の設定をセットアッププログラムで 変更する	118	刺しゅうモチーフの管理について	130
15 クリエイティブな刺しゅう	119	刺しゅうモチーフをユーザーメモリーに保存する	130
15.1 刺しゅうについて	119	刺しゅうモチーフをベルニナUSBメモリーに保存する	130
15.2 刺しゅうモチーフの選択と呼び出し	119	ユーザーメモリーの刺しゅうモチーフを上書きする	131
15.3 刺しゅう時間と刺しゅうモチーフの大きさを確認 する	119	ベルニナUSBメモリーの刺しゅうモチーフを上書き する	131
15.4 ソーイングスピードを調節する	119	ステッチパターンを取り込む	131
15.5 刺しゅうモチーフを編集する	119	刺しゅうモチーフをユーザーメモリーから呼び出す	132
刺しゅうモチーフの編集について	119	刺しゅうモチーフをベルニナUSBメモリーから呼び 出す	132
刺しゅうモチーフ表示の拡大	120	ユーザーメモリーの刺しゅうモチーフを消去する	132
刺しゅうモチーフを縮小する	120	ベルニナUSBメモリーの刺しゅうモチーフを消去す る	132
刺しゅうモチーフの表示を移動する	120	16 刺しゅうをする	133
拡大した刺しゅうモチーフ表示を移動する	120	16.1 «スタート／ストップ»ボタンを使って刺しゅうを する	133

目次

16.2	刺しゅうスピードを速くする	133
16.3	上糸調子を設定する	133
16.4	フットコントローラーを使って刺しゅうをする ...	134
17	お手入れとメンテナンス	135
17.1	ファームウェア	135
	ファームウェアのバージョンを確認する	135
	ファームウェアを更新する	135
	保存したデータを復元する	135
17.2	ミシン	136
	ディスプレイを掃除する	136
	送り歯を掃除する	136
	釜を掃除する	137
	釜に注油をする	137
	糸くず入れの掃除	139
18	エラーと故障	140
18.1	エラー表示	140
18.2	トラブルシューティング	144
19	収納と処分	147
19.1	ミシンを収納する	147
19.2	ミシンを処分する	147
20	機械仕様	148
21	パターンについて	149
21.1	ステッチパターン一覧	149
	実用縫い	149
	ボタンホール	149
	飾り縫い	149
	キルトステッチ	151
21.2	刺しゅうモチーフ一覧	151
	刺しゅうモチーフを編集する	151
	キルトモチーフ	152
	飾りステッチ	152
	花	153
	キッズ	153
	季節	154
	ホビーとスポーツ	155
	動物	156
	ボーダーとレース	156
	フレーム	157
	DesignWorks	157
	索引	158

安全上の注意事項

当製品を使用するときは、次の基本的な安全上の注意に従ってください。当製品をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読んでください。

危険性

感電防止のため、必ず以下の注意事項にご注意ください。

- ・ ミシンが電源に接続されている間は、絶対にミシンを放置しないでください。
- ・ 使用後すぐ、また清掃前には、ミシンの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

怪我の防止のため、以下の注意事項を厳守してください。

- ・ スイッチが入った状態のLEDランプを光学機器（拡大鏡など）で直接見てはいけません。
- ・ LEDランプの破損、欠陥等がある場合は、最寄りのBERNINAでLEDランプの点検または修理を受けてください。
- ・ 針周りの作業を行う前に、ミシンのスイッチを切ってください。
- ・ ミシンを起動する前に、カバーをすべて閉じてください。

警告

火傷、火災、感電、人身事故を防ぐため、以下の注意事項を厳守してください。

一般事項

- ・ 本製品は、本取扱説明書に記載された目的以外では使用しないでください。

使用環境

- ・ 本製品は屋外で使用しないでください。
- ・ 本製品は乾燥した室内でのみご使用ください。
- ・ 本製品は湿気のある場所では使用しないでください。
- ・ プロペラントガス製品（スプレー）を使用している室内で、本製品を使用しないでください。
- ・ 酸素を使用している室内で、本製品を使用しないでください。

技術的条件

- ・ 本製品は、湿気のある条件下では絶対に使用しないでください。
- ・ 本製品が正常に動作していない場合は、本製品を使用しないでください。
- ・ ケーブルやプラグが損傷している場合は、本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品を落としたり、破損したり、水に落としたりした場合は、本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品が破損したり、正常に動作しない場合は、最寄りのBERNINA販売店で本製品の点検または修理を受けてください。
- ・ 本製品のすべての通気孔とフットコントローラーに糸くずやほこり、布地のごみが付いていないようにしてください。
- ・ 通気孔が塞がっている場合は、本製品を使用しないでください。

アクセサリ・消耗品

- ・ ベルニナ社がお勧めするアクセサリのみをご使用ください。
- ・ 必ず純正のBERNINA針板を使用してください。
不適切な針板を用いると、針折れの原因になります。
- ・ 品質の高い直針のみを使用してください。
曲がった針や破損した針は、針折れの原因となります。
- ・ 本製品は二重絶縁されています（アメリカ、カナダ、日本を除く）。
純正のスペアパーツのみを使用してください。二重絶縁された製品のメンテナンスに関する注意事項を守ってください。
- ・ 本製品の潤滑油としては、BERNINA推奨のオイルのみをご使用ください。

適切な使用

- ・ 本製品は、8歳以上のお子様、身体的、感覚的、精神的能力が低下している方、または経験や知識が不足している方にご使用、清掃、メンテナンスを行っていただくことが可能です。
- ・ このような方は、本機を使用する際に監督を受ける、または本製品の安全な使用方法とそれに伴う危険性について認識していることが必要となります。
- ・ ミシンはお子様の手の届かないところへ保管してください。

安全上のご注意

- ・ 本製品をお子様が使用される場合や、お子様がいらっしゃる場面で使用される場合には、特に注意が必要です。
- ・ 本製品に付属の電源コード以外は使用しないでください。
- ・ アメリカ合衆国およびカナダ用の電源コード（NEMA 1-15型プラグ）は対地電圧150V以下でご使用ください。
- ・ 本機を原産国以外の国で使用する場合は、その国に適した電源コードをBERNINA の販売店から入手する必要があります。
- ・ 本製品に付属のフットコントローラー型式 LV-1 以外は使用しないでください。
- ・ ミシンの隙間からものを差し込んだりしないでください。
- ・ フットコントローラーの上に物を置かないでください。
- ・ 縫製中は徐々に布地を動かすようにしてください。
布地を引っ張ったり押したりすると、針が折れる場合があります。
- ・ ミシンの可動部分に触らないようご注意ください。
- ・ 針周辺については特にご注意ください。
- ・ 針に糸を通す、針を交換する、釜に糸を通す、押え金を交換するなど、針周りの作業を行う際には、ミシンのスイッチを切ってください。
- ・ スイッチを切るには、メインスイッチを0にします。
- ・ 保護カバーを外したり開けたりするとき、機械に注油するとき、または本取扱説明書に記載されているその他の清掃やメンテナンス作業を行うときは、本製品のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・ 電源プラグをコンセントから外す際には、プラグを持って引き抜いてください。コードを引っ張らないようにしてください。

ミシンの安全記号

記号	意味
	注意: 機械を操作する前に、ドア、蓋、カバーを閉めてください。 可動部分に注意。怪我のリスクを軽減するために、修理の前にミシンの電源を切ってください。カバーを装着する。

重要事項

取扱説明書について

取扱説明書はミシンの一部です。



- ・ 取扱説明書はミシンと一緒に保存し、ミシンを使用する際には常に読めるようにしてください。
- ・ ミシンを第三者に譲渡する場合には、必ず取扱説明書を添えてください。
- ・ 最新版の取扱説明書はwww.bernina.comからダウンロードできます。

使用目的について

ご使用のBERNINAミシンは、ご家庭での私的利用を目的として設計されています。取扱説明書に記載されている素材、生地へのソーイングに使用してください。その他の使用方法是当ミシンの使用目的に適用されず、それにより生じた損害において、ベルニナはその責を一切負いません。

設備と納入範囲

このマニュアルでは、説明のためにサンプル画像が使われています。図に表示されたミシンと付属品はミシンの実際の納品範囲と必ずしも一致しません。付属のアクセサリーの仕様は国により異なります。納品範囲に含まれない言及または表示された付属品は、オプションアクセサリーとしてBERNINA販売代理店で入手できます。付属品の詳細は、www.bernina.comをご参照ください。

技術的理由並びに製品改善の目的で、機械の装備と納入範囲に関する変更は、いつでも事前の通知なしに行われる可能性があります。

二重絶縁構造の製品のサービスについて：

二重絶縁構造の製品には、アースをとる方法の代わりに、二種類の絶縁方法が採用されています。二重絶縁構造の製品にはアースはなく、また取り付けの必要もありません。二重絶縁構造の製品のメンテナンスには細心の注意と豊富な知識が必要です。資格のある専門の方のみが行ってください。メンテナンス・修理の際には純正部品のみを使用してください。製品には「二重絶縁」または「二重絶縁構造」と表示されています。



二重絶縁構造の製品にはこの表示がされています。

環境保護について

ベルニナインターナショナル株式会社は環境保護に準拠することを宣言しています。私達は製品の製造に当たって、製品デザインの改良、技術革新などによって製品が環境に与える影響を最小限にする努力を常に行っております。



ミシンにはゴミ箱マークが記載されています。つまり、処分することとなった場合には、家庭ごみといっしょに処分しないでください。電化製品を不適切な方法で廃棄すると、有害物質が流出することがあり、それが地下水を汚染し、食物連鎖によってやがて自分自身の健康を害することになります。

当製品が不要になった場合には、お住まいの地域のルールに従って処分、リサイクルをしていただけますようお願い申し上げます。詳しい処分方法につきましては、お住まいの市町村にお尋ねください。新しいミシンをお求めの際には、販売店で古いミシンを回収している場合もありますので、お尋ねください。

ミシンを処分される際には、あらかじめユーザーデータを消去してから処分してください。

重要事項

記号について



危険

誤った扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が非常にあります。



警告

誤った扱いをすると、重症を負う危険があります。



注意

誤った扱いをすると、軽症から中度の傷害を負う危険があります。

注意

誤った扱いをすると、物的損害が発生する恐れがあります。



ベルニナソーイングエキスパートからのヒントです。

1 マイベルナ

1.1 イン트로ダクション

BERNINA 540があれば、縫製、刺しゅう、キルティングの作業が可能になります。シルクやサテンのような薄地から、麻、フリースそしてデニムなどの厚地まで、さまざまな布地を縫うことができます。多彩な実用縫いステッチ、飾りステッチ、ボタンホールや刺しゅうモチーフが搭載されています。

当ミシンは、取扱説明書に加えて次のようなサポートツールを備えており、BERNINA 540を使用する際にいつでも詳細情報やサポートを提供します。

チュートリアルでは、ソーイングや刺しゅう、およびさまざまなステッチに関する情報や説明を見ることができます。

ソーイングアドバイザーでは、作品製作のお手伝いをします。布地と縫いたいものを入力すると、適した針とそれに合う押え金などの提案が表示されます。

ヘルププログラムでは、ステッチパターン、機能およびユーザーインターフェースの使用方法について表示します。

その他の情報について



取扱説明書では、この他にもご使用のBERNINA 540についての製品情報を記載しています。

取扱説明書の最新バージョンとミシンやアクセサリに関するその他の情報は弊社ウェブサイト <https://www.bernina.com> からご覧ください。

1.2 ベルニナの品質管理について

全てのベルニナミシンは、細心の注意を払って製造しており、様々な機能の検査を実施しています。製品検査の工程でソーイングのテストをするため、内蔵のステッチカウンターはすでに数ステッチをカウントしています。製品検査の後、ミシンのクリーニングを行っていますが、まれに糸くずなどが残ってしまう場合があります。

1.3 ベルニナの世界へようこそ

ベルニナのスローガンはMade to createです。ミシンだけではなく、私たち自身もあなたのアイディアを形にするお手伝いをします。下記のオファーに加えて、お客様の今後のプロジェクトのために多くの提案や指示、および他のソーイングやキルティング、刺しゅうの愛好家とアイディアを交換する機会も提供しています。ぜひご利用ください。

ベルニナYouTubeチャンネル



YouTubeでは、多数の使用法のビデオや、ミシンの重要な機能についてのサポートを提供しています。あなたのプロジェクトがうまく完成するよう、多数の押え金についても詳しい説明が見つかります。

www.youtube.com/BerninaInternational

英語、ドイツ語。

«インスピレーション» – クリエイティブなソーイングマガジンと型紙のオンラインショップ



次の作品のアイディアやパターン、作り方をお探しですか？ベルニナマガジン«インスピレーション»は、まさにあなたにうってつけです。「インスピレーション»は、ソーイング、刺しゅうの素晴らしいアイディアを、年に3回提供します。その季節ごとに流行のファッションやアクセサリ、また実用的なヒントから、独創的なホームデコレーション、および子ども用のかわいいソーイングアイデアまで幅広くご紹介します。

ソーイングマガジンは英語、ドイツ語、オランダ語、フランス語で発行されています。

弊社オンラインショップにて、「インスピレーション»のEメールマガジンか冊子を購入できます。単独購入または定期購読も可能です。それに加えてたくさんのダウンロード可能なソーイングパターンを見つけることができますよ！inspiration.bernina.com をご覧になり、Instagram ([inspiration.sewing.magazine](https://www.instagram.com/inspiration.sewing.magazine)) をフォローしてください。

BERNINAブログ



洗練された説明書、無料の裁断パターン、刺しゅうテンプレートだけでなく、多数の新しいアイディア – これらはみな、ベルニナのブログで毎週新たに見つかります。私たちのエキスパートが役に立つコツなどをわかりやすく説明します。コミュニティでは、自分のプロジェクトをアップロードして、他のソーイング、キルティング、刺しゅう愛好家たちとアイディアの交換ができます。

www.bernina.com/blog

英語、ドイツ語、オランダ語、フランス語。

BERNINAソーシャルメディア



ソーシャルネットワークでフォローし、イベントやエキサイティングなプロジェクト、そしてソーイングやキルティング、刺しゅうについてのヒントとコツをもっと学びましょう。またベルナナの様々な最新情報をお伝えしていきます。

www.bernina.com/social-media

ベルナワールドアプリ



App Storeからベルナワールドアプリをスマートフォンにダウンロードすると、すべての製品情報に直接アクセスできます。アクセサリーオーガナイザーを使用すると、お持ちのアクセサリーとまだ必要なアクセサリーの概要がわかります。また、カスタマーポータル、ブログ、「インスピレーション」オンラインショップに直接アクセスでき、お近くの販売店をいつでも見つけることができます。このアプリは、Apple App Storeおよび Google Play Storeで入手できます。こちらから直接リンクをご利用いただけます：www.bernina.com/app

1.4 ミシンについて

前面部 操作部分名称



- 1 «返し縫い»
- 2 «糸切り»
- 3 «留め縫い»
- 4 «スタート/ストップ»
- 5 «スピードコントローラー»
- 6 «模様終わり»

- 7 «針位置 上/下»
- 8 押え金圧力
- 9 «多機能ボタン 上»
- 10 «多機能ボタン 下»
- 11 «針位置 左/右»

前面部名称



- | | | | |
|---|----------|----|--------------|
| 1 | 刺しゅう機接続部 | 8 | 天秤保護カバー |
| 2 | 釜カバー | 9 | 天秤 |
| 3 | 押え金 | 10 | 糸切り |
| 4 | 糸通し | 11 | 針止めネジ |
| 5 | ソーイングライト | 12 | ソーイングテーブル取付部 |
| 6 | 糸切り | 13 | 押え上げレバー取付部 |
| 7 | 押え金圧力 | | |

側面部名称



- 1 フットコントローラー接続部
- 2 «送り歯 上/下»
- 3 サービス接続部
- 4 USB接続部
- 5 糸立て
- 6 下糸巻きレバー

- 7 収納式糸立て
- 8 通気溝
- 9 はずみ車
- 10 電源
- 11 電源コード用ソケット
- 12 タッチペン用マグネット式ホルダー

各部の名称（後）



- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 通気溝 | 9 下糸巻き装置 |
| 2 ソーイングテーブル取付部 | 10 ボビン巻き取り器プリテンショナー |
| 3 繕い縫いアタッチメント取付部 | 11 天秤 |
| 4 押え上げレバー | 12 糸ガイド |
| 5 キャリングハンドル | 13 糸切り |
| 6 糸立て | 14 BSR接続部 |
| 7 糸ガイド | 15 送り歯 |
| 8 収納式糸立て | 16 針板 |

1.5 付属アクセサリー



付属およびオプションのアクセサリに関する詳細情報とアプリケーションノートは、こちらでご覧いただけます：www.bernina.com/540#!accessories

アクセサリーについて

図	名称	用途
	保護カバー	ほこりや汚れからミシンを保護します。
	ベルニナアクセサリーボックス	付属アクセサリーおよびオプションアクセサリーを保管します。
	押え上げレバー／フリーハンドシステム(FHS)	押え金を上げ下げすることができます。
	ソーイングテーブル	作業スペースの拡大に。
	糸こま押さえ	糸こまから均等な糸送りができます。
	B9釜のボビン 4つ	下糸を巻く為のアクセサリーです。
	糸こまクッション 2つ	糸こまクッションは、糸巻きの糸がズレたり、もつれたり、切れたりするのを防ぎます。
	タッチペン	タッチディスプレイの正確な操作に。
	シームリッパー	縫い目を解いたり、ボタンホールを作る際に使用します。
	高さ調節板	布地の厚みの差を補い、押え金が斜めになるの防ぎ、布の動きをスムーズにします。

図	名称	用途
	標準針セット	すべての用途に。
	赤色の小型ドライバー（マイナス）	マイナスネジ用ドライバー。
	ブラシ	送り歯や釜周辺を掃除する際に使用します。
	ミシン油	ミシン注油のため
	電源コード	ミシンと電源を接続します。
	フットコントローラー	ミシンをスタート、ストップさせます。 ミシンのスピードをコントロールします。

押え金について

付属の標準押え

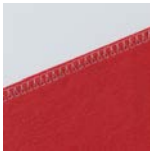
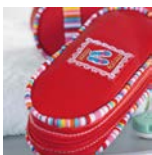
図	番号	名称	用途	例
	#1C	標準押え	様々な実用および飾りステッチに。 前進および後進縫いに。	
	#2A	オーバーロック縫い押え	伸縮性のある素材の端縫いに。	
	#3A	布ガイド付き自動ボタンホール押え	ボタンホールの自動縫製に	

図	番号	名称	用途	例
	#4	ファスナー押え	ファスナーの縫い付けに。	
	#20C	オープン刺しゅう押え	アップリケおよび飾りモチーフを縫う際に。	

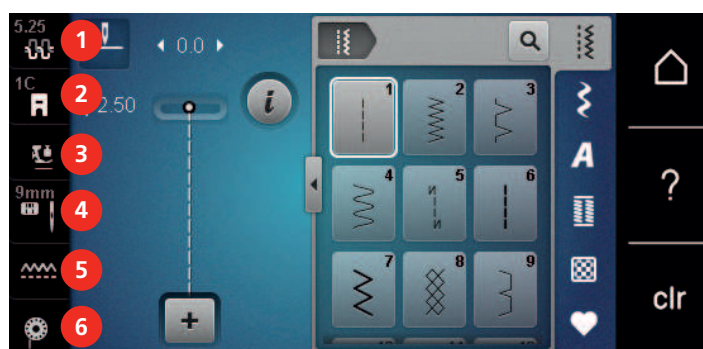
アクセサリボックス



- | | |
|-----------|-------------------------------|
| 1 引き出し | 5 糸こまクッション |
| 2 押え金 | 6 布ガイド付き自動ボタンホール押え |
| 3 ボビンホルダー | 7 標準針セット |
| 4 糸こま押え | 8 5.5 mm および 9.0 mm の押え金用ホルダー |

1.6 ユーザーインターフェースについて

機能／表示について



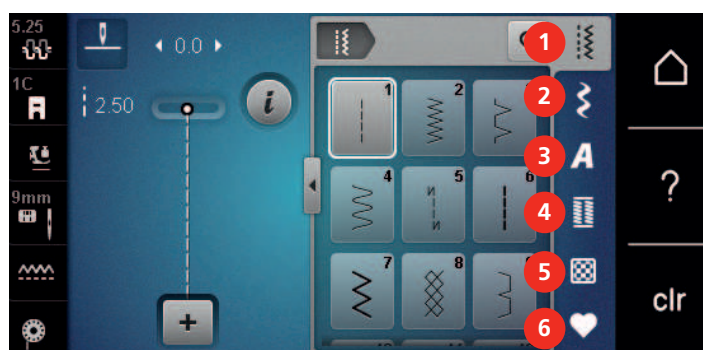
- | | |
|-------------------|--------------|
| 1 <<上糸調子>> | 4 <<針板／針選択>> |
| 2 <<押え金表示／押え金選択>> | 5 <<送り歯表示>> |
| 3 <<押え金圧力>> | 6 <<下糸>> |

システム設定について



- | | | | |
|---|--------------------------|---|----------|
| 1 | 《ソーイングモード》 | 6 | 《エコモード》 |
| 2 | 《刺しゅうモード》 | 7 | 《ホーム》 |
| 3 | 《セットアッププログラム》 | 8 | 《ヘルプ》 |
| 4 | 《チュートリアル》 | 9 | 《設定をクリア》 |
| 5 | 《ソーイングアダプター》/《刺しゅうアダプター》 | | |

ソーイング選択メニューについて



- | | | | |
|---|-----------|---|--------------|
| 1 | 《実用縫い》 | 4 | 《ボタンホール》 |
| 2 | 《飾りステッチ》 | 5 | 《キルトステッチ》 |
| 3 | 《アルファベット》 | 6 | 《パーソナルプログラム》 |

ソフトウェアの操作

タッチ画面は指または入力棒を使って操作可能です。

タップ 要素を短くタッチします。

スワイプ：アイコンに触れてそのまま素早く画面を滑らせるようにします。

スクロール 画面をタッチし、ゆっくりと一定方向に動かします。例えば上下にスクロールすることができます。

ナビゲーション

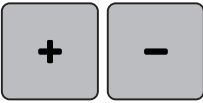
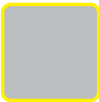
図	名称	用途
	《ホーム》	《ホーム画面》を表示します。
	ナビゲーション・パス	前のメニューレベルを表示します。

図	名称	用途
	«閉じる»	ウィンドウを閉じます。
	その他	その他の機能や情報を表示します。
	次へ	通知を次へスクロールします。
	戻る	通知を前へスクロールします。

機能のアクティブ化/非アクティブ化

図	エレメント	ステータス
	スイッチ	機能はアクティブ化されました。
		機能は非アクティブ化されました。
	アイコン	機能は非アクティブ化されました。
		機能はアクティブ化されました。

値の調整

図	名称	用途
	スライダー	コントローラーで値を調整します。 小さな点をタップして、値を基本値にリセットします。
	アイコン«プラス» / «マイナス»	値は «プラス» で増加し、 «マイナス» で減少します。
	黄色のフレーム	設定値がデフォルト値と異なることを示します。 タップして値を基準値にリセットします。

テキストと数字の入力

数値とテキストの入力用に、対応するキーボードが表示されます。



図	名称	用途
	入力フィールド	入力値を表示します。 タップして、入力されたすべての文字を削除します。
	«消去»	最後の文字を消去します。
	«小文字»	使用可能なアルファベットを小文字で表示します。
	«大文字»	使用可能なアルファベットを大文字で表示します。
	«数字および数学記号»	使用可能な数字と数学記号を表示します。
	«特殊文字»	使用可能な特殊文字を表示します。
	«決定»	入力を確定し、サブメニューを終了します。
	«キャンセル»	入力をキャンセルし、ビューウィンドウを閉じます。

1.7 針、糸、布地

時間の経過とともに、針は摩耗します。そのため、定期的に交換する必要があります。美しい縫い目を作るには、完璧な針先が必要です。一般的には、生地が薄ければ薄いほど、針も細くする必要があります。ここに掲載されている針は、ミシンによって標準またはオプションの付属品となります。

- ・ 針サイズ 70、75：薄手の布地に適しています。
- ・ 針サイズ 80、90：中程度の厚さの布地に適しています。
- ・ 針サイズ 100、110、120：厚手の布地に適しています。

針について

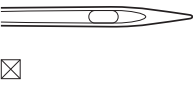
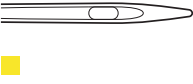
図	針の名称	針の特徴	用途
	標準針 130/705 H 60/8 – 120/19	少し丸みを帯びた先端。	織物（ライト、ミディアム、ヘビー）、ニット地、レザー、合成素材、ジーンズ/デニムに。天然および合成繊維に。 縫製全般、ボタン、ボタンホール、ファスナー、裾、トップステッチ、飾り縫い、刺しゅう、パッチワーク、キルティングに。
	ストレッチ針 130/705 H-S 75/11 – 90/14	中ボールポイント。	ニット地（ジャージー、トリコット、ニットおよびストレッチ素材）に。 縫製全般、ボタン、ボタンホール、ファスナー、裾、トップステッチ、飾り縫い、刺しゅうに。

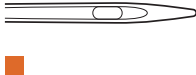
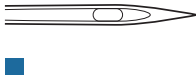
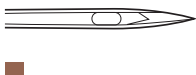
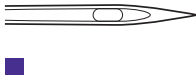
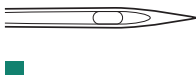
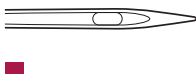
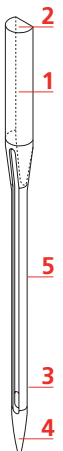
図	針の名称	針の特徴	用途
	ジャージー／刺しゅう針 130/705 H SUK 80/12	中ボールポイント。	織物（ライト、ミディアム、ヘビー）、ニット地、合成素材に。 縫製全般、ボタン、ボタンホール、ファスナー、裾、トップステッチ、飾り縫い、刺しゅうに。
	ジーンズ用針 130/705 H-J 80/12 – 110/18	細くとがった先端。	織物（ライト、ミディアム、ヘビー）、レザー、ジーンズ／デニムに。 縫製全般、ボタン、ボタンホール、ファスナー、裾、トップステッチ、飾り縫い、刺しゅう、パッチワークに。
	皮革用針 130/705 H LR 90/14, 100/16	カッティングチップ（LR＝右レザーチップ）。	レザー、合成皮革、または類似の素材に。 ファスナー、裾、トップステッチ、滑りにくい素材に。
	マイクロテックス用針 130/705 H-M 60/8 – 110/18	特に細くとがった先端。	織物（ライト、ミディアム、ヘビー）、合成素材、滑りにくい素材に。シルク、マイクロファイバー生地、フィルムシート、コーティングされた滑りにくい素材に。 縫製全般、ボタン、ボタンホール、ファスナー、裾、トップステッチ、飾り縫いに。ヘムをトップステッチする際の特に直線的なステッチに。
	キルティング針 130/705 H-Q 75/11 – 90/14	特に細い、少し丸みを帯びた先端。	織物用（ライト、ミディアム、ヘビー）。 飾り縫い、パッチワーク、キルティングに。キルティングやパッチワークなどキルティング／ステッチ作業用。
	刺しゅう針 130/705 H-E 75/11 – 90/14	小ボールポイント、幅広い針穴と糸溝。	織物（ライト、ミディアム、ヘビー）、ニット地に。太糸、毛糸に。 縫製全般、ボタン、ボタンホール、ファスナー、裾、トップステッチ、飾り縫い、刺しゅうに。

図	針の名称	針の特徴	用途
 	薄地用針 130/705 H SES 70/10 – 90/14	小ボールポイント。	ベルベットなど繊細でデリケートな素材に。 縫製全般、ボタン、ボタンホール、ファスナー、裾、トップステッチ、飾り縫い、刺しゅう、パッチワーク、キルティングに。
 	金属糸用針 130/705 H METAFIL 80/12	中ボールポイント、2mmの針穴。	織物（ライト、ミディアム、ヘビー）、ニット地に。特殊な加工の糸、特に金属糸の処理用に。 金属糸での刺しゅうに。裾、トップステッチ、飾り縫い、刺しゅうに。
 	補修用針 130/705 H-N 80/12 – 100/16	中ボールポイント、2mmの針穴。	織物用（ライト、ミディアム、ヘビー）。 裾、トップステッチ、飾り縫い、刺しゅうに。複数のミシン糸を使用した飾り縫いやトップステッチ、再刺しゅうに。
	フェルティング用針 PUNCH	小さなバーブ付き。	織物（ライト、ミディアム、ヘビー）、ジーンズ／デニムに。 各種ヤーンや糸の基布へのフェルト化に。
 	縁飾り縫い用針 130/705 H WING 100/16, 120/20	翼状の針刃付き。	織物用（ライト、ミディアム、ヘビー）。 ヘムステッチ刺しゅうの特殊効果に。
 	標準二本針 130/705 H ZWI 70-100	針の幅：1,0/1,6/2,0/2,5/3,0/4,0/6,0/8,0	ストレッチ素材の裾やピンタック、飾り縫いに。
 	ストレッチ素材用二本針 130/705 H-S ZWI 75	針の幅：2,5/4,0	ストレッチ素材の裾やピンタック、飾り縫いに。
 	ヘムステッチ用二本針 130/705 H ZWIHO 100	針の幅：2,5	ヘムステッチ刺しゅうの特殊効果に。
 	標準三本針 130/705 H DRI 80	針の幅：3,0	ストレッチ素材の裾や飾り縫いに。

針の種類

家庭用ミシンで使われる130/705システムの針について、以下のジャージー／ストレッチ針の図を例に挙げて説明します。

	130/705 H-S/70 130 = 針の柄の長さ(1) 705 = 針の柄の後部が平らになっている(2) H = 糸穴(3) S = 針先の形状（この例では中程度のボールポイント）(4) 70 = 針の番手（柄の太さ）0.7 mm (5)
---	---

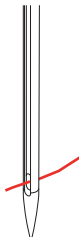
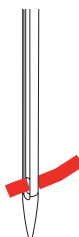
糸の選択

仕上がりをよりよくするためには、針、糸および布地の質が重要です。

よりよい作品を作っていただくために、高品質な糸を使用されることをお勧めします。

- ・ コットン糸（木綿糸）は天然繊維を使用した糸で、綿素材の布地を縫う際に最適です。
- ・ シルケット加工されているコットン糸は、軽く光沢があり、洗濯をしても変わりません。
- ・ ポリエステル糸は耐久性が高く、特に色あせない性質を持っています。
- ・ ポリエステル糸はコットン糸より伸縮性があり、強度や伸縮性が必要な作品に適しています。
- ・ レーヨン／ビスコース糸は天然繊維を使った、非常に光沢のある糸です。
- ・ レーヨン／ビスコース糸は飾り縫いに適していて、仕上がりが美しくなります。

針と糸の組み合わせ

	ソーイングの際に、糸が針の溝と糸穴を緩過ぎず、きつ過ぎず、すっと通れば、正しい糸と針の組み合わせになり、最適な縫い目で縫うことができます。適正に縫うことができます。
	糸が細すぎると、溝と糸穴の中で糸が不安定になり、糸が切れたり、縫い目が乱れたりします。
	糸が太すぎると、糸が溝の端とすれたり、糸穴を滑らかに通らないので、糸が切れたり、絡んだりします。

2 ソーイングの準備

2.1 初めてミシンをご使用になる前に



ベルナナでは、初めて機械を使用する前や長期間使用しなかった後には、釜にオイルを塗ることをお勧めしています。(参照ページ: 137)

釜にオイルを塗ることで、釜部での不要なノイズの発生を防ぐことができます。

2.2 アクセサリーボックス

アクセサリーボックスの取り外しと取り付け

アクセサリーボックスは4つのマグネットでミシンに取り付けます。取り付けの際にはアクセサリーボックスの引き出しを中に入れます。

- > キャリングハンドルを上を持ち上げます。
- > アクセサリーボックスを軽く手前に引っ張り、取り外します。



- > アクセサリーボックスを閉じます。
- > アクセサリーボックスの裏面をミシン側に向けて、取り付けます。

アクセサリーを保管する



- > (1) には、ボビン、押え金および針を収納します。
- > 小さい部品は、引き出し (2) に保管します。
- > ボビンは、銀色のセンサー部分が右側にくるように (3) に入れます。
- > ボビンを取り出すには、スプリングボタンを押し下げます。
- > 小から中くらいの糸こま押えをピン (4) に差し込みます。
- > 糸こまクッションをコンパートメント (5) に保管します。
- > 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを収納部 (6) に格納します。
- > 付属の針セットは、(7) に保管します。
- > 押え金を台座 (1) (5.5 mm または 9.0 mm) に保管します。

2.3 接続と電源

フットコントローラーを接続する

> フットコントローラーの下側にある接続ケーブルを必要な長さに伸ばします。



> 接続ケーブルのプラグを本機に差し込みます。



> フットコントローラーをテーブルの下に設置します。

ミシンを電源に接続する

本機を安全にお使いいただくため、付属の電源コードをご使用ください。付属の電源コードは、使用する国の電圧範囲に合わせて設計されています。本機を原産国以外の国で使用する場合は、その国に適した電源コードをBERNINAの販売店から入手する必要があります。

アメリカおよびカナダ用の電源コードのプラグは有極プラグです（片方の端子の幅がもう片方より広くなっています）。感電のリスクを低くするために、プラグはコンセントに正しく差し込んでください。電源プラグがコンセントに合わない場合は、電源プラグを逆さにして差し込んでください。逆さにしても電源プラグが入らない場合は、電気技師に適切なコンセントを設置してもらう必要があります。絶対にプラグを改造しないでください。

> ケーブルの接続プラグを本機のコード接続口に差し込みます。



> ケーブルのもう一方の端のプラグをコンセントに差し込みます。

押え上げレバーを取り付ける



押え上げレバーの角度は、使いやすさに合わせて、ベルニナミシン専門店で調節することができます。

> 押え上げレバーをミシン前面の取り付け穴に差し込みます。

ソーイングの準備

- > 椅子の高さを押え上げレバーを膝で動かせる位置に調節します。



タッチペンを取り付ける

- > タッチペンをマグネット式ホルダーに取り付けます。



ミシンの電源を入れる

- > メインスイッチを「I」にします。



2.4 フットコントローラー

ソーイングスピードをフットコントローラーでコントロールする

フットコントローラーで、スピードを連続的に調節することができます。

- > スタートさせるには、フットコントローラーをゆっくりと踏み込みます。
- > 速く縫いたいときは、フットコントローラーを深く踏み込みます。
- > ミシンを止めるには、フットコントローラーを離します。



2.5 糸立て棒

収納式糸立て

収納式糸立てを持ち上げます。



メタリック糸またはその他の特殊な糸を使用する場合には、収納式糸立てを使用することをお勧めします。

収納式糸立ては、複数の糸を使用するソーイングの際や、ソーイングの途中に下糸を巻く際に使用します。

- > 糸立てを持ち上げるには、糸立てを押し下げて放します。
- > 糸立てをブロックするには、糸立てが止まるまで反時計回りに回します。
- > ブロックを解除するには、糸立てが止まるまで時計回りに回します。
- > 糸立てを収納するには、糸立てをカチッと音がするまで押し下げます。

糸こまクッションと糸こまを取り付ける

糸こまクッションは、糸が収納式糸立てに絡まるのを防ぎます。

- > 糸こまクッションを、収納式糸立てに取り付けます。
- > 糸こまを糸立てに取り付けます。



平行糸立て棒

糸こまクッション、糸こま、糸こま押えを取り付ける

糸こま押えを使用すると、糸こまから均等な糸送りができます。糸こま押えは平行糸立て棒でのみ使用します。

- > 糸こまクッションを糸立て棒に取り付けます。
- > 糸こまを糸立て棒に取り付けます。
- > 糸こま押えと糸こまの間に隙間が開かないように、ぴったり合った糸こま押えを取り付けます。



糸こまネットを使用する

糸こまネットは糸を糸こまに保ち、糸がもつれたり切れるのを防ぎます。

ソーイングの準備

- > 利用可能な場合は、糸こまの上に糸こまネットをかぶせます。糸こまの上でネットを2回折りたたむか、ネットの一部を糸こまの後ろに挿入するなどして、糸こまネットが糸こまから滑り落ちないようにしてください。



2.6 送り歯

送り歯の調整

- > 送り歯を下げるには、「送り歯 上／下」ボタンを押します。



- > 送り歯を上げるには、「送り歯 上／下」ボタンをもう一度押します。

2.7 ソーイングテーブル

ソーイングテーブルを取り付ける

フリーアームに取り付けられたスライドテーブルで、既存の縫製エリアをさらに広げることができます。

- > 針を上げます。
- > 押え金を上げます。
- > スライドテーブルを、フリーアームの上に左から右へ、ロックされるまでスライドさせます。



- > ソーイングテーブルを外すには、ソーイングテーブルのボタンを押して左にスライドさせます。

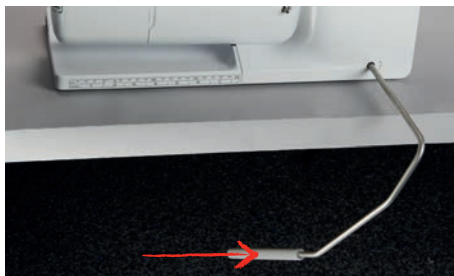


2.8 押え金

押え上げレバーで押え金の位置を変える

- > 押え上げレバーをひざで操作できるように、いすなどの高さを調節してください。

- > 押え上げレバーを右に押すと、押え金が上がります。



- 同時に送り歯が下がり、糸のテンションが緩みます。

- > 押え上げレバーからゆっくりとひざを離すと、押え金が下がります。

押え金を交換する

- > 針を上げます。
- > 押え金を上げます。
- > ミシンの電源を切ります。
- > 取り付けレバーを上押し上げます。(1)
- > 押え金を引き離します。(2)



- > 新しい押え金を下からホルダーの中に差し込みます。
- > 取り付けレバーを下に押します。

ユーザーインターフェースで押え金を選択する

選択したステッチごとに、推奨される押え金と使用できるその他の押え金かがミシンに表示されます。

前提条件：

- ・ 本機の電源が入っています。
- > ステッチパターンを選択します。
 - 推奨される押え金が番号と共に《押え金表示／押え金選択》フィールドに表示されます。
- > 《押え金表示／押え金選択》をタップします。
- > オプションの押え金を表示するには、押え金のフィールドを上 swipe します。
- > 1つの押え金をタップすると、その押え金の説明と使用方法が表示されます。



押え圧の設定

設定されている通常押え圧は、ほぼすべてのソーイングで使用することができます。トリコット地や目の粗い編地などでは、押え圧を弱くします。硬めの厚地では、押え圧を強くします。



押え金圧を使用して、布の厚さに合わせて押え金の圧力を最適に調整することができます。厚い生地の場合は、押え金圧を下げることをお勧めします。これにより、生地動きが良くなるという利点があります。押え金圧を0未満に設定すると、押え金がさらに上がり、厚い布地に余裕ができます。薄い生地の場合は、押え金圧を上げることをお勧めします。これには、押え金の下で生地が滑りにくくなるという利点があります。



- > 選択ダイヤルを右に回すと、押え圧が弱くなります。
- > 選択ダイヤルをさらに右に回すと、押え金が上に上がります。
- > 選択ダイヤルを左に回すと、押え圧が強くなります。

2.9 送り歯の調整



- > «送り歯表示»をタップします。
- > 表示された図に応じて、送り歯が上下します。

2.10 針と針板

針を交換する

- > ミシンの電源を切ります。
- > 押え金を取り外します。
- > 針取り付けネジを緩めます。



- > 針を下に引っ張ります。
- > 新しい針を平らな面を後ろ側にして持ちます。
- > 針を上までしっかりと差し込みます。
- > 針取り付けネジを締めます。

ユーザーインターフェースで針を選択する

針を交換した後、その針が選択したパンチワーク用針板に適しているかどうかを確認します。



- > «針板／針選択»をタップします。

> 取り付けた針を選択します。



- 選択された針が選択された押え金に適合していれば、縫製を開始することができます。選択された針が選択された押え金に適合していない場合、ミシン起動時にエラーメッセージが表示され、ミシンは起動しません。

針の種類と針のサイズの確認

実用的なメモリー機能：情報が失われないように、針の種類と針のサイズをミシンに保存することも可能です。これにより、保存された針の種類と針のサイズをいつでも確認することができます。



> «針板／針選択»をタップします。



> «針の選択»をタップします。



- > 装着する針の種類（1）を選択してください。
- > 装着する針のサイズ（2）を選択してください。

針位置 上／下を設定する



- > 針を下げるには、「針位置 上/下」ボタンを押します。
- > 針を上げるには、もう一度「針位置 上/下」ボタンを押してください。

針基線 左／右を設定する

針の位置は全部で11か所あります。針の位置はディスプレイ上に針位置番号で表示されます。

- > ボタン（1）«針位置 左»を押すと、針の位置が左に移動します。

- > ボタン (2) «針位置 右» を押すと、針の位置が右に移動します。



針停止 上／下（常時）を設定する



- > 針の停止位置を常時設定しておくには、「針停止 上／下」をタップします。
 - フットコントローラーを離すか、「スタート／ストップ」ボタンを押すと、ミシンは針位置を下げた状態で停止します。
- > «針停止 上／下」をもう一度タップします。
 - フットコントローラーを離すか、「スタート／ストップ」ボタンを押すと、ミシンは針位置を上げた状態で停止します。

針板を交換する

パンチワーク用針板には、縦方向、横方向、斜め方向のマーキングがミリメートル（mm）とインチ（inch）で表示されています。これらのマーキングは布ガイドとして、また正確なトップステッチをする際に便利です。

- > 送り歯を下げます。
- > ミシンの電源を切ります。
- > 針と押え金を取り外します。
- > パンチワーク用針板の右上の印を押して、針板を浮かせます。



- > パンチワーク用針板を取り外します。
- > パンチワーク用針板の穴をそれぞれの突起部分に合わせ、しっかりはまるまで下に押し込みます。

針板をユーザーインターフェースで選択する

針板を交換した後、その針板が選択した針に適しているかどうかを確認します。



- > «針板／針選択」をタップします。

> 先に装着した針板を選択します。



- 選択した針板と針との組み合わせが適切であれば、縫製を開始することができます。
- 選択した針板が針との組み合わせに適していない場合、エラーメッセージが表示され、自動的にミシンが起動できないようになっています。

2.11 糸をかける

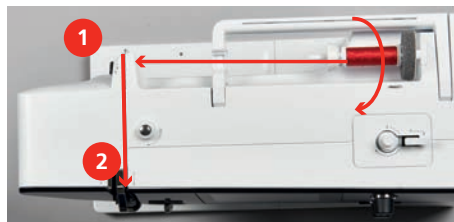
上糸をかける

糸掛けの準備

- > 糸こまクッションを糸立てに取り付けます。
- > 時計周りに糸がほどけるように、糸こまを糸立てに取り付けます。
- > 適当なサイズの糸こま押えを取り付けます。
- > ミシンのスイッチを入れ、起動するまで待ちます。
- > 針と押え金を挙げます。

糸を針まで持ってきます。

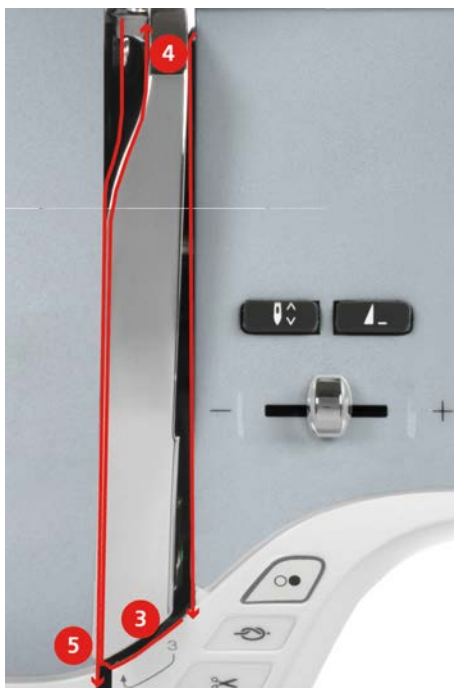
- > 糸こまと後ろの糸ガイド(1) の間で、糸を片手で持ちます。他方の手で糸の端をつかみ、次のステップの間常に軽く張っておきます。
- > 糸を矢印の方向に引き、テンションディスク (2) にかけます。



- > 糸を下から天秤カバー (3)の周りを上方向にかけます。

ソーイングの準備

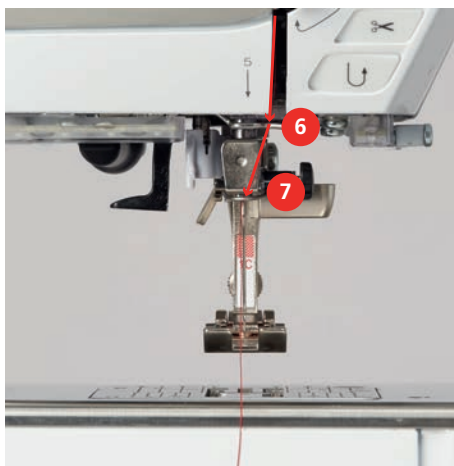
- > 天秤 (4) に糸を挿入します。



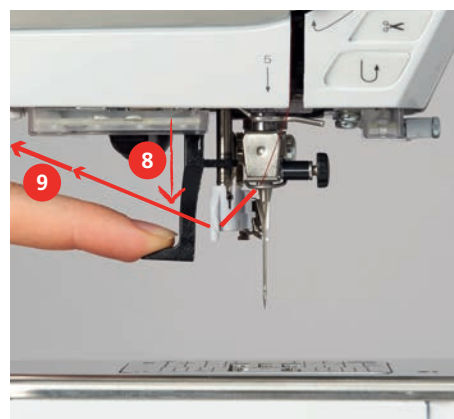
- > 糸を再び下方向へ (5) 持っていきます。
- > ここで初めて糸を放します。
- > ミシンの電源を切ります。

針を通す

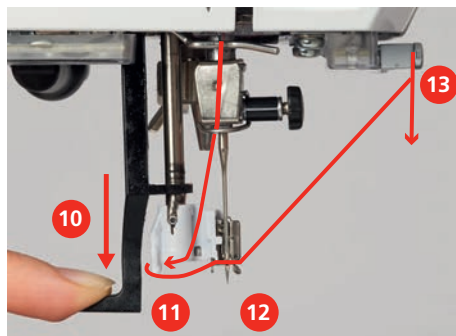
- > 糸を押え金上部の糸ガイド(6/7)に通します。



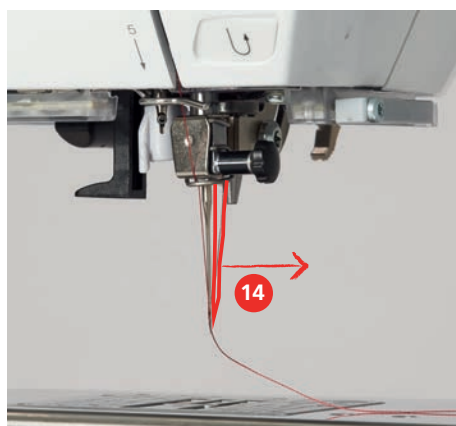
- > 半自動の糸通しレバー (8) を半分押し下げ、押したままで糸をグレーの糸通しフック (9) の後ろの糸を左に引きます。



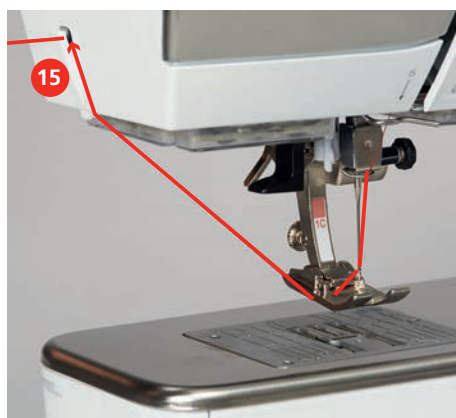
- > 糸を左から右にグレーの糸通しフック (11) の前にかけます。
- > 糸通しレバーを止まるまで押し下げます (10)。
- > ワイヤフックに掛かるまで、糸を左から右へ(11) 針穴(12) に通します。
- > 糸を後ろから糸切り(13)の上に引っ張り、切断します。



- > 糸通しレバーと糸から同時に手を離すと、針に糸が通ります。
 - 糸を針穴を通して引き出します。
- > 糸のつまみ(14)を、糸の端が針を通して引き出るまで後ろに引っばります。



- > 押え金の下糸を糸切り(15)まで引っ張り、切断します。



二本針に糸を通す

前提条件：

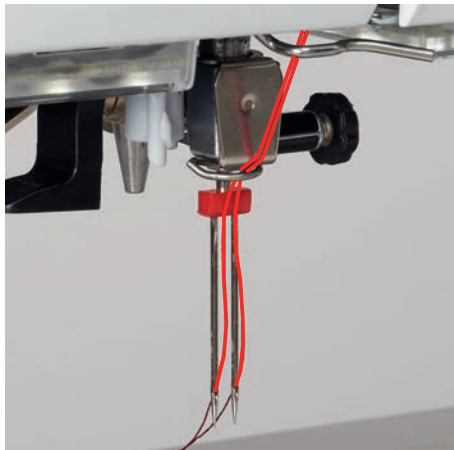
- ・ 二本針を取り付けます。
- > 一本目の糸を、矢印のようにテンションディスク(1)の右側にかけます。

ソーイングの準備

- > 二本目の糸を、矢印のようにテンションディスク(1)の左側にかけます。



- > 一本目と二本目の糸を針の上の糸ガイドまで通します。
- > 一本目の糸を右の針に通します。
- > 二本目の糸を左の針に通します。



三本針に糸を通す

前提条件：

- ・ トリプル針を取り付けます。
- > 糸こまクッション、糸こまおよび対応する糸こま押えを横の糸立てに差し込みます。
- > 糸こまクッションを縦の糸立てに取り付けます。
- > 糸を巻いたボビンを銀色のセンサー部分が下に来るように、縦の糸立てに取り付けます。
- > 糸こまをボビンの反対側に取り付けます。
- > 3本の糸を上糸ガイドまで通します。



- > 2本の糸（縦の糸立て）をテンションディスク（1）の左側に通し、針の上の糸ガイドまで通します。
- > 残りの1本（横の糸立て）をテンションディスク（1）の右側に通し、針の上の糸ガイドまで通します。
- > 縦の糸立ての糸を左右の針に手で1本ずつ通します。
- > 横の糸立ての糸を手で中央の針に通します。

下糸を巻く



収納式糸立てを使用することで、刺しゅうの途中でも下糸を巻くことができます。

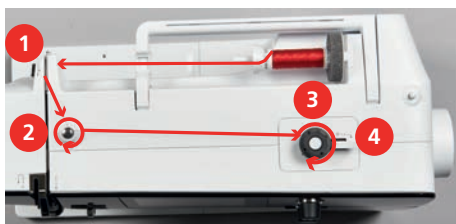
前提条件：

- ・ 糸こまクッション、糸こま、糸こま押えを取り付けます。

- > 空のボビンを銀色のセンサー部分が下に来るように、下糸巻き装置に取り付けます。



- > 糸を左方向、後側の糸ガイド (1) に通します。
- > 糸をボビン巻き取りプリテンショナー (2) に時計回り方向に通します。
- > 糸を空のボビン (3) に2~3回、時計回りに巻きつけます。
- > 糸を下糸巻きレバーの糸切り (4) に通して切ります。



- > 下糸巻きレバー (5) をボビンの方向に押します。



- 糸巻きが始まり、オプション設定の糸巻き表示が出力されます。
- > 糸巻きを停止するには、下糸巻きレバーを右に押します。
- > 下糸巻きレバーをもう一度ボビンの方向に押すと、糸巻きが続行します。
 - ボビンがいっぱいになると、糸巻きは自動的に終了します。
- > ボビンを取り外して、糸を下糸巻きレバーの糸切りに通して切ります。

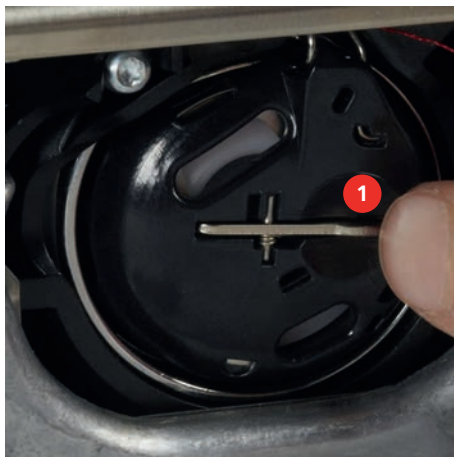
下糸をかける

前提条件：

- ・ 針が上がっていること。
- ・ ミシンの電源を切り、釜カバーを開けます。

ソーイングの準備

- > ボビンケースの取り出しレバー(1)を押します。



- > ボビンケースを取り出します。
- > ボビンケースからボビンを外します。
- > 新しいボビンを、銀色のセンサー部分が奥側になるように、ボビンケースに取り付けます。



- > 糸を左から溝(2)に通します。



> 糸を糸調子パネ(3)の下に通して右に引き、さらに2つの糸ガイド(4)に通して、上に引きます。



> ボビンケースを、糸ガイド(5)が上にくるようにして持ちます。



- > ボビンケースを取り付けます。
- > ボビンケースの中央を押して、しっかりとめ込みます。
- > 糸を糸切り(6)に通して切ります。



> 釜カバーを閉じます。

下糸をかける



- > «下糸»をタップします。
- > アニメーションに沿って糸通しをします。

3 セットアッププログラム

3.1 ソーイング機能の設定

上糸調子を設定する

セットアッププログラムで変更した上糸調子は、すべてのステッチパターンに有効になります。セットアップで変更した内容は、ミシンの電源を切っても保存されたままになります。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ソーイング設定»をタップします。



> «上糸テンションを調節します。»をタップします。

> 上糸調子を調節します。

ソーイングスピードの最高速度を設定する

この機能により、最高速度を設定できます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ソーイング設定»をタップします。



> «最大ソーイングスピード»をタップします。

> 最高速度を設定します。

留め縫いを設定する

この機能をオンにすると、糸切り後、パターンの始まりで自動的に4針留め縫いされます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ソーイング設定»をタップします。



> «パターンの始まりでの留め縫い» をオンまたはオフにします。

糸切りボタンをプログラムする

糸切り前の自動留め縫いを設定することができます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ソーイング設定»をタップします。



> «ボタンとフィールドをプログラムする»をタップします。



> «糸きりボタンをプログラムする»をタップします。



> 自動留め縫いを有効にするには、「留め縫い」をタップします。
> 自動留め縫いを無効にするには、「留め縫い」をもう一度タップします。



> 連続した留め縫いを設定するには、「前方向の留め縫い」をタップします。
> 留め縫いの数を設定するには、「マイナス」または「プラス」をタップします。



> 留め縫いを4針同じ位置に設定するには、「一か所での留め縫い」をタップします。

留め縫いボタンをプログラムする

針数と留め縫いの種類をプログラムすることができます。



> «ホーム»をタップします。



> «セッティングプログラム»をタップします。



> «ソーイング設定»をタップします。



> «ボタンとフィールドをプログラムする»をタップします。



> «留め縫いボタンをプログラムする»をタップします。



> «留め縫いの針数を変更する»アイコンをタップして、留め縫いの針数を設定します。
> 留め縫いの針数を設定します。



> «同位置で留め縫いをする»アイコンをタップして、同位置で留め縫いを4針縫うように設定します。

返し縫いボタンをプログラムする

«返し縫い」と«バックステップ縫い»から選ぶことができます。



> «ホーム»をタップします。



> «セッティングプログラム»をタップします。



> «ソーイング設定»をタップします。



> «ボタンとフィールドをプログラムする»をタップします。



> «返し縫いボタンをプログラムする»をタップします。



> バックステップ縫いを設定するには、「バックステップ»をタップします。



> 返し縫いを設定するには、「連続返し縫い機能»をタップします。

3.2 刺しゅう機能の設定

上糸調子の設定

セットアッププログラムで変更した上糸調子は、すべての刺しゅうモチーフに有効になります。変更した内容はミシンの電源を切っても保存されたままになります。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «刺しゅう機能の設定»をタップします。



> «上糸テンションを調節します。»をタップします。

> 上糸調子を調節します。

刺しゅうスピードの最高速度を設定する

この機能では、ソーイングスピードの最高速度を設定することができます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «刺しゅう機能の設定»をタップします。



> «最速の刺しゅうスピード»をタップします。

> 最高速度を設定します。

開いた時の刺しゅうモチーフの位置を決める

基本設定として、開いた刺しゅうモチーフは常に刺しゅうフレームの中央に表示されます。「保存された刺しゅうモチーフ位置の復元」ボタンを使って、刺しゅうモチーフが、ベルニナ刺しゅうソフトウェアに保存された刺しゅうフレームの位置で開くように設定できます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «刺しゅう機能の設定»をタップします。



> «刺しゅうモチーフを中央に置く»をタップします。



> 保存された位置で刺しゅうモチーフを開くには、「保存された刺しゅうモチーフ位置を復元」ボタンを«I»に設定します。

> 刺しゅうフレームの中央で刺しゅうモチーフを開くには、「保存された刺しゅうモチーフ位置を復元」ボタンを«0»に設定します。

刺しゅう枠の調整

刺しゅう枠の調整では、針が刺しゅう枠の中心に来るように調整されます。

前提条件：

- ・ 刺しゅうモジュールが接続されていること。
- ・ 対応する刺しゅうテンプレートのある刺しゅうフレームが取り付けられていること。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «刺しゅう機能の設定»をタップします。



> «刺しゅう枠を調整する»をタップします。

> ディスプレイの矢印ボタンを使用して、針をテンプレートのちょうど中央に移動します。



> «決定»をタップすると、調整内容が保存されます。

布地の厚さを設定する

生地が厚さが4mm以上の場合（例：タオル地）は、7.5mmまたは10mmを選択することをお勧めします。生地が厚いほど、ミシンによる刺しゅうの速度は遅くなります。ミシンの電源を切ると、変更内容は初期設定の4mmにリセットされます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «刺しゅう機能の設定»をタップします。



> «生地の厚みを設定する»をタップします。

> 生地を選択します。

留め縫いを設定する

刺しゅうモチーフには、留め縫いを設定することができます。刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされている場合、プログラムされた留め縫いがされます。刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされている場合、バルニナの刺しゅうソフトを使って留め縫いを解除することができます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «刺しゅう機能の設定»をタップします。



> «留め縫いステッチ»をタップします。



> 縫い始めの留め縫いをオフにするには、上側のスイッチをオフにします。

– 刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされていない場合、留め縫いはされません。



> 縫い始めの留め縫いをオンにするには、上側のスイッチをオンにします。

– 刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされていない場合、留め縫いが追加され、縫われます。

セットアッププログラム

-  > 縫い終わりの留め縫いをオフにするには、下側のスイッチをオフにします。
 - 刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされていない場合、留め縫いはされません。
-  > 縫い終わりの留め縫いをオンにするには、下側のスイッチをオンにします。
 - 刺しゅうモチーフに留め縫いがプログラムされていない場合、留め縫いが追加され、縫われます。

糸切り機能の設定

糸切り機能は、必要に応じて設定することができます。糸交換前の糸切り機能をオフにするか（1）、つなぎステッチの長さ（3）を調節します。ミシンが自動的に、設定された長さでつなぎステッチを切ります。まずつなぎステッチを切る長さを設定し、それから刺しゅうモチーフを選びます。



渡り糸の長さは1～15 mmで調整できます。デフォルト設定は6 mmです。これは、6 mmを超えるすべてのつなぎステッチが自動的にカットされることを意味します。この値を1 mmまで下げると糸切りの数が増え、ステッチの時間が増加します。また、特に糸除去機能をオンにしていると、布地の裏側に糸の終端が多く見えるようになります。布地の表側にはつなぎステッチがほぼ残らないので、刺しゅうがきれいに仕上がります。特に文字を刺しゅうする際には短いステッチが多いので、糸切りの長さを1 mmにすることで仕上がりがきれいになります。ステッチパターンの両側が見えるときは、糸切りの長さを短くしすぎないのが妥当です。これにより、ステッチが安定して取り外しにくくなり、布地の裏側に表れる糸が少なくなります。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «刺しゅう機能の設定»をタップします。



> «糸切り機能の設定»をタップします。



- > ディスプレイ上部のスイッチ（1）をタップすると、糸替え前の自動糸切り機能がオフになります。
- > ディスプレイ上部のスイッチ（1）をもう一度タップすると、糸替え前の自動糸切り機能がオンになります。
- > ディスプレイ（2）の中央部にあるスイッチをタップすると、ミシンは約7針縫った後に停止し、残りの糸は手動で切ることができます。
- > ミシンを手動での糸切りのために停止しないようにするには、ディスプレイ（2）の中央部にあるスイッチをもう一度タップします。
- > 連結ステッチを切る長さを設定するには、「マイナス」または「プラス」（3）をタップします。

単位の変更

刺しゅうモードでの単位をミリメートルからインチに変更することができます。基本設定ではミリメートルです。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «刺しゅう機能の設定»をタップします。



- > «寸法単位»をタップします。
- > 刺しゅうモードで寸法をインチ単位で表示するには、「inch」をタップします。
- > 刺しゅうモードで寸法をmm単位で表示するには、「mm」をタップします。

3.3 パーソナル画面を設定する



- > «ホーム»をタップします。



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «個人設定»をタップします。
- > お好みのディスプレイの色および背景を選択します。
- > カラー設定の上にあるテキストボックスをタップします。
- > ウェルカムテキストを入力して確認します。

3.4 センサー機能

上糸センサーの設定



- > «ホーム»をタップします。



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «監視機能»をタップします。



- > 上糸センサーをオフにするには、ディスプレイ上部のスイッチをタップします。
- > 上糸センサーをオンにするには、スイッチをもう一度タップします。

3.5 操作音の設定をする



- > «ホーム»をタップします。



- > «セットアッププログラム»をタップします。

セットアッププログラム



- > «操作音の設定»をタップします。
- > 全般的な音設定のオン／オフを切り替えるには、スイッチ（1）をタップします。



- > ステッチパターン選択時の音をオフにするには、フィールド（2）«音設定／解除»をタップします。
- > ステッチパターン選択時の音をオンにするには、フィールド（2）«1～4»をタップします。



- > 機能選択時の音をオフにするには、フィールド（3）«音設定／解除»をタップします。
- > 機能選択時の音を設定するには、フィールド（3）«1～4»をタップします。



- > BSRモード時に音をオフにするには、フィールド（4）«音設定／解除»をタップします。

3.6 ミシンの設定

ミシンの設定



- > «ホーム»をタップします。



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «ミシンの設定»をタップします。



- > «言語の選択»をタップします。
- > 希望の言語をタップします。

ディスプレイの明るさを設定する

ディスプレイの明るさは、必要に応じて調整できます。



- > «ホーム»をタップします。



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «ミシンの設定»をタップします。



- > «画面の設定»をタップします。
- > ディスプレイ上部のフィールドで、ディスプレイの明るさを調整します。

ソーイングライトの設定

ソーイングライトの明るさは、必要に応じて調整できます。



- > «ホーム»をタップします。



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «ミシンの設定»をタップします。



- > «画面の設定»をタップします。
- > ディスプレイ下部のフィールドで、ソーイングライトの明るさを調整します。



- > ソーイングライトをオフにするには、スイッチをタップします。
- > ソーイングライトをオンにするには、もう一度スイッチをタップします。

総ステッチ数を確認する

ミシンの総ステッチ数と、ベルニナ販売店が最後に行った点検以降のステッチ数が表示されます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «情報»をタップします。



> «ファームウェアとハードウェアの情報»をタップします。

販売店情報を入力

お客様がご利用のベルニナ販売店情報を登録することができます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «情報»をタップします。



> ベルニナ販売店データを入力するには、「販売代理店データ»をタップします。



> ベルニナ販売店の名前を登録するには、「名称»をタップします。



> ベルニナ販売店の住所を登録するには、「住所»をタップします。



> ベルニナ販売店の電話番号を登録するには、「電話番号»をタップします。



> ベルニナ販売店のウェブサイトまたはEメールアドレスを登録するには、「Eメールアドレス»をタップします。

サービスデータを保存する

ミシンの最新の状態に関するサービスデータは、ベルニナUSBメモリーに保存して、ベルニナ販売店に届けることができます。

> 十分な空き容量のあるベルニナUSBメモリーをミシンのUSBポートに差し込みます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «情報»をタップします。

セットアッププログラム



- > «サービスデータ»をタップします。
- > «サービスデータをエクスポートする»をタップします。
 - «サービスデータをエクスポートする»フィールドに白い枠が表示されます。
- > 白い枠が表示されなくなったら、USBメモリーを取り外します。

標準設定に戻す

注意: この機能によって、個別に作成された設定は全て消去されます。



- > «ホーム»をタップします。



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «ミシンの設定»をタップします。



- > «工場出荷時設定»をタップします。



- > ソーイング設定の基本設定を復元するには、«ソーイングの基本設定»をタップして確認します。



- > 刺しゅう設定の基本設定を復元するには、«刺しゅうの基本設定»をタップして確認します。



- > 基本設定をすべて復元するには、«ミシンの基本設定»をタップして確認し、ミシンを再起動します。

ユーザーデータを消去する

必要なくなったモチーフを消去することで、新しいモチーフを保存するデータ容量が増えます。



- > «ホーム»をタップします。



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «ミシンの設定»をタップします。



- > «工場出荷時設定»をタップします。



- > 自分のメモリーからすべてのデータを消去するには、«自分のメモリーからデータを消去する»をタップして確認します。



- > 自分のメモリーからすべての刺しゅうモチーフを消去するには、«自分の刺しゅうモチーフを消去する»をタップして確認します。

ベルニナUSBメモリー内のモチーフを消去する

- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。



- > «ホーム»をタップします。



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «ミシンの設定»をタップします。



- > «工場出荷時設定»をタップします。



- > «USBメモリーを消去する»をタップして確認します。

布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aのキャリブレーション

布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aとミシンは互いに連動するため、常に一緒に使用する必要があります。

前提条件：

- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを取り付けます。
- ・ 針には糸を通さないでおきます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «メンテナンス／アップデート»をタップします。



> «布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aのキャリブレーション»をタップします。
> 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを下げます。



> 校正を開始するには、「スタート／ストップ」ボタンを押します。
－ 校正が完了すると、結果が画面に表示されます。

刺しゅう機を収納する

刺しゅうアームを手で動かさずに刺しゅう機を元のパッケージに戻すためには、まず刺しゅうアームをパッケージ位置に移動させる必要があります。

前提条件：

- ・ 刺しゅう機はミシンに接続されています。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «メンテナンス／アップデート»をタップします。



> «パッケージ位置»をタップします。
> ディスプレイの指示に従って操作してください。

4 システム設定

4.1 チュートリアルを開く

チュートリアルでは、ソーイングや刺しゅう、およびさまざまなステッチに関する情報や説明を見ることができます。



> «ホーム»をタップします。



> «チュートリアル»をタップします。

> ご覧になりたいトピックを選択して、情報を見ることができます。

4.2 ソーイングアドバイザーを開く

ソーイングアドバイザーでは、作品製作のお手伝いをします。布地と縫いたいものを入力すると、適した針とそれに合う押え金などの提案が表示されます。



> «ホーム»をタップします。



> «ソーイングアドバイザー»をタップします。

> 使用する布地を選択します。

> 作りたい作品を選択します。



> «決定»をタップします。

– 設定が調整されます。

4.3 エコモードについて

作業が長時間中断される場合、ミシンは節約モードになります。また、節電モードはチャイルドロックとしても機能します。ディスプレイでは何も選択することができず、ミシンも起動できません。



> «ホーム»をタップします。



> 節電モードをオンにするには、「エコモード»をタップします。

– ディスプレイが消えます。節電モードになり、ソーイングライトが消えます。

> 節電モードをオフにするには、ディスプレイの中央にある「エコモード»マークをタップします。

– ミシンはソーイングの準備ができています。

4.4 ヘルプを開く

> ヘルプが必要な場合には、ディスプレイにヘルプを表示させます。



> ヘルプモードを起動するには、「ヘルプ»をタップします。

> ディスプレイに表示されている、サポートが必要な項目をタップします。

4.5 «clr»で変更を取り消す

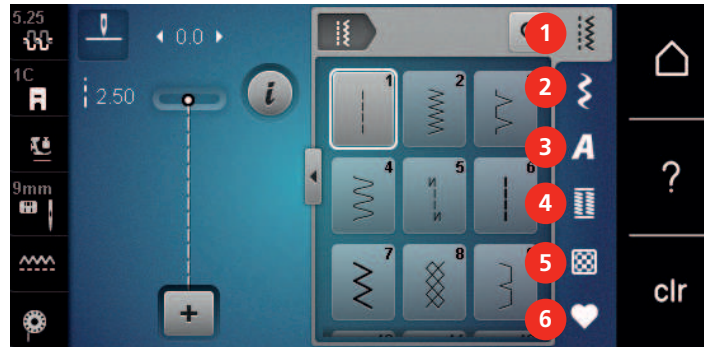
変更したパターンはすべてデフォルト設定に戻すことができます。自分のメモリーに保存されているパターンやモニター機能は対象外です。



> «設定をクリア»をタップします。

5 クリエイティブなソーイング

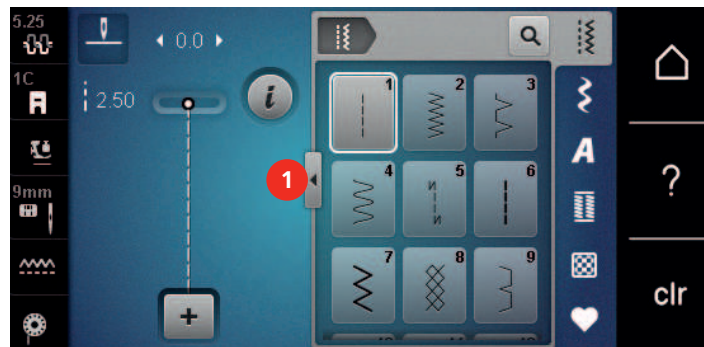
5.1 ソーイング選択メニューについて



- | | | | |
|---|-----------|---|--------------|
| 1 | 《実用縫い》 | 4 | 《ボタンホール》 |
| 2 | 《飾りステッチ》 | 5 | 《キルトステッチ》 |
| 3 | 《アルファベット》 | 6 | 《パーソナルプログラム》 |

ステッチパターンを選択する

- > ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。
- > ステッチパターンをさらに表示するには、実用縫いのフィールドでアルファベットまたはボタンホールを上にはワイブします。
- > ズームインするには、《ウィンドウの拡大／縮小》（1）をタップします。



- > ズームアウトするには、《ウィンドウの拡大／縮小》をもう一度タップします。
- > ステッチ番号を入力してステッチパターンを選ぶには、《ステッチパターンを番号で選択》をタップします。



5.2 ソーイングスピードを調節する

スピードコントローラーで、ソーイングスピードを自由に調節することができます。

- > スピードコントローラーを左にスライドさせると、スピードが遅くなります。
- > スピードコントローラーを右にスライドさせると、スピードが速くなります。

5.3 上糸調子を設定する

上糸調子の標準設定はステッチパターンおよび刺しゅうモチーフによって自動的に設定されています。

上糸調子はベルニナの製造所で最適な状態に設定されています。上糸および下糸調子の初期設定に使われた糸は、メトロシール／セラロン100/2（メトラー社）です。

その他のミシン糸を使用する場合には、上糸調子に不具合が生じてしまうことがあります。この場合には、布地およびステッチパターンに合わせて、上糸調子を調整してください。

上糸調子を強めるほど上糸が張って、下糸を布地に強く引き付けます。上糸を弱めると、上糸の張りが弱くなり、下糸を布に引き付ける力が弱まります。

上糸調子の変更は、それぞれ選択したステッチパターンとすべての刺しゅうモチーフに影響します。セットアッププログラムから上糸調子をソーイングモード（参照ページ: 44）で常に有効にすることができます。

前提条件：

- ・ 上糸調子をセットアッププログラムで変更します。



- > «上糸調子»をタップします。
- > タッチペンまたは指でスライダーを動かして、上糸調子を調節します。

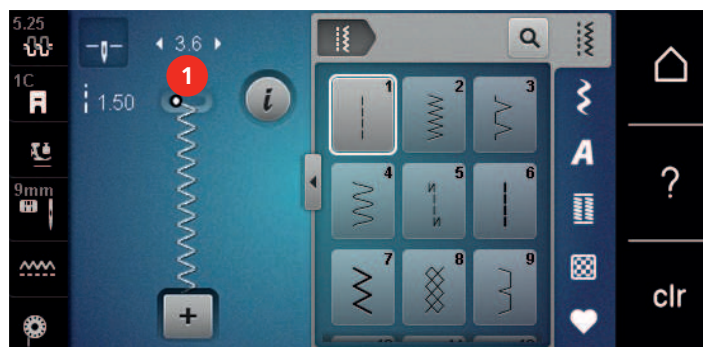


- > 変更を基本設定に戻すには、右側の黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチします。
- > 左側の黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、セットアッププログラムでの設定が標準設定に戻ります。

5.4 ステッチパターンの編集

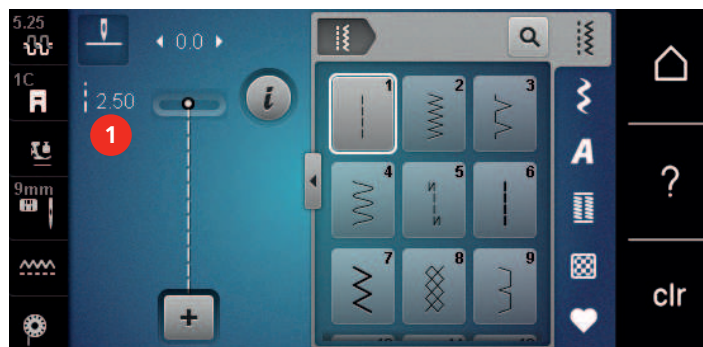
振り幅を変更する

- > «多機能ボタン 上»を左に回すと、振り幅が小さくなります。
- > «多機能ボタン 上»を右に回すと、振り幅が大きくなります。
- > さらに設定項目を呼び出すには、「ステッチ幅」(1) をタップします。



送り長さを変更する

- > «多機能ボタン 下»を左に回すと、送り長さが短くなります。
- > «多機能ボタン 下»を右に回すと、送り長さが長くなります。
- > さらに設定項目を呼び出すには、「ステッチ長」(1) をタップします。



バランスを調整する

布地や糸、芯地の種類によっては、バランスの調整が必要な場合があります。バランスを調整することで、布地に合ったきれいなステッチパターンを縫うことができます。

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > ステッチパターンを縫います。



- > «iダイアログ»をタップします。



- > «バランス»をタップします。
 - ステッチパターンのプレビューが表示されます。



- > «多機能ボタン 下»を回して、ステッチパターンの縦方向のバランスを調整し、プレビューで確認します。
- > 変更したバランス設定は、「パーソナルプログラム」内の各ステッチごとに保存可能です。
- > 変更したバランス設定は、「設定をクリア」を押す、またはミシンの電源を切るまでの間だけ有効です。



模様繰り返し機能を設定する

ステッチパターンは9回まで繰り返すことができます。

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > ステッチパターンを1回縫うには、「パターンの反復»を1回タップします。
- > ステッチパターンを9回まで繰り返すには、「パターンの反復»を2~9回タップします。
- > ステッチパターンの繰り返しをオフにするには、「パターンの反復»を長押しします。

ステッチパターンを反転させる

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > ステッチパターンを左から右にミラーリングするには、「模様反転 左／右»をタップします。



- > ステッチパターンを縫製方向にミラーリングするには、「模様反転 上／下»をタップします。

返し縫い

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > «返し縫い» ボタンを押してすぐに返し縫いに切り替える場合は、針停止位置を下に設定します（常時）。
- > 返し縫いに切り替える前にもう1針正縫いするには、針位置を上を設定します（常時）。
- > «返し縫い» ボタンを押し、そのまま押し続けます。



続けて返し縫いをする

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > 連続返し縫いをするには、「連続返し縫い機能»をタップします。
 - «連続返し縫い機能»をもう一度押すまで、ミシンは返し縫いを実行します。

バックステップ縫い

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > 最後の200針をバックステップ縫いで縫うには、「バックステップ」をタップします。

5.5 ステッチパターンのコンビネーションを作成する

コンビネーションモードについて



- | | | | |
|---|---------|---|------------------------|
| 1 | 「ステッチ幅」 | 3 | 「コンビネーションモード／シングルモード」 |
| 2 | 「ステッチ長」 | 4 | コンビネーションの中の個々のステッチパターン |

ステッチパターンのコンビネーションを作成する

コンビネーションモードでは、ステッチパターンとアルファベットを希望に合わせて組み合わせることができます。例えば、任意のアルファベットを組み合わせ、 「BERNINA」という文字を作ることができます。



- > «コンビネーションモード／シングルモード»をタップします。
- > 使いたいステッチパターンを選択します。



- > シングルモードに戻すには、「コンビネーションモード／シングルモード」をもう一度タップします。

ステッチパターンのコンビネーションを保存する

個別に作成したステッチパターンのコンビネーションを再利用するために、「パーソナルプログラム」ストレージに保存することができます。

前提条件：

- ・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。



- > «パーソナルプログラム»をタップします。



> «ステッチパターンを保存する»をタップします。



> «決定»をタップすると、ステッチパターンのコンビネーションが保存されます。

ステッチパターンのコンビネーションを呼び出す



> «コンビネーションモード/シングルモード»をタップします。



> «パーソナルプログラム»をタップします。



> «ステッチパターンのコンビネーションを読み込む»をタップします。

> ステッチパターンのコンビネーションを選択します。

ステッチパターンのコンビネーションを上書きする

前提条件：

- ・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。



> «パーソナルプログラム»をタップします。



> «ステッチパターンを保存する»をタップします。

> 上書きするステッチパターンのコンビネーションを選択します。



> «決定»をタップすると、ステッチパターンのコンビネーションが上書きされます。

ステッチパターンのコンビネーションを消去する

前提条件：

- ・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。



> «iダイアログ»をタップします。



> «全体の組み合わせを編集する»をタップします。



> «消去»をタップします。



> «決定»をタップします。

単独のステッチパターンを編集する

前提条件：

- ・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。

> 一つのステッチパターンを選択するには、ステッチパターンのコンビネーションの中で希望の位置 (1) をタップします。



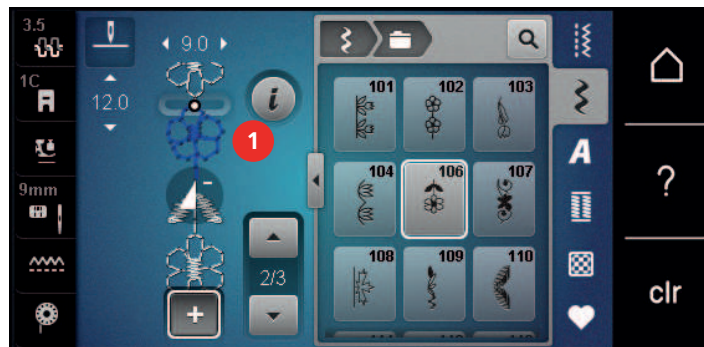


> «iダイアログ»をタップして、個々のステッチパターンを編集します。

ステッチパターンの一部を消去する

前提条件：

- ・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。
- > ステッチパターンのコンビネーションの中の希望のステッチパターン (1) をタップします。



> «iダイアログ»をタップします。



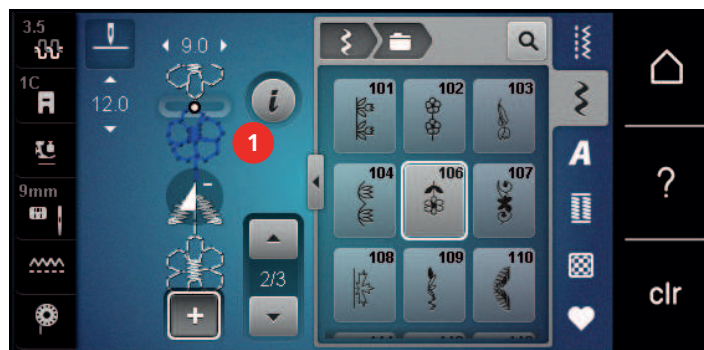
> «消去»をタップします。

単独のステッチパターンを追加する

新しいステッチパターンは、常に選択されたステッチパターンの下に挿入されます。

前提条件：

- ・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。
- > 一つのステッチパターンを選択するには、ステッチパターンのコンビネーションの中で希望の位置 (1) をタップします。



> 新しいステッチパターンを選択します。

ステッチパターンのコンビネーションを反転させる

前提条件：

- ・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。
- > «iダイアログ»をタップします。



> «全体の組み合わせを編集する»をタップします。



- > ステッチパターン全体を左から右にミラーリングするには、「模様反転 左／右」をタップします。
- > 変更した内容を初期設定に戻す場合は、「模様反転 左／右」をもう一度タップします。

ステッチパターンのコンビネーションを分割する

ステッチパターンのコンビネーションは、いくつかのパーツに分割することができます。分割された部分は、カーソルの下に挿入されます。カーソルが置かれている部分だけが縫製されます。次のセクションを縫うには、カーソルがそのセクションに置かれている必要があります。

前提条件：

- ・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。
- > ステッチパターンのコンビネーションの中で、分割したい位置を選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «カーソル位置でコンビネーションを編集する»をタップします。



- > «コンビネーションを分割する»をタップします。

ステッチパターンのコンビネーションを途中で区切る

ステッチパターンのコンビネーションは、さまざまなポイントで中断することができます。中断はカーソルの下に挿入されます。

前提条件：

- ・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。
- > ステッチパターンのコンビネーションの中で、中断したい位置を選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «カーソル位置でコンビネーションを編集する»をタップします。



- > «コンビネーションを途中で区切る»をタップします。
- > ステッチパターンのコンビネーションを中断まで縫い、布を再配置します。

ステッチパターンのコンビネーションを留め縫いする

前提条件：

- ・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。
- > ステッチパターンのコンビネーションの中で、縫いたい位置を選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «カーソル位置でコンビネーションを編集する»をタップします。



- > «留め縫い»をタップします。
 - ステッチパターンのコンビネーションの各パターンは、最初に縫うことも、最後に縫うこともできます。

模様繰り返し機能を設定する

前提条件：

- ・ ステッチパターンのコンビネーションが作成されます。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «全体の組み合わせを編集する»をタップします。



- > ステッチパターンのコンビネーションを繰り返し実行する場合は、「パターンの反復」を1回タップします。

- > ステッチパターンのコンビネーションを9回まで繰り返し実行する場合は、「パターンの反復」をもう一度タップします。
- > パターンの繰り返しのオフにする場合は、「パターンの反復」を長押しするか、「設定をクリア」をタップします。

5.6 ステッチパターンを編集する

ステッチパターン設定を保存する



- > ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。
- > 「iダイアログ」をタップします。
- > ステッチ、アルファベット、またはボタンホールを変更します。



- > すべての変更を永続的に保存するには「ステッチパターン設定を保存する」をタップします。



- > すべての変更を破棄するには、「ステッチパターンをもとに戻す」をタップします。

ステッチパターンをユーザーメモリーに保存する

「パーソナルプログラム」ストレージに、個別に変更したステッチパターンも含め、あらゆるステッチパターンを保存することができます。

- > ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。
- > ステッチパターンを編集します。
- > 「パーソナルプログラム」をタップします。



- > 「ステッチパターンを保存する」をタップします。
- > パターンを保存するフォルダを選択します。



- > 「決定」をタップします。

ユーザーメモリー内のステッチパターンを上書きする

前提条件：

- ・ ステッチパターンがユーザーメモリーに保存されます。
- > ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。
- > ステッチパターンを編集します。
- > 「パーソナルプログラム」をタップします。



- > 「ステッチパターンを保存する」をタップします。
- > 上書きするステッチパターンが保存されているフォルダを選択します。
- > 上書きするステッチパターンを選択します。
- > 「決定」をタップします。



ユーザーメモリー内にあるステッチパターンを呼び出す

前提条件：

- ・ ステッチパターンがユーザーメモリーに保存されます。
- > 「パーソナルプログラム」をタップします。



- > 「ステッチパターンを読み込む」をタップします。
- > ステッチパターンが保存されているファイルを選択します。
- > ステッチパターンを選択します。

ユーザーメモリー内にあるステッチパターンを消去する

前提条件：

- ・ ステッチパターンがユーザーメモリーに保存されます。



- > «パーソナルプログラム»をタップします。



- > «消去»をタップします。
- > ステッチパターンが保存されているファイルを選択します。
- > ステッチパターンを選択します。



- > ステッチパターンを消去するには、「決定»をタップします。

ステッチパターンをベルニナUSBメモリーに保存する

ベルニナUSBメモリーにお気に入りのステッチパターンや、編集したステッチパターンを保存することができます。

- > ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
- > ステッチパターンを編集します。
- > «パーソナルプログラム»をタップします。



- > «ステッチパターンを保存する»をタップします。
- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。



- > «USBメモリー»をタップします。



- > «決定»をタップします。

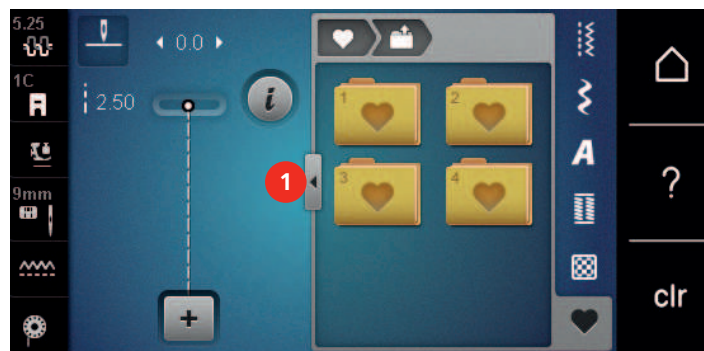
ベルニナUSBメモリーからステッチパターンを呼び出す



- > «パーソナルプログラム»をタップします。



- > «ステッチパターンを読み込む»をタップします。
- > «ウィンドウの拡大／縮小」(1)をタップします。



- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。
- > «USBメモリー»をタップします。
- > 呼び出したいステッチパターンを選択します。

ベルニナUSBメモリーからステッチパターンを消去する



- > «パーソナルプログラム»をタップします。



- > «消去»をタップします。
- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。
- > 消去するステッチパターンを選択します。



- > «決定»をタップします。

5.7 留め縫い

《留め縫い》ボタンを押して、留め縫いをする

《留め縫い》ボタンにはさまざまな留め縫いをプログラムすることができます。



- > 縫い始める前に《留め縫い》ボタンを押します。
 - ステッチパターン／ステッチパターンのコンビネーションを設定した針数留め縫いします。
- > 《留め縫い》ボタンをソーイング中に押します。
 - ミシンは停止して、その場でプログラムされた針数の留め縫いをします。

《留め縫い》アイコンで留め縫いをする

ステッチパターンのコンビネーションの各パターンは、最初に縫うことも、最後に縫うこともできます。



- > «iダイアログ»をタップします。



- > «カーソル位置でコンビネーションを編集する»をタップします。

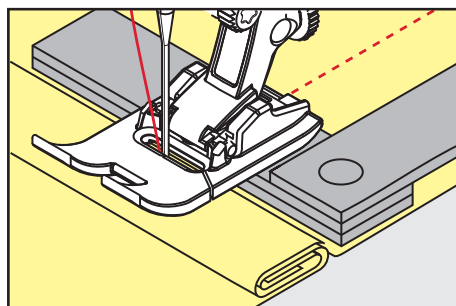


- > 《留め縫い》をタップしてから縫製を開始します。
 - ステッチパターン／ステッチパターンのコンビネーションは、縫製開始時に4ステッチ縫われます。
- > 《留め縫い》を縫製中にタップします。
 - ステッチパターンまたはステッチパターンコンビネーションのアクティブなステッチパターンは、最後に4ステッチ縫われます。

5.8 布地の高さを調節する

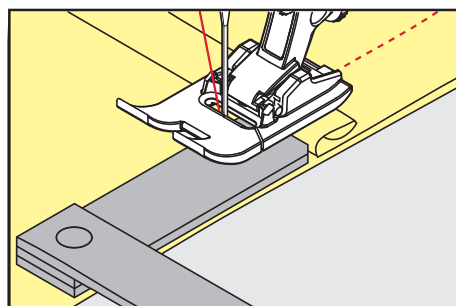
厚みのある部分を縫う際に押え金が斜めになっていると、送り歯がうまく布地を送ることができず、縫い目にばらつきができてしまいます。

- > 1-3枚ほどの高さ調節板を、後ろから押え金の下、針の少し手前の位置に入れます。



- 押え金が布地に対して水平になります。

- > 1-3枚ほどの高さ調節板を、前から押え金の下、針の少し手前の位置に入れます。



- 押え金が布地に対して水平になります。

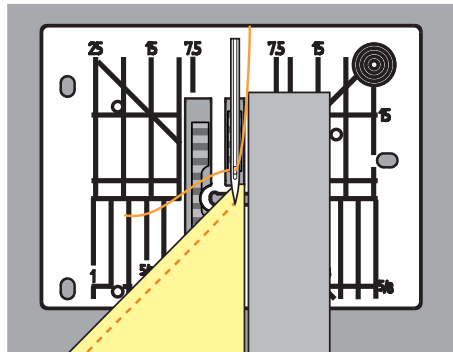
- > 押え金が厚みのある部分を完全に通りすぎるまで縫います。

- > 高さ調節板を外します。

5.9 角を縫う

角をソーイングする場合、ソーイングプロジェクトの一部のみが送り歯に乗るため、生地動きが少なくなります。高さ調整機能により、生地を均等に移動させることができます。

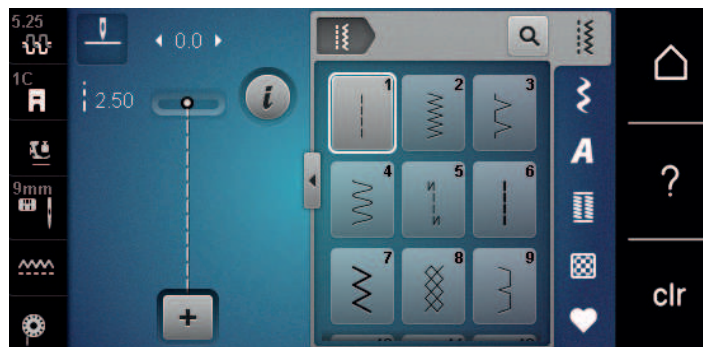
- > 生地の上に達したら、針位置を下げてソーイングを停止します。
- > 押え金を上げます。
- > 生地を回して、好みの位置に置きます。
- > 押え金の右側にある1〜3枚の高さ調節板をソーイングプロジェクトの近くにスライドさせます。
- > 押え金を下げます。



- > ソーイングプロジェクトが再び送り歯に乗るまで縫い続けます。

6 実用縫い

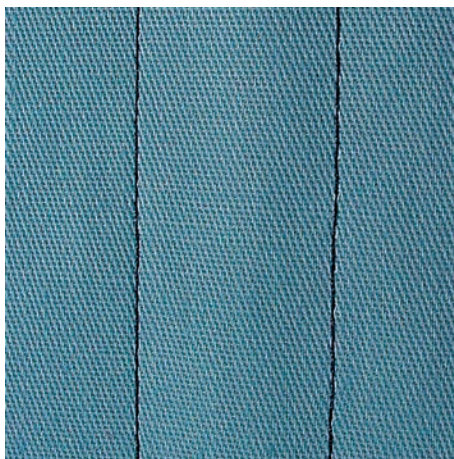
6.1 実用縫い一覧



ステッチパターン	ステッチ番号	名称	特徴・用途
	1	直線縫い	縫い目を接合したり、トップステッチや仮縫いに。
	2	ジグザグ	仕上げ、ニットの縫い目の縫製、レースインサートやゴムバンドの縫製に。
	3	バリオーバーロック	端部分をきれいに整えるため、伸縮性のある生地を縫い合わせ、同時に切り整える際に。
	4	ランニングステッチ	布端の繕いや補強、レースやゴムテープの縫い付けに。
	5	留め縫いプログラム	順縫いと逆縫いで縫い始めを自動的に留め縫いします。
	6	トリプル直線縫い	厚手の生地や、装飾効果のある生地の縫い目を補強する際に。
	7	トリプルジグザグ	丈夫な生地の耐久性のある縫い目、目立つ裾、装飾的な縫い目に。
	8	ネットステッチ	ゴム糸を含むストレッチ素材やヘム用。
	9	まつり縫い	ほとんどの生地タイプのまつり縫い押え、およびソフトジャージーや上質な生地のシェルエッジに。
	10	ダブルオーバーロック	伸縮性のある布地の縫い合わせと同時に、布端の補強処理を行う際に。
	11	スーパーストレッチステッチ	非常に伸縮性のあるオープンシームに。
	12	ギャザーステッチ	伸縮性のある糸でひだを作るため、また、中厚手の生地の縫い目をフラットに継ぎ合わせる際に。
	13	ストレッチオーバーロック	伸縮性のある布地の縫い合わせと同時に、布端の補強処理を行ったり、フラットに縫い目を継ぎ合わせる際に。

ステッチパターン	ステッチ番号	名称	特徴・用途
	14	トリコットステッチ	ランジェリーやセーターなどの目立つ裾や縫い目、トリコット生地 of 補修に。
	15	ユニバーサルステッチ	フェルトや皮革などの厚手の生地 of フラットな接ぎ合わせ、目立つ裾や装飾的な縫い目、エラスティックテープ of 縫い付けに。
	16	ジグザグステッチ	布端 of 仕上げや補強、エラスティックテープ of 縫い付け、装飾的な縫い目（飾り縫い目）などに。
	17	ライクラステッチ	フラット継ぎ合わせ of 縫い目、ライクラ生地上 of 見える部分 of 縫い目、コルセット縫い直し of 縫い目 of 際に。
	18	ストレッチステッチ	織物やニット of 伸縮性 of ある縫い目や裾に。
	19	補強オーバーロック	中厚手 of ニットやテリー織り of オーバーロック縫いやフラット継ぎ合わせ縫い目 of 際に。
	20	ニットオーバーロック	織物やニット of 伸縮性 of ある縫い目や裾 of 裁縫やきれいに整える際に。
	22	シンプルダーニングプログラム	薄い生地から厚い生地まで自動で繕う。
	23	補強ダーニングプログラム	厚手 of 生地 of 自動ダーニングに。
	24	バータックプログラム	ポケット of 開口部 of 補強や、ボタンホール鉾、ベルトループ of 縫い付け of 際に。
	25	バータックプログラム	ポケット of 開口部 of 補強や、ベルトループ of 縫い付け、縫い目端部分 of 固定 of 際に。
	26	大型フライステッチ	中～厚手 of 生地でポケット of 開口部、ジッパー、スリット部分を補強する際に。
	29	ふり幅 of 小さいまつり縫い	軽く、薄織りで柔らかい生地 of プラインドヘムとシェルシーム用に。
	30	手作業によるしつけ縫い	非常に長いステッチ長さが必要な作業に。
	32	一針直線縫い	本 of 直線縫いを組み合わせたつなぎステッチとして。
	33	三針直線縫い	3つ of 個別 of 直線縫いを組み合わせたつなぎステッチとして。
	34	つくろい縫い	「返し縫い」機能で of かがり縫い of 際に。

6.2 直線縫い



縫い目の長さは、デニム地の場合は長めのステッチ（約3～4mm）、薄手の生地の場合は短めのステッチ（約2～2.5mm）など、縫い物に合わせて調整してください。例えば、コードネットの長針（約3～5mm）でトップステッチをする場合など、糸の太さに合わせて縫い目の長さを調整します。

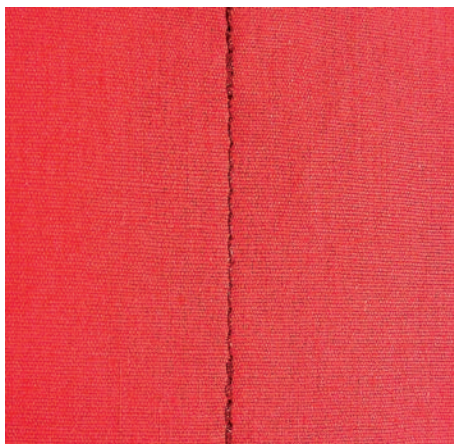
前提条件：

- ・ 標準押えNo. 1Cを取り付けます。



- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫いNo.1を選択します。

6.3 自動留め縫いプログラムで留め縫いをする



縫い終わりと縫い始めに6針ずつ前進と後進をして、留め縫いをします。

前提条件：

- ・ 標準押え #1C を取り付けます。

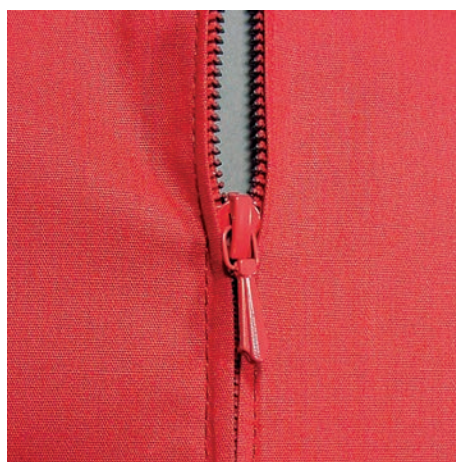


- > «実用縫い»をタップします。
- > 留め縫いプログラム No. 5 を選択します。
- > フットコントローラーを踏み込みます。
 - － ミシンが自動的に留め縫いをします。



- > 必要な長さを縫います。
- > «返し縫い» ボタンを押します。
 - － ミシンが自動的に留め縫いをして、停止します。

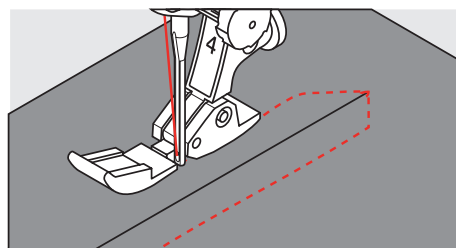
6.4 ファスナーを縫い付ける



縫い始めの布送りが難しい場合、縫い始めに糸をしっかり押える、布地を何針か縫うまで軽く後ろに引っ張る、または最初に1-2 cm後進で縫うなどをお勧めします。



- > 標準押え #1Cを取り付けます。
- > 実用縫いをタップします。
- > 直線縫い No. 1を選択します。
- > ファスナーを縫い付ける部分まで縫います。
- > 留め縫いをします。
- > ファスナーを縫い付ける部分を長いステッチでしつけ縫いします。
- > 縫い代を仕上げます。
- > 縫い目にアイロンをかけます。
- > ファスナーを縫い付ける部分を開きます。
- > ファスナーをしつけ縫いします。布地の下にまち針などで、布地の端同士がファスナーの中央で合うようにしつけます。
- > ファスナーを数センチ開きます。
- > ファスナー押え #4を取り付けます。
- > 針基線を右にします。
- > 押え上げレバーを使用して押え金を上げ、作品を置きます。
- > 左上から縫い始めます。
- > 針がファスナーの歯に沿って刺さるように、押え金の位置を調節します。
- > スライダー部分に差し掛かったら、針位置を下にして一度ミシンを止めます。
- > 押え金を上げます。
- > ファスナーを閉じます。
- > 続けて縫い、スリットが終わる手前で針位置を下にしてミシンを止めます。
- > 押え金を上げて作品の向きを変えます。
- > ファスナーの反対側まで縫い、針位置を下にしてのミシンを止めます。
- > 押え金を上げて作品の向きを変えます。
- > ファスナーの反対側を下から上に縫います。



6.5 ファスナーの両側を下から上に縫い付ける

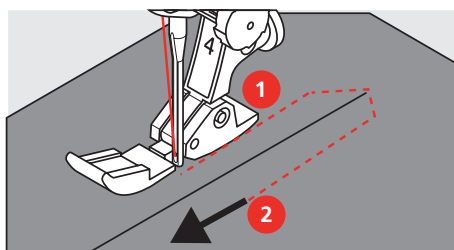
ベルベットなどの起毛生地の場合、ファスナーは両側とも毛並みと逆方向に縫い付けていくことをお勧めします。



目の詰まった布地や硬い布地を縫う際には、均等なステッチを縫うために90-100番の針を使用することをお勧めします。



- > 標準押え #1Cを取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い No. 1を選択します。
- > ファスナーを縫い付ける部分まで縫います。
- > 留め縫いをします。
- > ファスナーを縫い付ける部分を長いステッチでしつけ縫いします。
- > 縫い代を仕上げます。
- > 縫い目にアイロンをかけます。
- > ファスナーを縫い付ける部分を開きます。
- > ファスナーをしつけ縫いします。布地の下にまち針などで、布地の端同士がファスナーの中央で合うようにしつけます。
- > ファスナー押え #4を取り付けます。
- > 針基線を右にします。
- > 押え上げレバーを使用して、押え金を上げ、作品を置きます。
- > ファスナーの端の縫い目の中央から縫い始めます。
- > 縫い目の中央からファスナーの務歯の外側まで斜めに縫います。
- > (1)の側を下から上に向かって縫います。
- > スライダー部分に差し掛かったら、針位置を下にして一度ミシンを止めます。
- > 押え金を上げます。
- > ファスナーを押え金の後ろの位置まで開けます。
- > 押え金を下ろして再び縫います。
- > 針基線を左にします。
- > ファスナーの反対側 (2) を同様に下から上に縫います。



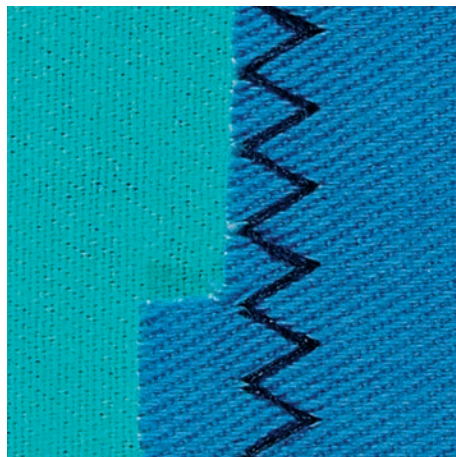
6.6 トリプル直線縫い



トリプル直線縫いはデニム地やコーデュロイなどの硬い布地や織り目の詰まった布地を縫う際に適しています。硬い生地や非常に目の詰まった生地の場合は、ジーンズ押えNo. 8を装着することをお勧めします。デニム地や帆布などの硬い布地が縫いやすくなります。飾りステッチをする際には送り長さを長めにします。

- > 標準押えNo. 1Cを取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > トリプル直線縫いNo. 6を選択します。

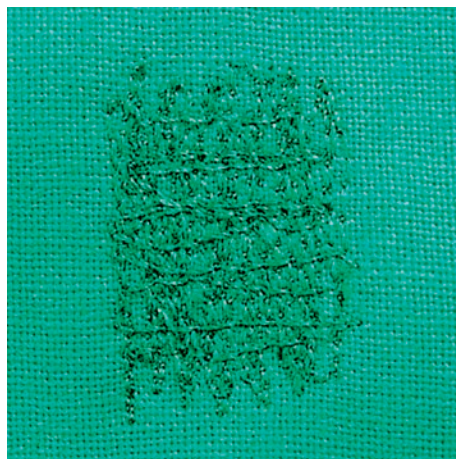
6.7 トリプルジグザグ縫い



デニム地や家具用生地、帆布などの硬い布地を縫う際に適しています。また、よく洗うものの布端に。布端をまず始めに処理します。

- > 標準押えNo. 1Cを取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > トリプルジグザグ縫いNo. 7を選択します。

6.8 マニュアル式繕い縫い

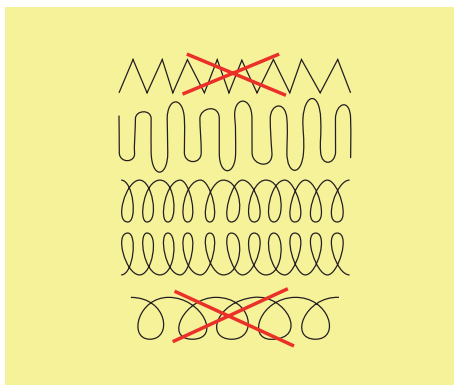


マニュアル式繕い縫い穴があいたり、摩耗して薄くなった部分の繕い縫いに。

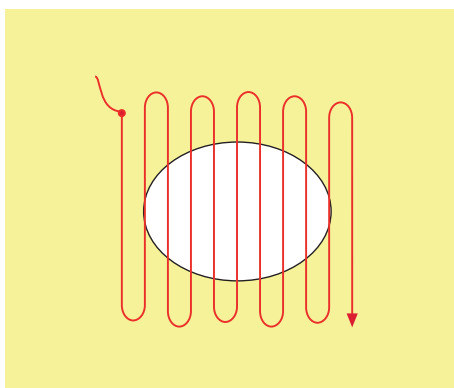
糸が表側に見えるとステッチが目立ち、きれいな仕上がりになりません。このような場合には、布地をゆっくりと送ります。布地の裏側で糸がダマになってしまう場合には、布地を早く送ります。糸が切れる場合には布地を均等に送ります。

- > つくろい縫い押え #9 を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い No. 1 を選択します。
- > 送り歯を下げます。
- > ソーイングテーブルを取り付けます。
- > 布地を繕い縫い枠（オプションアクセサリ）に取り付けます。
 - 繕い縫いをする場所がよれたりずれたりするのを防ぎます。
- > 左から右に縫い、布地を手で均等に送っていきます。

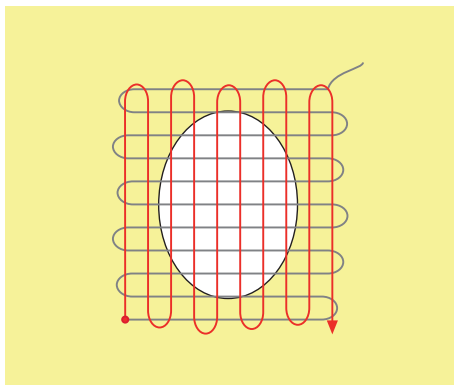
- > 穴があいたり、糸が切れないように、円形に方向転換をします。
- > 糸が布地にうまく分散するよう、縁取りは不均等な長さで縫います。



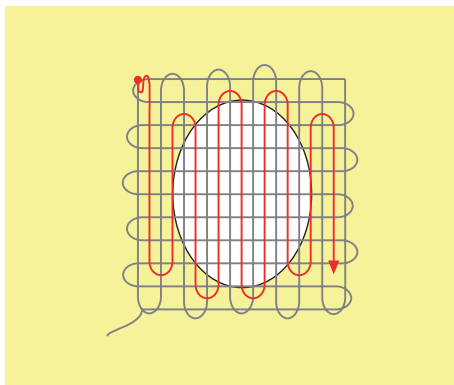
- > 最初のステッチはあまり間隔を詰めずに、繕う部分を大きくカバーするように縫います。
- > 縫う長さをランダムに変えて縫います。



- > 布地を90° 回転させます。
- > 最初のステッチはあまり間隔を詰めずに縫います。



- > 布地を180° 回転させます。
- > 縫い目があまり重ならないように縫います。



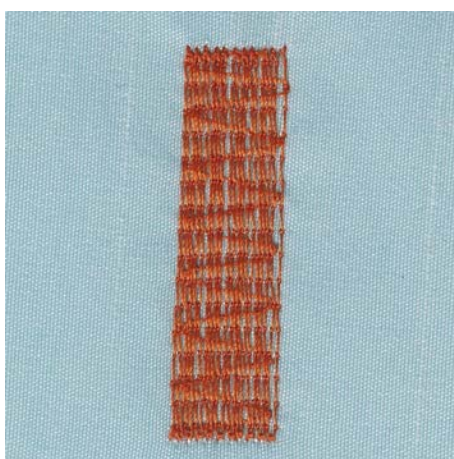
6.9 自動繕い縫い



簡易かがりプログラムNo. 22は、特に薄い斑点や裂け目を素早くかがる際に適しています。繕う部分に薄いあて布や接着芯などを使用することをお勧めします。簡易かがりプログラムNo. 22では、すべての布地の縦糸を交換します。布地がゆがんでしまう場合には、バランスを調整します。

- > 標準押え #1Cまたは布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > シンプルダーニングプログラム No. 22を選択します。
- > 薄手の布地を繕い縫い枠（オプションアクセサリ）にセットします。
 - つくろい縫いをする場所がよれたりずれたりするのを防ぎます。
- > 左上から縫い始めます。
- > 最初の一行を縦に縫います。
- > ミシンを止めます。
- > «返し縫い»ボタンを押します。
 - 長さがプログラムされています。
- > 繕い縫いがされます。
 - ミシンは自動的に停止します。

6.10 自動補強繕い縫い



強化かがりプログラム No. 23は、特に薄い斑点や裂け目を素早くかがる際に適しています。強化かがりプログラム No. 23では、すべての布地の縦糸を交換します。



繕い縫いプログラムで、破れた箇所全体をカバーできない場合には、布地の位置を変えて、もう一度繕い縫いプログラムを行います。プログラムにセットした長さで何回でも繰り返し縫うことができます。

- > 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを取り付けます。

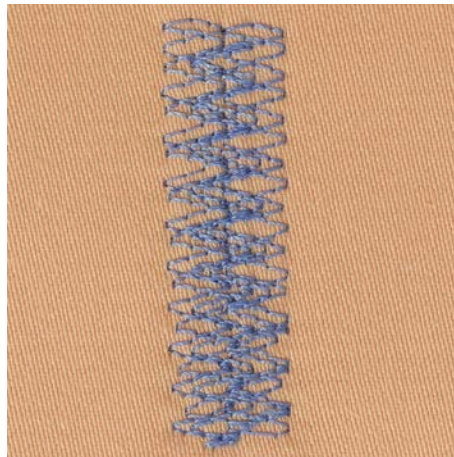


- > «実用縫い»をタップします。
- > 補強ダーニングプログラム No. 23を選択します。
- > 薄手の布地を繕い縫い枠（オプションアクセサリ）にセットします。
 - 繕い縫いをする場所がよれたりずれたりするのを防ぎます。
- > 左上から縫い始めます。
- > 最初の一行を縦に縫います。
- > ミシンを止めます。



- > «返し縫い»ボタンを押します。
 - 停止長さがプログラムされています。
- > 繕い縫いがされます。
 - ミシンは自動的に停止します。

6.11 補強の繕い縫い



つくろい縫い No. 34は、ジーンズや作業着などの重い生地や固い生地の損傷部分に特に適しています。



- > 標準押え #1Cを取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > つくろい縫い No. 34を選択します。
- > 最初の一行を縦に縫います。左上から開始します。
- > 必要な長さに達したら«返し縫い»ボタンを押します。
 - ミシンが逆方向に縫います。



- > 必要な長さに達したら、もう一度«返し縫い»ボタンを押してもう一つの長さを縫います。
- > 必要な幅がカバーされるまで、このプロセスを繰り返します。

6.12 布端の処理をする



ジグザグ縫いNo. 2は全ての布地に適しています。また、伸縮性が必要なステッチや飾りステッチとしても使用できます。薄手の布地には繕い縫い用の糸を使用します。サテンステッチには振り幅が0.3 – 0.7 mmの目の詰まった短いジグザグ縫いが向いています。サテンステッチはアップリケや刺しゅうに使うことができます。

前提条件：

- ・ 布端が丸まらないように平らにします。
- > 標準押えNo. 1Cを取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > ジグザグNo. 2またはサテンステッチNo. 1315を選択します。
- > 振り幅は広すぎないように、送り長さは長すぎないように設定します。
- > 布地を針が布地と布端の外側に刺さるよう、押え金の真ん中に来るようにセットします。

6.13 ダブルオーバーロック

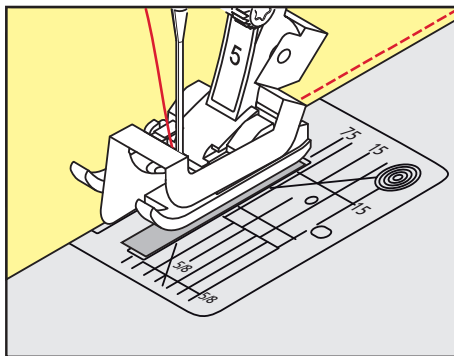


ダブルオーバーロックステッチは目の粗いニット地やジャージーに適しています。ニット地には、細かい編み目に穴を開けてしまわないよう、新しいジャージー針を使用することをお勧めします。伸縮性のある布地にはストレッチ針を使用します。

- > 標準押え #1Cまたはオーバーロック縫い押え #2Aを取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > ダブルオーバーロック No. 10を選択します。

6.14 布端のトップステッチ（小幅）

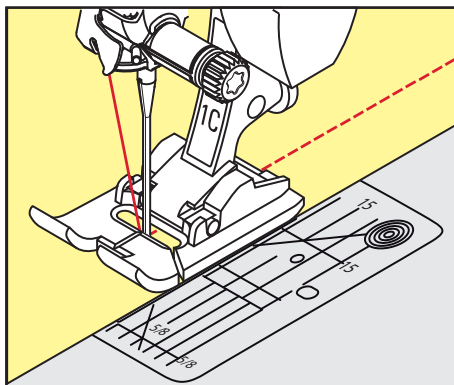
- > まつり縫い押え #5または端縫い押え #10/10C を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い No. 1を選択します。
- > 布端をまつり縫い押えのガイドの左側に合わせます。
- > 針基線をトップステッチをしたい位置にあわせて設定します。



6.15 布端のトップステッチ（大幅）

- > 標準押え #1C を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い No. 1 を選択します。
- > 縁を押え金に沿って、またはマーキングに沿って1〜2.5cmの位置に誘導します。

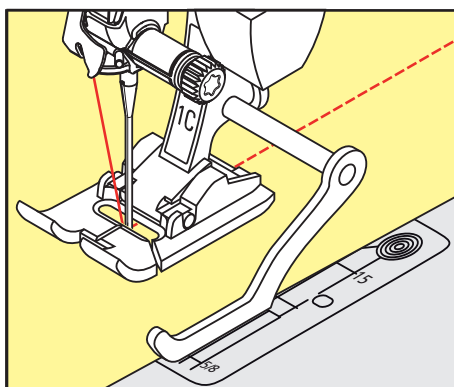
- > 針基線をトップステッチをしたい位置にあわせて設定します。



6.16 シームガイド（オプションアクセサリ）を使用したトップステッチ

すでに縫った縫い目に対して、平行で幅の広いトップステッチをする場合には、シームガイド（オプションアクセサリ）を使用することをお勧めします。

- > 標準押え #1Cを取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫い No. 1を選択します。
- > 押え金の後ろのネジを緩めます。
- > シームガイドを押えの穴に差し込みます。
- > 必要な幅に調節します。
- > ネジを締めます。
- > 布端をシームガイドに合わせます。

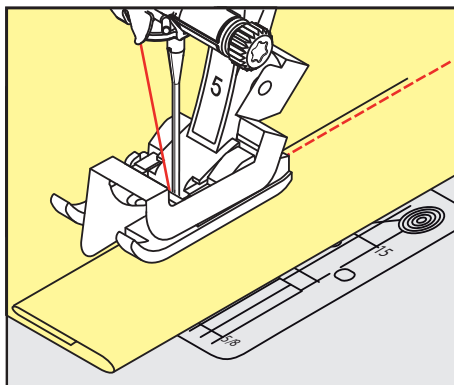


6.17 裾を縫う

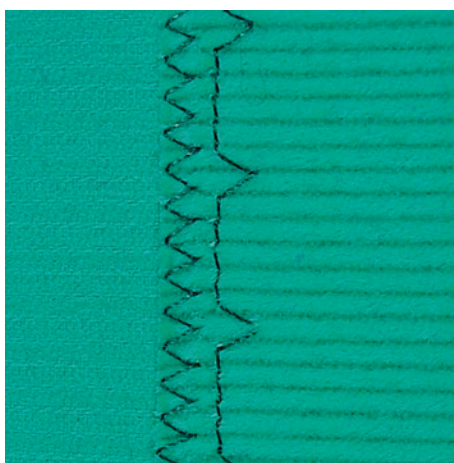
まつり縫い押えNo. 5（オプションアクセサリ）を使用する際には、針基線を一番右か一番左にします。標準押えNo.1Cおよびエッジ縫い押えNo.10/10C（オプションアクセサリ）では、全ての針基線が使用できます。

- > まつり縫い押えNo.5C（オプションアクセサリ）、標準押えNo.1Cまたはエッジ縫い押えNo.10/10C（オプションアクセサリ）を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 直線縫いNo.1を選択します。
- > 内側の折り目をまつり縫い押えのガイドの右側に合わせます。

> 針基線を一番右にし、内側の折り目に沿って縫います。



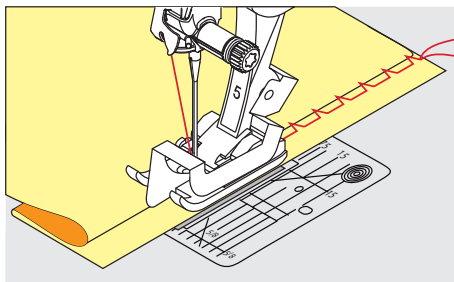
6.18 まつり縫い



綿、毛および混紡の中厚地～厚地の目立たない縁縫いに。

前提条件：

- ・ 布端の処理をします。
- > まつり縫い押え #5（オプション）を取り付けます。
- > 実用縫いをタップします。
- > まつり縫いNo. 9を選択します。
- > 処理した布端が右側に来るように布地を折ります。
- > 布地を押え金の下に入れ、折り山が押え金のガイドの左側に沿うようにセットします。
- > 折り目の端を押えのガイドに沿って縫うと、均等な位置にかがり縫いをすることができます。
 - － 針が折り目の端のぎりぎりの位置に刺さるように注意します。
- > 10 cm (3.93 inch)ほど縫ったら、布地の表裏をチェックして、必要に応じて再度振り幅を調節します。



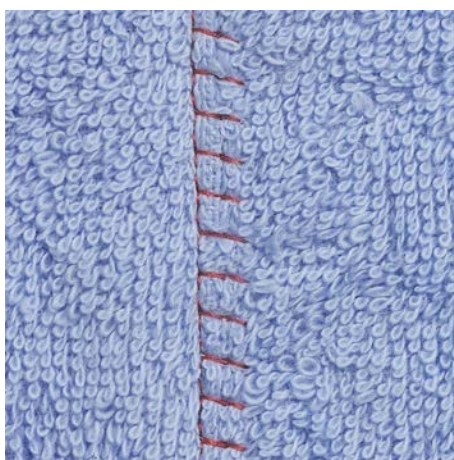
6.19 飾りヘムステッチ



飾りヘムステッチはジャージー、綿、毛、化学繊維および混紡の伸縮性のある布地の裾に向いています。

- > 標準押えNo. 1Cを取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > トリコットステッチ No. 14を選択します。
- > 裾にアイロンをかけ、必要であればしつけをします。
- > 押え圧を必要に応じて弱くします。
- > 縫いたい位置に合わせて表側を縫います。
- > 裏側のはみ出た布地を切り落とします。

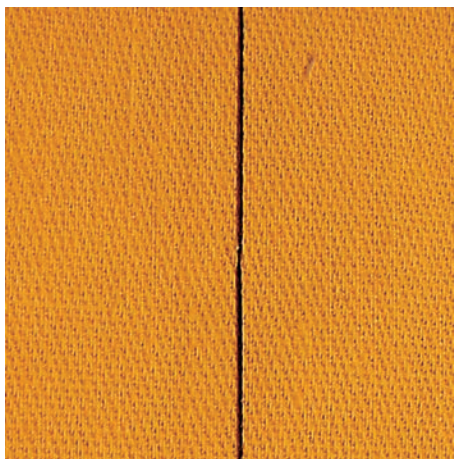
6.20 フラット縫い



フラット縫いはふわふわしたまたは厚いタオル地やフェルト、皮革などに適しています。

- > 標準押え #1C を取り付けます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > ストレッチオーバーロック No. 13 を選択します。
- > 布端を重ねます。
- > 布端に沿って縫います。
- > 非常に平らで安定した縫い目になるように、針が布地の上端から下の布地に向かって正しく突き刺さるようにします。

6.21 しつけ縫い



しつけ縫いには、取り除くときに楽な細い繕い縫い用の糸を使用することをお勧めします。しつけ縫いステッチ No. 21では4回送る毎に1針が縫われます。しつけ縫いステッチは、一目が長いステッチが必要な場合に使用します。

- > つくろい縫い押え #9（オプション）を取り付けます。
- > 送り歯を下げます。
- > «実用縫い»をタップします。
- > 手作業によるしつけ縫い No. 30 を選択します。
- > 布の層がずれないように、布の層をしつけ縫いの方向に沿ってピンで留めて固定します。
- > 糸を押さえて、はじめに3－4針の留め縫いをします。
- > 一針縫って、必要なステッチの長さだけ、布地を後ろ側に引っ張ります。
- > 一針縫います。
- > 縫い終わりに3－4針の留め縫いをします。



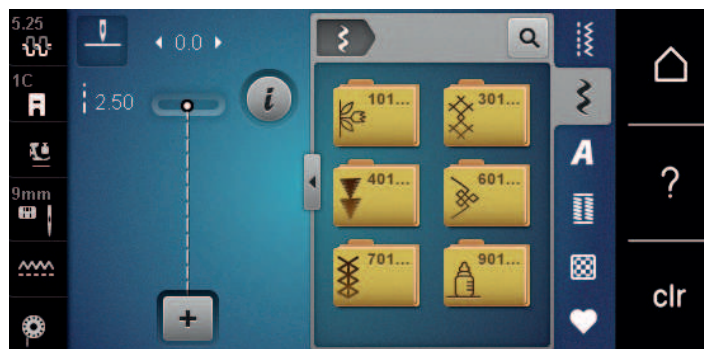
7 飾りステッチ

7.1 飾りステッチについて

布地のタイプに応じて、シンプルな、または凝った飾りステッチにすると効果的です。

- ・ シンプルなストレートステッチでプログラムされた飾りステッチは、装飾ステッチ No. 101のような薄手の布地に特に適しています。
- ・ 3本のストレートステッチや数本のサテンステッチでプログラムされた飾りステッチは、装飾ステッチ No. 107のような中厚手の生地特に適しています。
- ・ サテンステッチでプログラムされた飾りステッチは、装飾ステッチ No. 401のような厚手の生地特に適しています。

きれいな飾りステッチを縫うには、上糸と下糸の色を合わせ、芯地を使用します。タオル地や毛足の長い布地にはさらに表側に、ステッチを縫った後に簡単に落とせる水溶性の芯地を使用することをお勧めします。



飾り縫いステッチ	カテゴリー	名称
	カテゴリー 100	ナチュラルステッチ
	カテゴリー 300	クロースステッチ
	カテゴリー 400	サテンステッチ
	カテゴリー 600	幾何学模様ステッチ
	カテゴリー 700	ホワイト刺しゅうステッチ
	カテゴリー 900	キッズステッチ

7.2 ボビンマジック



ボビンに糸以外のコードなどを巻いて縫うことができます。フリーモーションで布地を送ります。通常のフリーモーションソーイングと同じ要領ですが、飾り付けるのは裏側です。

飾り縫いをする部分は刺しゅう用の安定紙で補強します。パターンは、生地裏側に描くことができます。パターンは、生地の表側に描くことも可能です。その上で、ポリエステル、コットン、レーヨンなどの糸を使って、フリーモーションの直線縫いでラインを縫い付けていきます。裏側に出たステッチラインをガイドにしてボビンワークをしていきます。

ボビンワークにBSR機能を使用することができます。作品を一定の速度で均等に動かしてデザインを縫います。縫い終わったら安定紙を取り除きます。

まず始めに試し縫いをして仕上がりをチェックします。

すべての飾りステッチがこの手法に適しているわけではありません。シンプルな飾りステッチが最も適しています。サテンステッチのような目の詰まったステッチやボタンホールなどは避けてください。

注意

適切でないボビンケースを使用した場合

ボビンケースが破損する恐れがあります。

> ボビンワーク用ボビンケース（オプションアクセサリ）を使用してください。



> オープン刺しゅう押え #20C/20Dを取り付けます。

> «飾りステッチ»をタップします。

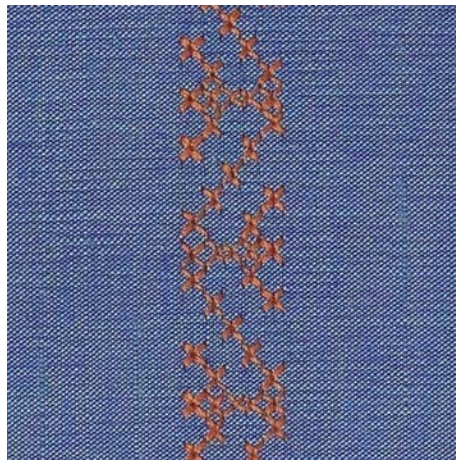
> 適した飾り縫いステッチを選択します。

> 太い糸で縫ってもきれいな縫い目になるように、ステッチの長さや幅を調整するには、「マルチファンクションノブを上」に「と」「マルチファンクションノブを下」に回します。



> 上糸調子を調整するには、「上糸調子」をタップします。

7.3 クロステッチ



クロステッチは伝統的なテクニックで、よく使われる飾りステッチです。リネン生地にクロステッチを縫い付けると、手刺しゅうのように見えます。クロステッチに刺しゅう糸を使用すると、ステッチパターンがとてもきれいに仕上がります。クロステッチはホームデコレーションや洋服の縁飾り、色々な飾り縫いに適しています。最初の列が歪むと、仕上がりに大きく影響するので、一列目をまっすぐに縫うことが重要です。

> 標準押え #1またはオープン刺しゅう押え #20を取り付けます。

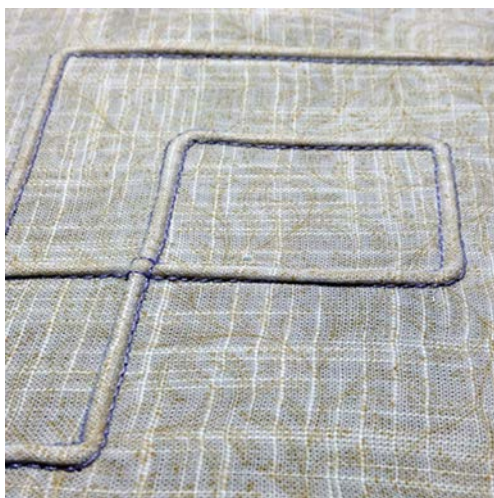
> カテゴリー300のクロステッチを選択し、必要であればコンビネーションを作ります。

> 最初の列を確実にまっすぐに縫うには、シームガイド（オプションアクセサリ）またはエッジストップ（オプションアクセサリ）の使用をお勧めします。

> 2列目を押え金の幅に合わせるか、シームガイドを使って最初の列の横に縫います。

7.4 ピンタック

ピンタック



ピンタックは細くつまんだひだを縫ったもので、作品を型紙に合わせてカットする前に前もって縫っておきます。ピンタックは、飾り縫いやホワイトワークなど他の刺しゅうとのコンビネーションに適しています。この手法は、タックフットを使うことで、大幅に簡略化することが可能です。ピンタックでは布のサイズが縮小されます。十分な大きさの布地を用意してください。

タックフットの概要

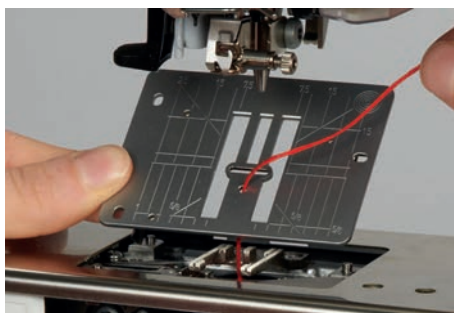
ピンタック押え	番号	説明・用途
	# 30 (オプションアクセサリ)	3本溝 厚地に。 4 mm 幅の二本針
	# 31 (オプションアクセサリ)	5本溝 中厚地から厚地に。 3 mm 幅の二本針
	# 32 (オプションアクセサリ)	7本溝 薄地から中厚地に。 2 mm 幅の二本針
	# 33 (オプションアクセサリ)	9本溝 とても軽い素材用（アクセントヤーンなし）。 1または1.6 mm幅の二本針

ピンタック押え	番号	説明・用途
	# 46C (オプションアクセサリ ー)	5本溝 1.6 - 2.5 mm 幅の二本針 極薄地から中厚地に。

アクセントヤーンの引き込み

タックは、アクセントヤーンで縫うと、より特徴的でレリーフのように見えます。アクセントヤーンは、各々の押え金の溝にぴったり収まるものでなければなりません。アクセントヤーンは色落ちしないもの、縮まないものでなければなりません。

- > ミシンの電源を切ります。
- > 針を取り外します。
- > 押え金を取り外します。
- > パンチワーク用針板を取り外します。
- > 釜カバーを開けます。
- > アクセントヤーンを下から釜の隙間部分を通してパンチワーク用針板の穴に通します。
- > 針板を取り付けます。
- > 釜カバーを閉じます。
- > アクセントヤーンは、釜カバーの細い隙間をガイドに使って自由に送れるようにします。



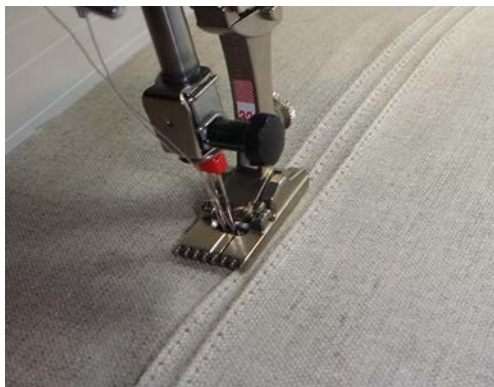
- > レバーに糸コマを取り付けます。



- > アクセントヤーンがスムーズに動くかどうか確認します。
- > ソーイング中、糸が釜カバーの穴をスムーズに通らない場合には、釜カバーを開けたままにします。
 - 縫っている途中でアクセントヤーンは布の裏側で下糸で固定され／縫いこまれていきます。

ピントックを縫う

- > 適当な二本針を取り付けます。
- > 二本針に糸をかけます。
- > 下糸を上を持ってきます。
- > 最初のピントックを縫います。
- > 最初のピントックを、必要なピントックの間隔に合った押えの溝の一つに合わせます。
- > 残りのピントックを最初のピントックと平行に縫います。

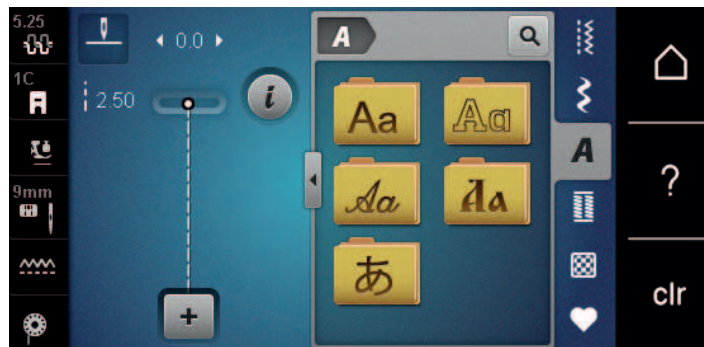


8 アルファベット

8.1 アルファベットについて

ブロック、アウトライン、スクリプトフォントとキリル文字は、2つの異なるサイズで縫うことができます。ブロック、アウトライン、スクリプトのフォント、またキリル文字も小文字で縫うことができます。

きれいなステッチを縫うには、上糸と下糸に同じ色の糸を使用します。作品は裏側を安定紙で補強できます。タオル地や毛足の長い布地にはさらに布地の表側に水溶性の安定紙を使用することをお勧めします。



ステッチパターン	名称
ABCabc	ブロック体
ABCabc	白抜き文字
ABCabc	スクリプトフォント（斜体）
АБВабв	キリル文字
あいう	ひらがな

8.2 文字列を入力する



試し縫いには、実際に作品で使用する糸、布地、安定紙を使用することをお勧めします。また布地にしわが寄ったり、引っかかりたりせずに布送りが均一になるように注意します。ソーイング中には布地を引っ張ったり押し込んだり、押さえたりしないようにします。



- > «アルファベット»をタップします。
- > 書体を選択します。



- > «コンビネーションモード／シングルモード»をタップして、コンビネーションを作成します。
- > «ウィンドウの拡大／縮小» (1) をタップして、その他の入力モードを表示します。



アルファベット

- > 文字を選択します。
-  > «大文字» をタップすると、大文字になります（標準設定）。
-  > «小文字» をタップすると、小文字になります。
-  > «数字および数学記号» をタップすると、数字の入力ができます。
-  > «特殊文字» をタップすると、特殊文字を入力できます。



-  > «消去» をタップすると、入力したテキストの文字が一つずつ削除されます。
- > «ウィンドウの拡大／縮小» をもう一度タップすると、その他の入力モードが閉じます。

8.3 文字の大きさを変更する

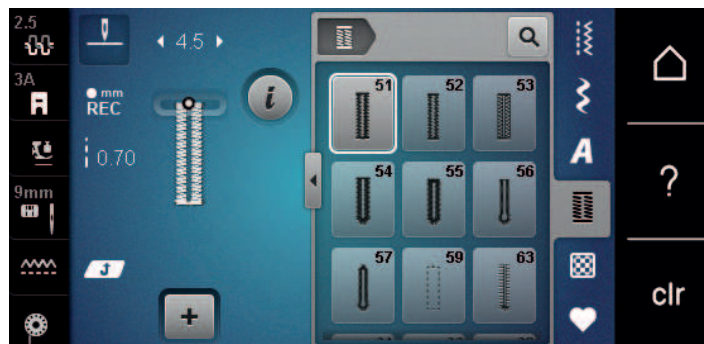
ブロック体、白抜き文字、筆記体、キリル文字はシングルモードで大きさを変更することができます。

-  > «アルファベット» をタップします。
- > 書体を選択します。
- > 文字を選択します。
-  > «iダイアログ» をタップします。
-  > «文字の大きさを変更する» をタップすると、文字の大きさが小さくなります。
- > «文字の大きさを変更する» をもう一度タップすると、文字の大きさが9mmに拡大されます。

9 ボタンホール

9.1 ボタンホール

BERNINA 540はボタンホールのコレクションを豊富に備え、どのボタン、目的、衣服にでも適切なボタンホールを作ることができます。ボタンもミシンで縫うことができます。アイレットも同様に縫うことができます。



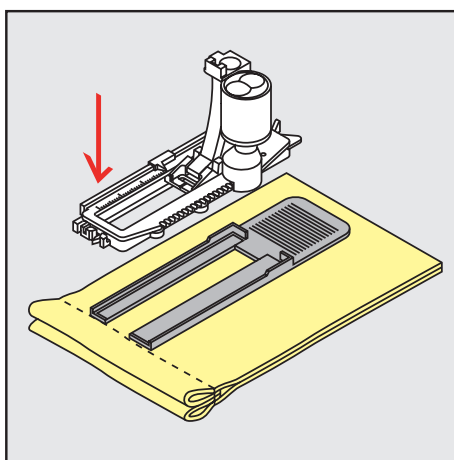
ステッチパターン	ステッチ番号	名称	特徴・用途
	51	標準ボタンホール	ブラウス、ドレス、ベッドリネンなどの薄地から中厚地の生地に。
	52	細い標準ボタンホール	ブラウス、ドレス、子供服や赤ちゃん服、クラフトなどの薄地から中厚地の生地に。
	53	伸縮ボタンホール	伸縮性のある生地全般に。
	54	標準バータック付きラウンドボタンホール	ドレス、ジャケット、コート、レインコートなどの中厚地から厚地に。
	55	水平バータック付きラウンドボタンホール	ドレス、ジャケット、コート、レインコートなどの補強バー付きの中厚地から厚地に。
	56	はと目ボタンホール	ジャケット、コート、レジャーウェアなど、厚手の非伸縮性生地に。
	57	キーホールボタンホール (ポイントバータック付き)	ジャケット、コート、レジャーウェアなど、より丈夫で伸縮性のない生地に。
	59	直線縫いボタンホール	ボタンホールのスティステッチや補強、ボタンホールの縁取りに使用します。特に皮革や合成皮革のボタンホールに。
	60	ボタン縫い付けプログラム	二つ穴、四つ穴のボタンの縫い付け。
	61	小さなジグザグアイレット	コードや細いリボンの穴に、飾りに。
	62	直線縫いアイレット	コードや細いリボンの穴に、飾りに。
	63	ヘアローム(伝統的) ボタンホール	軽量から中程度の厚みの生地を使用した衣類や手工芸品に、手縫い風のステッチ効果を与えるために。

ステッチパターン	ステッチ番号	名称	特徴・用途
	64	ダブルラウンドボタンホール	あらゆるタイプの中厚地から厚地の素材に。
	66	ダブルポイントバータックの細いボタンホール	ドレス、ジャケットなど、中厚手の生地 of 飾りボタンホールに。
	69	ダブルポイントバータック付きの飾りボタンホール	しっかりした非伸縮性の布地の飾りボタンホールに。

9.2 高さ調節板を使用する

ボタンホールをコーナーや段差部に縫うときは、ボタンホール用高さ調節板（オプションアクセサリ）を使用することをお勧めします。

> 高さ調節板を後ろから布地と押え金の間に差込み、段差のある部分にセットします。

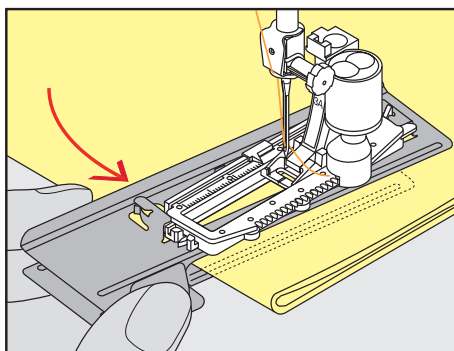


> 押え金を下げます。

9.3 ボタンホール用布送りサポートを使用する

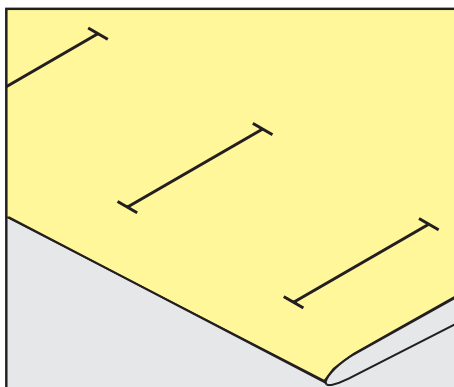
固い布地にボタンホールを縫う場合には、布送りサポート（オプションアクセサリ）の使用をお勧めします。布送りサポートは 布ガイド付自動ボタンホール押え#3Aと一緒に使用します。

> 高さ調節板を横からゆっくりと差し込みます。

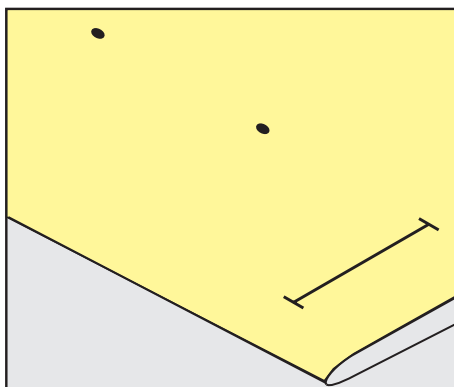


9.4 ボタンホールの印をつける

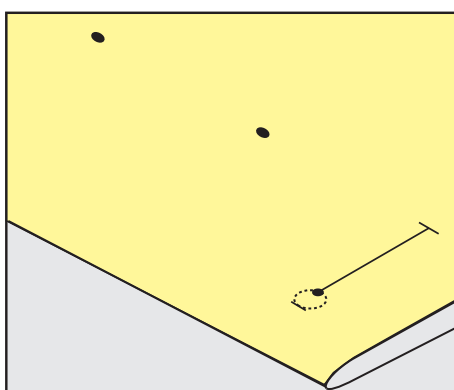
- > 手動でボタンホールを縫う場合には、布地に全てのボタンホールの位置と長さをチャコペンまたは水性ペンで書きます。



- > 自動でボタンホールを縫う場合には、布地に最初のボタンホールの位置と長さをチャコペンまたは水性のペンで書き、残りのボタンホールは縫い始めの位置のみに印をつけます。



- > はと目ボタンホールおよびラウンドボタンホールを縫う場合には、布地にボタンホールの長さをチャコペンまたは水性のペンで書き、残りのボタンホールは縫い始めの位置のみに印をつけます。はと目の部分はボタンホールの長さに加えて縫われます。



9.5 ボタンホール芯

コード芯を布ガイド付き自動ボタンホール押え #3A と一緒に使用します

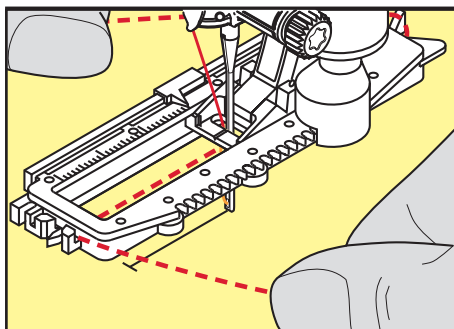
ボタンホール芯はボタンホールの強度を強くまた仕上がりをよくし、特に標準ボタンホールNo. 51に適しています。使用するコード芯はパールコットン刺しゅう糸の8番、強度のある手縫い用糸、およびかぎ編み用糸が理想的です。ボタンホールを縫う際にはボタンホール芯を押さえないようにします。

前提条件：

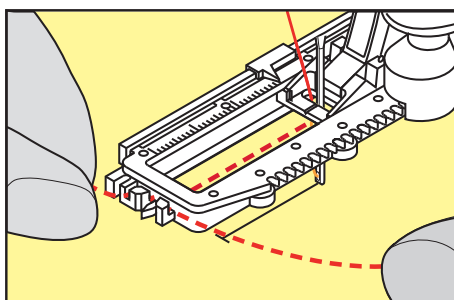
- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを取り付けたら、上に上げます。
- > ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
- > ボタンホール芯を布ガイド付き自動ボタンホール押えの右下に入れます。

ボタンホール

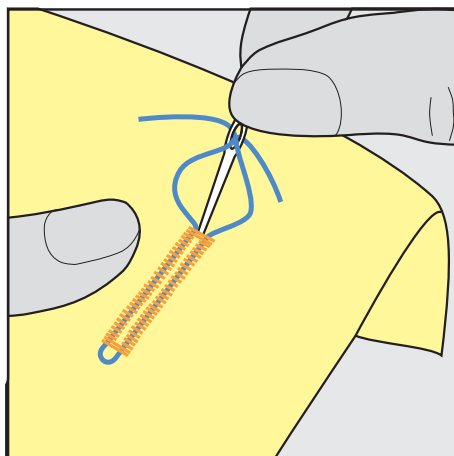
> ボタンホール芯を押えの後方にあるピンに引っ掛けます。



> ボタンホール芯を押えの左下から前に引っ張ります。



- > ボタンホール芯の端を止め具に引っ掛けます。
- > 布ガイド付き自動ボタンホール押えを下げます。
- > ボタンホールを縫います。
- > ボタンホール芯のループがボタンホールの縫い目の下に隠れるように引っ張ります。
- > ボタンホール芯の終わりを、手縫い針を使用して布の裏側に出し、結ぶか留め縫いをします。

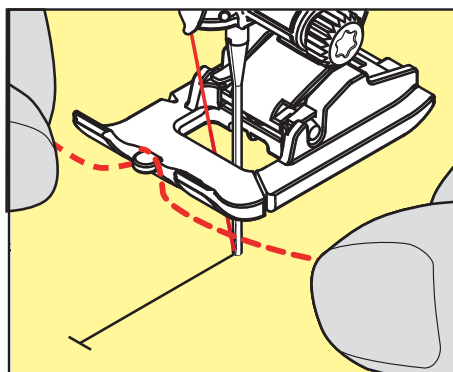


ボタンホール芯をボタンホール押え #3Cと一緒に使用します

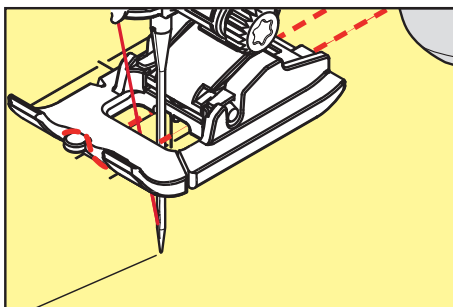
前提条件：

- ・ ボタンホール押え #3C を取り付けたら、上に上げます。
- > ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。

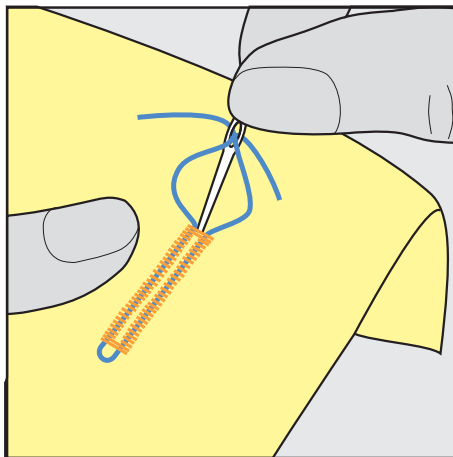
- > 押えの前方の突起にボタンホール芯を引っ掛けます。



- > ボタンホール芯の両端を押えの後ろにもって行き、それぞれの芯糸を押えの溝に入れます。



- > ボタンホール押えを下げます。
- > ボタンホールを縫います。
- > ボタンホール芯のループがボタンホールの縫い目の下に隠れるように引っ張ります。
- > ボタンホール芯の終わりを、手縫い針を使用して布の裏側に出し、結ぶか留め縫いをします。



9.6 試し縫いをする

ボタンホールの試し縫いをする際には、常に作品と同じ布地を使用します。芯地およびボタンホールの種類も、作品と同じものを使用することをお勧めします。縫う方向も作品に合わせます。試し縫いをして、完璧なボタンホールができるまで設定を調整します。

直線縫い-ボタンホールNo. 59で作成したボタンホールは、柔らかく目の粗い織地や、強度の必要なボタンホールに適しています。皮革やビニール地、フェルトなどにボタンホールを縫う際、下縫いをすることで強度を増すことができます。

手動で標準ボタンホール、および自動のはと目ボタンホール、ラウンドボタンホールなどを縫う際にバランスを調節すると、調節は両側の縫い目に均等に有効になります。手動ではと目ボタンホールまたはラウンドボタンホールを縫う際にはバランスは左右対称になります。

ステッチカウンター機能がオンになっていて、バランスの変更をすると、それぞれの穴かがりのバランスが別々に調節されます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタンホールを選択します。
- > 使用したい押え金を取り付けます。
- > 布地を押え金の下に入れ、押え金を下げます。
- > フットコントローラーを軽く踏んで縫い始めます。布地を軽く持ってスムーズに送ります。
- > ソーイング中にバランスをチェックして、必要があれば調節します。
- > 試し縫いしたボタンホールをチェックして、必要に応じてその他の設定を調整します。

9.7 ボタンホールの穴幅を設定する

ボタンホールの穴幅を0.1-2.0mmの間で設定することができます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタンホールを選択します。



- > «iダイアログ»をタップします。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > 多機能ボタン 上または「多機能ボタン 下」を回して、ボタンホールの穴幅を設定します。

9.8 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを使用して、ボタンホールの大きさを決めます



ディスプレイの下部の黄色い丸枠の真ん中に直接ボタンを当てます。「多機能ボタン 上/下」を回すと、黄色い丸枠の大きさが変わり、ボタンの直径を測ることができます。

ボタンの直径には自動的に2 mmが加算され、ボタンホールの長さが出ます。例えば、ボタンの直径が14 mmの場合、ボタンホールの大きさは16 mmと計算されます。

前提条件：

- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aを取り付けます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタンホールを選択します。



- > «iダイアログ»をタップします。



- > «ボタンホールの長さを調整する»をタップします。
- > 「多機能ボタン 上」または「多機能ボタン 下」を回して、ボタンホールの長さを設定します。

9.9 ボタンホール押え#3Cを使用して、ボタンホールの大きさを決めます

ボタンホール押え#3Cを使用して、ステッチカウンタ機能でボタンホールの長さを決定します。ステッチカウンタ機能は全てのボタンホールに適しています。ボタンホールの左側は前進で、右側は後進で縫われます。バランスが変更された場合には、それぞれのボタンホールでステッチカウンタ機能を新しく保存しなおす必要があります。

前提条件：

- ・ ボタンホール押え #3Cを取り付けます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタンホールを選択します。



- > «iダイアログ»をタップします。



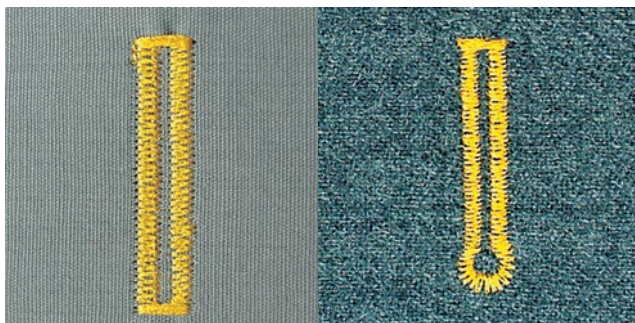
- > «ステッチカウンタで長さをプログラムする»をタップします。
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。
- > ミシンを止めます。



- > «返し縫い»ボタンを押すと、ミシンが手前側のパートックと反対側の穴かがりを後進で縫います。
- > 最初の穴かがりの縫い始め位置まで来たら、ミシンを止めます。

- > «返し縫い»ボタンをもう一度押すと、ミシンが奥側のパークタックと留め縫いを縫います。
 - ボタンホールの長さは、ミシンの電源を切るまで保存されるので、続けて同じボタンホールを縫うことができます。

9.10 ボタンホールを自動で縫う



布ガイド付き自動ボタンホール押えNo. 3Aを使用すると、押え金の下についたセンサーでボタンホールの長さが自動的に計測されます。同じ大きさのボタンホールを正確にコピーすることができ、ミシンはちょうどよい幅に自動で切り替えます。布ガイド付き自動ボタンホール押えNo. 3Aはボタンホールのタイプによって4 – 31 mmのボタンホールを縫う際に適しています。長さを正確に測るには布ガイド付き自動ボタンホール押えNo. 3Aが布地に対して平行に接していなければなりません。プログラムされたボタンホールはすべて同じ長さでそろって縫われます。

前提条件：

- 布ガイド付き自動ボタンホール押えNo. 3Aを取り付けます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタンホール No. 51 – 59, No. 63, 64, 66または69を選択します。
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。



- > «返し縫い»ボタンを押して、ボタンホールの長さをプログラムします。



- > «スタート/ストップ»ボタンを押すか、フットコントローラーを踏み込みます。
 - ミシンがボタンホールを最後まで自動的に縫います。残りのボタンホールも同じように自動的に縫われます。

9.11 手縫い風ボタンホールをプログラムする

前提条件：

- 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3A を取り付けます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ヘアローム(伝統的) ボタンホール No. 63 を選択します。
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。



- > «返し縫い» ボタンを押して、ボタンホールの長さをプログラムします。
 - ミシンがボタンホールを最後まで自動的に縫います。残りのボタンホールも同じように自動的に縫われます。

9.12 ボタンホール押さえ#3Cを使用して、手動7ステップボタンホールを縫います

ボタンホールの長さはソーイング中に好きなサイズに決められます。パークタックとはと目、留め縫いはプログラムされています。各ステップは矢印アイコンでのスクロールおよび«返し縫い» ボタンで選択できます。

前提条件：

- ボタンホール押さえ #3C を取り付けます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > 標準ボタンホール No. 51 を選択します。



- > «iダイアログ»をタップします。



- > «長さをマニュアルで設定する»をタップします。
 - ディスプレイにステップ1がボタンホールの縫い始めとしてアクティブになります。

ボタンホール

- > 必要なボタンホールの長さを縫います。
 - ステップ2がアクティブになります。



- > 必要なボタンホールの長さまたは印をつけた位置で、ミシンを止めます。
- > 「スクロール 下」をタップすると、ステップ3が表示されます。
 - ミシンが逆方向に直線縫いをします。
- > ボタンホールの縫い始め位置まで来たら、ミシンを止めます。
- > 「スクロール 下」をタップすると、ステップ4が表示されます。
 - ミシンが奥側のパートタックを縫い、自動的に停止します。
- > 「スクロール 下」をタップすると、ステップ5が表示されます。
 - ミシンがもう一つの穴かがりを縫います。
- > 最初の穴かがりの縫い始め位置まで来たところでミシンを止めます。
- > 「スクロール 下」をタップすると、ステップ6が表示されます。
 - ミシンが手前側のパートタックを縫い、自動的に停止します。
- > 「スクロール 下」をタップすると、ステップ7が表示されます。
 - ミシンが留め縫いをして、自動的に止まります。

9.13 ボタンホール押さえ#3Cを使用して、手動5ステップボタンホールを縫います

ボタンホールの長さはソーイング中に好きなサイズに決められます。パートタックとはと目、留め縫いはプログラムされています。各ステップは矢印アイコンでのスクロールおよび「返し縫い」ボタンで選択できます。

前提条件：

- ボタンホール押さえ #3C を取り付けます。



- > 「ボタンホール」をタップします。
- > 標準パートタック付きラウンドボタンホール No. 54 を選択します。



- > 「iダイアログ」をタップします。



- > 「長さをマニュアルで設定する」をタップします。
 - ディスプレイにステップ1がボタンホールの縫い始めとしてアクティブになります。
- > 必要なボタンホールの長さを縫います。
 - ステップ2がアクティブになります。

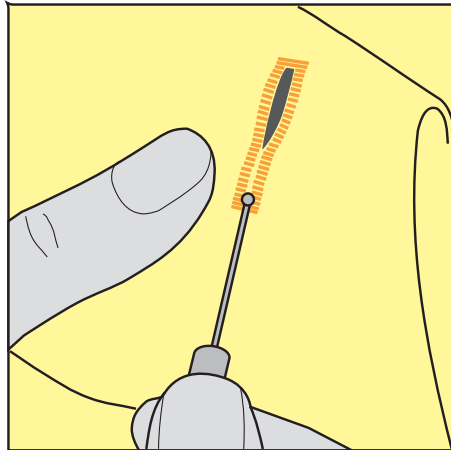


- > 必要なボタンホールの長さまたは印をつけた位置で、ミシンを止めます。

- > 「スクロール 下」をタップすると、ステップ3が表示されます。
- > ミシンがbartackまたははと目を縫って、自動的に止まります。
- > 「スクロール 下」をタップすると、ステップ4が表示されます。
 - ミシンがもう一つの穴かがりを後進で縫います。
- > ボタンホールの縫い始め位置まで来たところでミシンを止めます。
- > 「スクロール 下」をタップすると、ステップ5が表示されます。
 - ミシンが奥側のbartackを縫い、自動的に縫い止めします。

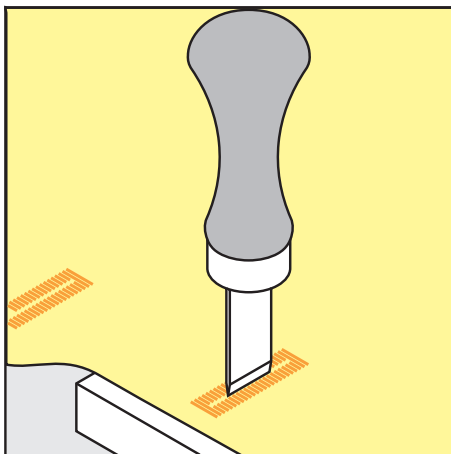
9.14 ボタンホールをシームリッパーで切り開く

- > bartackを切らないように、両端にまち針を刺しておきます。
- > ボタンホールの両端から真ん中に向けて、ボタンホールを切り開いていきます。



9.15 ボタンホールカッター（オプションアクセサリ）でボタンホールを切り開く

- > ボタンホールを木片などの上に置きます。



- > ボタンホールカッターをボタンホールの真ん中に合わせます。
- > ボタンホールをカッター下へ強く押します。

9.16 ボタンを縫い付ける

ボタン付けプログラムでは2つ穴または4つ穴のボタン、およびスナップボタン、留め具などを縫い付けることができます。

推奨ソーイングプログラム： ボタン縫い付けプログラム No. 60

推奨押え金： ボタン付け押え #18

使用できる押え金：

- ・ 標準押え #1/1C
- ・ つくろい縫い押え #9
- ・ 透明の押え金の付いた標準押え #34/34C

糸足の調節

厚地にボタンを付ける場合には、糸足（ボタンと布地の間の隙間）を長くします。

薄地にボタンを付ける場合、また飾りボタンの場合には、糸足を作らずに縫い付けます。

注意！ 糸足の調節は、ボタン付け押え#18を使用した場合にのみできます。

- > ボタン付け押えのネジを緩めます。
- > 押え金の爪を布地の厚さに合わせて調節します。
- > ネジを締めます。

ボタンを縫い付ける

前提条件：

- ・ 糸足を布地の厚さに合わせて調節します。
- ・ ボタン付け押え #18 またはその他のボタン付けに使用できる押え金を取り付けます。
- ・ 取り付けた押え金をユーザーインターフェースで選択します。
- ・ 送り歯を下げます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > ボタン縫い付けプログラム No. 60 を選択します。
- > はずみ車を回して、下糸を上に出します。
- > **注意！ ボタン付けプログラムでは常に左側のボタン穴から縫い始めます。**
ボタンを布地の上に置きます。ボタンと布地を針の下に、針が左側のボタン穴に刺さるように置きます。
4つ穴ボタンの場合には、まず始めに手前の2つのボタン穴を縫ってから、奥の2つのボタン穴を縫います。
- > 押え金を下げます。
- > はずみ車を回して、左側のボタン穴に針を刺します。
- > 針が右側のボタン穴に移動するまで、はずみ車を回します。針が右の穴に当たるかどうかを確認します。必要に応じて、多機能ボタン 上を回して振り幅を調節します。
- > 糸を押さえて、フットコントローラーを踏みます。
 - ミシンがボタンを縫い付け、自動的に停止します。
- > ボタンをよりしっかりと縫い付けたい場合には、ボタン付けプログラムをもう一度行います。
- > ミシンの糸切りで糸を切ります。または、作品をミシンから引っ張り、ハサミで糸を切ります。上糸を布地の裏に引き出し、下糸と一緒に結びます。

9.17 アイレットを縫う



二重に縫うと、よりしっかりしたアイレットが縫えます。必要に応じてバランスを調整します。

前提条件：

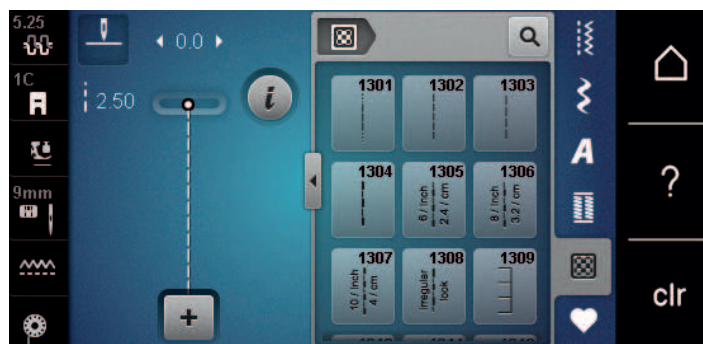
- ・ 標準押え #1C またはオープン刺しゅう押え#20C を取り付けます。



- > «ボタンホール»をタップします。
- > 小さなジグザグアイレット No. 61 または直線縫いアイレット No. 62 を選択します。
- > «多機能ボタン 上»または«多機能ボタン 下»を回して、ボタンホールの大きさを変更します。
- > アイレットプログラムを縫います。
 - ミシンはアイレットプログラムを縫い終わると自動的に停止します。
- > 目打ちやパンチプライヤー、穴あけなどでアイレットの穴を開けます。

10 キルティング

10.1 キルトステッチについて



ステッチパターン	ステッチ番号	名称	説明
	No. 1301	キルティング、留め縫い	縫い始めと縫い終わりに前進で短い留め縫いをするため。
	No. 1302	キルティング、直線縫い	長さ3 mmのステッチ長の直線縫いでのマシンキルティング用。
	No. 1303	パッチワークステッチ、直線縫い	長さ2 mmのステッチ長の直線縫いで、パッチワークのピースを縫い合わせる際に。
	No. 1304 – No. 1308	手縫い風キルトステッチ	モノフィラメント糸を使った、手縫い風の縫い付け作業に。
	No. 1309 – No. 1314	ブランケットステッチ	アップリケや、飾りリボンの縫い付けに。
	No. 1315	サテンステッチ	アップリケに。
	No. 1316	ふり幅の小さいまつり縫い	アップリケを見えないように縫い付ける際に。
	No. 1317 – No. 1327 No. 1329 – No. 1342 No. 1344, No. 1345	飾り縫いキルトステッチ	キルティング、クレイジーパッチワーク、装飾、仕上げを施す際に。
	No. 1331	スティップリングステッチ／蛇行ステッチ	メアンデルステッチ風に。
	No. 1332 – No. 1338	フェザーステッチ	キルティング、クレイジーパッチワーク、装飾、仕上げを施す際に。

10.2 キルティング用留め縫いプログラム

前提条件：

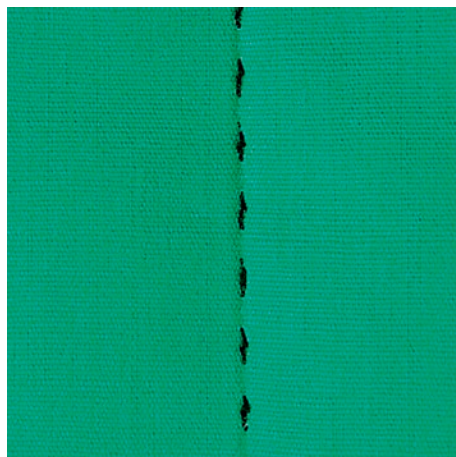
- ・ 標準押え #1C を取り付けます。
- > «キルトステッチ»をタップします。
- > キルティング、留め縫い No. 1301 を選択します。
- > フットコントローラーを踏み込みます。
 - 縫い始めにミシンが自動的に、前進で短く 6 針縫います。





- > 必要な長さを縫います。
- > «返し縫い» ボタンを押します。
 - ミシンが自動的に、前進で短く6針を縫い、留め縫いした後止まります。

10.3 手縫い風ステッチを縫う



手縫い風ステッチは、全ての布地、手縫い風に見せたい作品に適しています。上糸にはモノフィラメント糸を、下糸には刺しゅう糸を使用することをお勧めします。モノフィラメント糸が切れないように、ソーイングスピードは遅めに設定します。必要に応じて、上糸調子やバランスを作品や使用するキルトステッチに合わせ調節します。

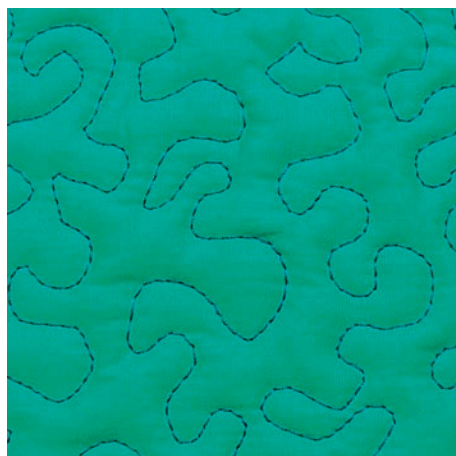
前提条件：

- ・ 標準押え #1Cを取り付けます。



- > «キルトステッチ»をタップします。
- > 手縫い風キルトステッチ No. 1304 -No. 1308 を選択します。
- > 必要に応じて、上糸調子やバランスを調節します。
- > フットコントローラーを踏むか、「スタート/ストップ」ボタンを押して、ミシンをスタートさせます。

10.4 フリーモーションキルティング



フリーモーションキルティングと繕い縫いは、同じ原理の手法です。スティップリング模様は布地全体がキルトステッチで埋められます。キルティングのラインは丸く、ステッチ同士が交差しないように気をつけます。



- ・ 滑り止め付きキルト用手袋を使用すると、布送りが簡単になります。
- ・ 最大限に良い結果を出すために 強テンションベルニナボビンケース（オプションアクセサリ）の使用を勧めます。
- ・ ソーイングテーブルと押え上げレバーの使用をお勧めします。
- ・ フリーモーションキルティングは中心から外に向かって縫っていき、作品をスムーズに丸く動かしながら、全体に導き、描きたいデザインを描いていくことをお勧めします。

前提条件：

- ・ キルトの表地、キルト芯、キルトの裏地をしっかり留めておきます。
- ・ 送り歯を下げます。
- ・ つくろい縫い押え #9 を取り付けます。

> «実用縫い»をタップします。

> 直線縫い No. 1 を選択します。

> 必要があれば、上糸調子を調整します。

> 布地がずれるのを防ぐために、針の位置を下に選択します。

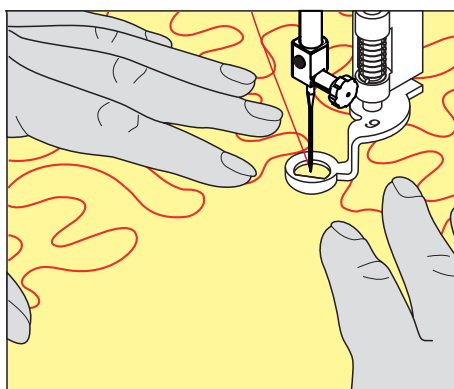
> フットコントローラーを踏むか、「スタート/ストップ」ボタンを押して、ミシンをスタートさせます。

> 両手を枠のようにして押え金のそばに置き、枠の中で布を動かすようにします。このとき、同じ場所に続けて針が刺さらないようにします。

> 角のキルティングをするときにはステッチの間隔を最小にするよう、ステッチ速度を落とします。

> 糸が表側にたまる場合は、布送りを遅くします。

> 裏側に糸ダマができる場合は、布送りを速くします。



11 ベルニナステッチレギュレーター(BSR)

ベルニナステッチレギュレーターは人気のフリーモーションソーイングでの送り長さを一定に保ちます。BSR押えをフリーモーションソーイングで使用すると、全てのステッチの長さが均一に保たれ、作品の見た目をきれいに仕上げることができます。

BSR押えが取り付けられ、送り歯が下げられると、ミシンのディスプレイ上に選択可能なモードが表示されます。BSR押えは直線縫い、ジグザグ縫いのどちらにも使用できます。

BSR押えは布地の動きに反応し、布を動かすことで最高速度までの範囲でミシンのスピードをコントロールできます。その際：布地を早く動かせば、ミシンのスピードも速くなります。

布地の動きが速すぎると、警告音が鳴ります。警告音は「BSR」ディスプレイでオン／オフの設定ができます。警告音はセットアッププログラムからもオン／オフの設定ができます。

11.1 BSRモード1

BSR機能はフットコントローラーまたは「スタート／ストップ」ボタンで操作することができます。BSRモードをスタートさせます。押え金の赤いランプが点灯します。布地を動かすことによって、ミシンのスピードをコントロールします。布地の動きを止めると、何もしなくてもその場で留め縫いをすることもできます。フットコントローラーまたは「スタート／ストップ」ボタンを使用する場合には、BSR 1モードは自動的に終了しません。

11.2 BSRモード2

BSR機能はフットコントローラーまたは「スタート／ストップ」ボタンで操作することができます。ミシンは、フットコントローラーを踏み込むか、「スタート／ストップ」ボタンが押されるのと同時に、布地を動かすことによって動き出します。布地の動きが止まってから約7秒後にBSR 2モードはオフになります。押え金の赤いランプは、「スタート／ストップ」ボタンでの操作時にのみ消え、フットコントローラーでの操作時には消えません。

11.3 BSR機能を直線縫いNo. 1で使用する

この機能を使用して、4 mmまでの送り長さの直線縫いを使用したフリーモーションキルティングができます。設定した送り長さは一定の速度までは、布地の動きに関係なく保たれます。

11.4 BSR機能をジグザグ縫いNo. 2で使用する

ジグザグステッチはスレッドペインティングに適しています。ジグザグステッチでは送り長さは保たれませんが、BSR機能が作業を簡単にします。

11.5 キルティングの準備をする

BSR押えを取り付ける

前提条件：

- ・ ミシンがオフになっていること。
- ・ 針が上がっていること。
- ・ 押え金が上がっていること。
- > 据え付けられている押え金を外します。
- > BSR押えを取り付けます。
- > ケーブルのプラグを、BSRコネクタ(1)に垂直にカチッと音がするまで差し込みます。



- > ミシンの電源を入れます。
 - BSRディスプレイが開き、BSR1モードがオンになります。

押え底を交換する

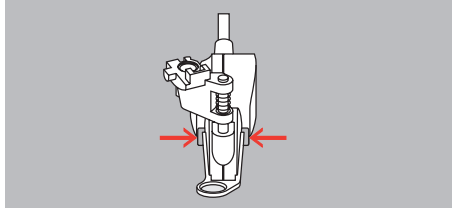
注意

BSR押えのセンサーが汚れていると

ミシンがBSR押えを認識しません。

> センサーを柔らかい、軽く湿らせた布で拭きます。

- > 針を上げます。
- > BSR押えを上げます。
- > ミシンの電源を切ります。
- > BSR押えを外します。
- > BSR押えの横のボタンを両方押します。



- > 押え底を下に引き、はずします。
- > 新しい押え底をしっかりとはまるまで上に押しします。
- > BSR押えを取り付けます。

11.6 BSRモードを使用する

BSR機能はフットコントローラーまたは「スタート/ストップ」ボタンで操作できます。

フットコントローラーで縫う：キルティング中はフットコントローラーを踏んだままにします。布地を動かさなくても、フットコントローラーから足を離すまではBSRモード1が機能しています。

BSRモード2でキルティングを中止すると、針位置によってはミシンがもう一針縫って針位置を上にしてから停止します。

前提条件：

- ・ ソーイングテーブルを取り付けます。
- ・ 押え上げレバーを取り付けます。
- > 送り歯を下げます。
- > 使用したいBSRモードを設定します。
- > 押え金を下げます。
- > フットコントローラーを踏み込むか「スタート/ストップ」ボタンを押すと、設定したBSRモードが起動します。
 - BSR押えの赤いランプが点灯します。



- > 布地を動かし、BSRモードでミシンのスピードをコントロールします。
- > 「スタート/ストップ」ボタンをもう一度押すか、フットコントローラーから足を離して、BSRモードを終了します。
 - BSRモードが終了し、押え金の赤いランプが消えます。

BSR



11.7 留め縫い

BSRモード1で、「スタート/ストップ」ボタンを使用して留め縫いする

前提条件：

- ・ BSR押えを取り付け、ミシンに接続します。
- ・ BSRディスプレイが開き、BSRモード1がアクティブになっています。

- > 送り歯を下げます。
- > 押え金を下げます。
- > «針位置 上/下» ボタンを2回押します。



- 下糸が出てきます。

- > 上糸と下糸を押えます。



- > «スタート/ストップ」ボタンを押します。
- BSRモードがスタートします。

- > 5-6針留め縫いをします。



- > «スタート/ストップ」ボタンを押します。
- BSRモードがストップします。

- > 糸を切ります。

BSRモード2での止め縫い

前提条件：

- ・ BSR押えを取り付け、ミシンに接続します。
- ・ BSRディスプレイが開き、BSRモード2がアクティブになっています。

- > 押え金を下げます。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «留め縫い»をタップします。



- > «スタート/ストップ」スタート/ストップボタンを押すか、フットコントローラーを踏み込みます。

布地を動かすことによって、短いステッチが数針縫われた後、設定した送り長さがオンになり、留め縫い機能は自動的にオフになります。

12 マイベルニナ刺しゅう

12.1 刺しゅう機について



- | | | | |
|---|--------------|---|------------|
| 1 | 取り外しレバー／ハンドル | 4 | ミシンへの固定用金具 |
| 2 | 刺しゅうアーム | 5 | ミシンへの接続プラグ |
| 3 | 刺しゅう枠取り付け用金具 | | |

12.2 刺しゅう機付属アクセサリー

刺しゅう機の付属アクセサリーについて

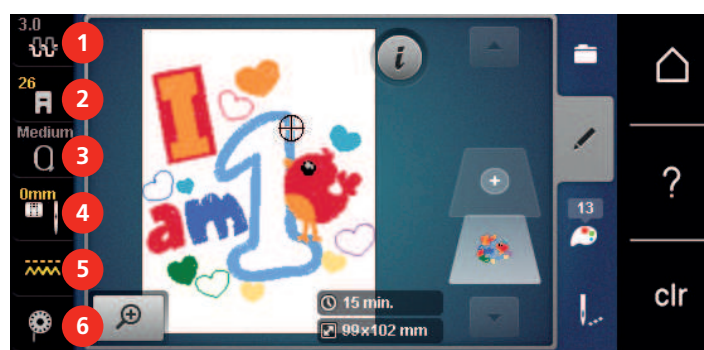
図	名称	用途
	刺しゅう用押え #26L	刺しゅうや繕い縫い、フリーモーションキルティングなどに。
	楕円形大型刺しゅう枠	広範囲の刺しゅうモチーフや 145 x 255 mm (5.70 x 10.04 in)以下の 大きさの刺しゅうコンビネーション に。 布地の取り付けを正確にする、テンプレート付き。

マイベルニナ刺しゅう

図	名称	用途
	中型刺しゅう枠	100 x 130 mm (3.94 × 5.12 in)以下の中型のモチーフを刺しゅうする際に。 布地の取り付けを正確にする、テンプレート付き。
	刺しゅう針セット	刺しゅうに。
	テンプレート用つまみ	刺しゅうテンプレートを刺しゅう枠に取り付けたりはずしたりする際に使用します。
	糸こまネット	ナイロン糸、レーヨン糸、絹糸、メタリック糸などの滑りやすい糸で、糸こまから糸を均等に送り出します。

12.3 ユーザーインターフェースについて

機能／表示について



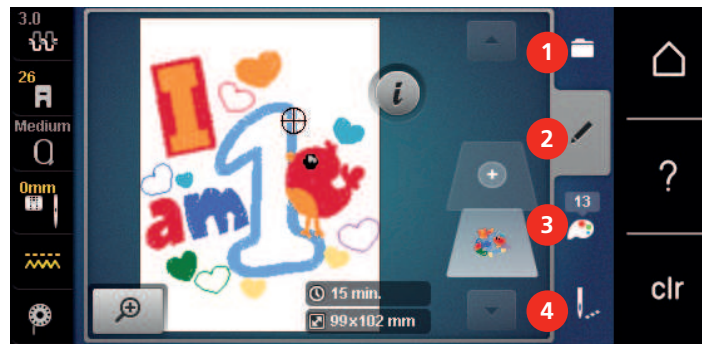
- | | | | |
|---|-------------------|---|----------|
| 1 | 「上糸調子」 | 4 | 「針板／針選択」 |
| 2 | 「押え金表示／押え金選択」 | 5 | 「送り歯表示」 |
| 3 | 「刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択」 | 6 | 「下糸」 |

システム設定について



- | | | | |
|---|---------------|---|----------|
| 1 | 《ソーイングモード》 | 5 | 《エコモード》 |
| 2 | 《刺しゅうモード》 | 6 | 《ホーム》 |
| 3 | 《セットアッププログラム》 | 7 | 《ヘルプ》 |
| 4 | 《チュートリアル》 | 8 | 《設定をクリア》 |

刺しゅう選択メニューについて



- | | | | |
|---|------|---|--------|
| 1 | 《選択》 | 3 | 《色情報》 |
| 2 | 《編集》 | 4 | 《刺しゅう》 |

12.4 刺しゅうについての重要事項

上糸

糸ムラや糸切れが刺しゅうに影響を与えないよう、刺しゅう糸の品質（ブランドメーカー）は重要です。

上糸に光沢のある細い刺しゅう糸を使用すると、特に効果的です。糸メーカーは豊富な種類と色の糸を提供しています。

- ・ 光沢のあるポリエステル糸は、耐久性があり、引き裂きに強く、色落ちしにくい糸で、あらゆる種類の刺しゅうに適しています。
- ・ ビスコースは、天然のような細い繊維でシルクのような光沢を持ち、あまりきつくない細やかな刺しゅうに適しています。
- ・ メタリック糸は、細糸から中太の光沢のある糸で、刺しゅうの特殊効果に適しています。
- ・ メタリック糸の場合は、自動下糸切りのスイッチを切り、他の糸切りも使用しないでください。そうしないと、ナイフがすぐに摩耗してしまう可能性があります。

マイベルニナ刺しゅう

- ・メタリック糸の場合は速度を下げ、上糸張力を下げる必要があります。



下糸

ほとんどの場合、刺しゅうの下糸には黒か白の糸を使用します。刺しゅうの表と裏を同じように仕上げたい場合には、上糸と下糸の色を合わせます。

- ・ボビン用下糸は特にしなやかな細いポリエステル糸で、刺しゅうの下糸に適しています。この特殊な下糸を使用することによって糸調子が安定し、上糸と下糸のバランスが最適になります。
- ・手縫い糸と刺しゅう糸はシルケット加工された木綿糸で、綿素材の布地に刺しゅうする際に適しています。



刺しゅうデータフォーマットの選択

ベルニナ刺しゅう機が刺しゅうモチーフを読み込めるように、刺しゅうモチーフのデータはベルニナ刺しゅうソフトウェアを使用して作成し、エクスポートする必要があります。刺しゅうデータ自体に加えて、BMPデータおよびINFデータが生成されます。BMPデータは刺しゅうモチーフのプレビュー用に、INFデータには糸の色情報が保存されています。**ヒント：**INFデータがないと、刺しゅうモチーフが正しい糸の色ではなく、標準色のみで表示されてしまいます。この場合、モチーフの色一覧からミシンに正しい色を取り込む必要があります。

さらに以下のフォーマットをミシンで読み込むことができます：PES、PEC、XXX、PCS、JEF、DST。ベルニナインターナショナル株式会社は、ベルニナ刺しゅうソフトウェアを使用した以外で作成およびコンバートされた刺しゅうモチーフについては、正しいデータの読み込みとモチーフが正しく刺しゅうされることを保証いたしません。

試し縫い

試し縫いは、常に作品と同じ布地と安定紙を使用します。また、実際に使用する糸や針を使用することをおすすめします。

刺しゅうモチーフの大きさ

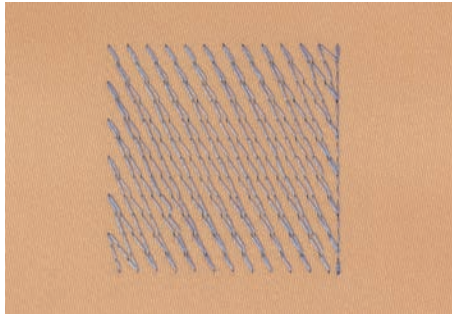
刺しゅうモチーフは、刺しゅう機またはPCでベルニナ刺しゅうソフトウェア（オプション）を使用して拡大・縮小することができます。拡大と縮小は最大20%までが最適です。

サードパーティーからのモチーフを刺しゅうする

BERNINAはどんなフォーマットのデータでも、USBメモリーに保存する際、無料プログラム《ART-Link》を利用することをお勧めします。《ART-Link》を使用することで、刺しゅうモチーフが正しく読み込まれ、刺しゅうできるようになります。《ART-Link》はwww.bernina.com/artlinkのリンク先から無料でダウンロードできます。

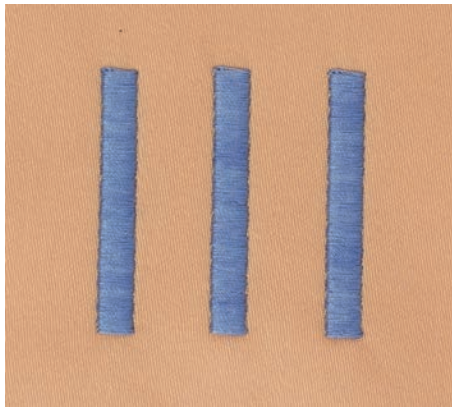
アンダーレイステッチ

アンダーレイステッチは刺しゅうモチーフの基礎となり、布地を安定させ、型くずれを防ぎます。また、ニットなどの生地にステッチが埋もれてしまうのを防ぎます。



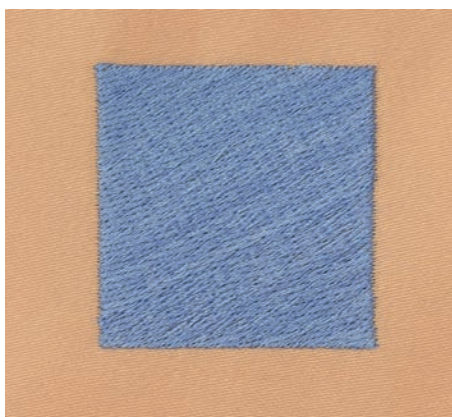
サテンステッチとリーフステッチ

サテンステッチでは、細かくジグザグ縫いをして、刺しゅうモチーフを縫います。サテンステッチは、小さなモチーフのスペースを埋める際に適しています。ステッチの幅を広くすると、糸が浮き、布地が隙間から見えてしまいます。また、浮いた糸が絡まったり、引っ張られたりして、刺しゅうモチーフが乱れてしまう恐れがあります。



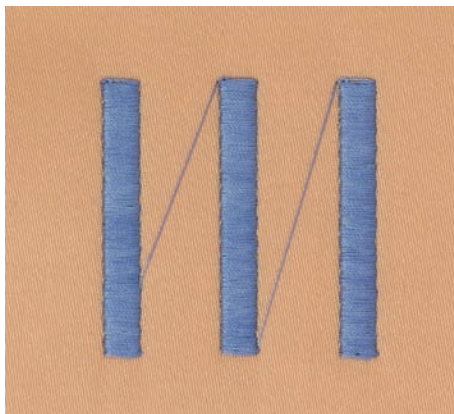
たたみ縫い

特定の長さの短いステッチを繰り返し、広範囲に細かく、目の詰まった刺しゅうをすることができます。



つなぎステッチ

前のモチーフから次のモチーフに移る際のつなぎになる長いステッチです。つなぎステッチの前後には留め縫いがされます。つなぎステッチは切り取ります。



13 刺しゅうの準備

13.1 刺しゅう機を取り付ける

前提条件：

- ・ スライドテーブルを取り付けてはなりません。
- > 刺しゅう機とミシンを安定した、平らなテーブルなどの作業台に置きます。
- > 刺しゅうアームが動くのに十分なスペースを確保します。
- > 刺しゅう機を左から右にゆっくりとスライドさせて、ミシンの接続部(1)およびガイドレール(2)に取り付けます。



13.2 刺しゅう機を取り外す

- > 刺しゅう機のキャリングハンドル部分にある取り外しレバー(1)を押したまま、刺しゅう機をゆっくりと左に引っ張って取り外します。



13.3 ミシンの準備をする

送り歯を下げる

- > «送り歯 上/下»ボタンを押します。



刺しゅうモチーフを選択する

全ての刺しゅうモチーフはそのまま刺しゅうするか、あるいは刺しゅう機が提供する様々な機能を使って変更することができます。全ての刺しゅうモチーフは、刺しゅうモチーフ一覧で見ることができます。さらにユーザーメモリーやベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）に保存された刺しゅうモチーフも使用することができます。

刺しゅうの準備

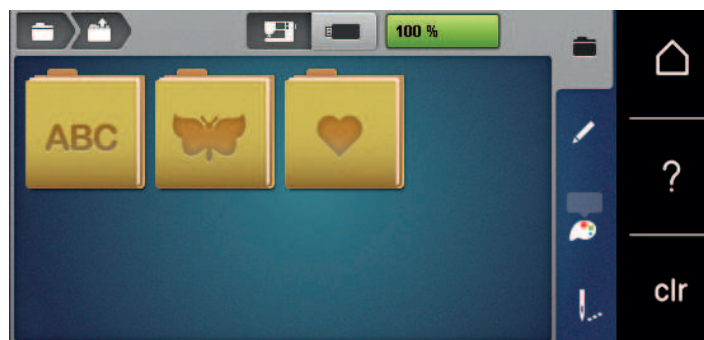


> «ホーム»をタップします。



> «刺しゅうモード»をタップします。

> アルファベット、刺しゅうモチーフ、または独自の刺しゅうモチーフをファイルから選択します。



13.4 刺しゅう押え

刺しゅう押えを取り付ける

- > 針を上げます。
- > 押え金を上げます。
- > ミシンの電源を切ります。
- > 取り付けレバーを上押し上げます。 (1)
- > 押え金を引き離します。 (2)



- > 刺しゅう押えを下から差し込みます。
- > 取り付けレバーを下に押します。

刺しゅう押えをユーザーインターフェースで選択する

適切な刺しゅう押えを取り付けた後、選択してミシンに保存できます。またその際は、選択した刺しゅうモチーフに対応可能な代替の押え金が表示されます。

- > ミシンの電源を入れます。
- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «押え金表示／押え金選択»をタップします。
- > 取り付けした刺しゅう押えを選択します。



13.5 針と針板

刺しゅう針を取り付ける



刺しゅう針130/705 H-SUKは、大きな針穴と、軽く丸まった針先をしており、レーヨンや木綿糸の糸切れを防止します。刺しゅう糸によって、針の番手はNo.70-SUKからNo.90-SUKをお勧めします。

- > 針を上げます。
- > ミシンの電源を切ります。
- > 押え金を外します。
- > 針取り付けネジを緩めます。



- > 針を下に引っ張ります。
- > 新しい針を平らな面を後ろ側にして持ちます。
- > 針を上までしっかりと差し込みます。
- > 針取り付けネジを締めます。

刺しゅう針をユーザーインターフェースで選択する

針を交換した後、その針が選択した針板に適しているかどうかを確認します。



- > «針板／針選択»をタップします。
- > 取り付けした針を選択します。



- 選択した針が針板に適している場合には、刺しゅうを始めることができます。
- 選択した針が針板に適していない場合には、ミシンが自動的に動かないようになります。

針の種類と針のサイズの確認

実用的なメモリー機能：情報が失われないように、針の種類と針のサイズをミシンに保存することも可能です。これにより、保存された針の種類と針のサイズをいつでも確認することができます。



- > «針板／針選択»をタップします。

刺しゅうの準備



> «針の情報»をタップします。



> 装着する針の種類 (1) を選択してください。

> 装着する針のサイズ (2) を選択してください。

針位置 上／下を設定する



> 糸を上げるには、«針位置 上/下»ボタンを押します。

– 針が一度上下します。

針板を取り付ける

パンチワーク用針板（カットワーク／直線縫い用針板）には針周りに小さな穴があります。この小さな穴を通して上糸と下糸のバランスが最適になり、ステッチの仕上がりを良くします。

> 送り歯を下げるには、«送り歯 上／下» ボタンを押します。



> ミシンの電源を切ります。

> 針を取り外します。

> 押え金を取り外します。

> パンチワーク用針板の右上の印を押して、針板を浮かせます。



> パンチワーク用針板を取り外します。

> パンチワーク用針板の穴（カットワーク／直線縫い用針板）をそれぞれの突起部分に合わせ、しっかりとまるまで下に押し込みます。

針板をユーザーインターフェースで選択する

パンチワーク用針板を交換した後、その針板が選択した針に適しているかどうかを確認します。



> «針板／針選択»をタップします。

> カットワーク／直線縫い用針板を選択します。



下糸を上を持ってくる

下糸を上を持ってこることができるようにするには、ミシンを刺しゅう用に準備する必要があります。下糸はワンステップで上を持ってこることができ、糸は手動で結びます。留め縫いが必要ない場合には、セットアッププログラムから留め縫いプログラムをオフにします。

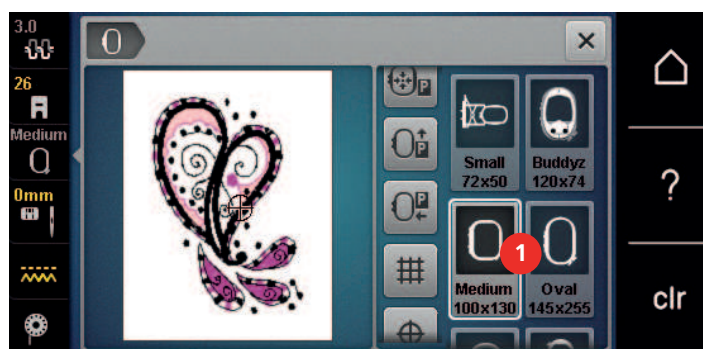
> 上糸を押さえます。

> «針位置 上/下» ボタンを押します。

– 下糸が自動的に上に上がってきます。

13.6 刺しゅう枠

刺しゅう枠の表示について



1 刺しゅう枠選択

刺しゅう枠を選択する

刺しゅうモチーフに対してできる限り小さい刺しゅう枠を選択することで、モチーフがきれいに仕上がります。

刺しゅうモチーフに設定された大きさが表示されます。

前提条件：

- ・ 刺しゅうモチーフを選択します。

> «刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択»をタップします。

- ミシンが自動的に刺しゅうモチーフの大きさに合った刺しゅう枠を選択します。選択された刺しゅう枠が使用できない場合、その他の刺しゅう枠を選択することができます。取り付けられた刺しゅう枠が、ミシンにより選択された刺しゅう枠でない場合、取り付けられた刺しゅう枠が有効になり、刺しゅうモチーフの範囲がそれに合わせて変更されます。

> 使用したい刺しゅう枠を選択します。

破り取る安定紙

安定紙を使用することによって、刺しゅうの仕上がりがよりしっかりとします。破り取る安定紙は伸縮性のない全ての織地に適しています。必要に応じて1～2枚の安定紙を使用します。安定紙には様々な強度のものがああります。広範囲の刺しゅうモチーフの場合、安定紙は刺しゅう後、取り除かないでおきます。安定紙はスプレーのりで布地の裏側に固定します。余分な安定紙はゆっくりと破り取ります。

切り取る安定紙

安定紙を使用することによって、刺しゅうの仕上がりがよりしっかりとします。切り取る安定紙は全ての伸縮性のある布地に適しています。必要に応じて1〜2枚の安定紙を使用します。安定紙には様々な強度のものがああります。広範囲の刺しゅうモチーフの場合、安定紙は刺しゅう後、取り除かないでおきます。安定紙はスプレーのりで布地の裏側に固定します。余分な安定紙は切り取ります。

スプレーのりを使用する

スプレーのりの使用は、伸縮性のある布地や滑りやすい布地、ニット地に刺しゅうをする際にお勧めします。スプレーのりは布地がずれたり滑ったりするのを防ぎます。アップリケなどの細かいパーツの位置がしっかりと決まります。ミシンが汚れないように、スプレーのりはミシンの側では使用しないようにしてください。

- > スプレーのりは25 – 30 cm (9 – 12 inch)離れたところから安定紙にスプレーします。
- > 布地とスプレーのりをつけた安定紙を、しわがよらないようにくっつけます。
- > ズボンのポケットや襟などの小さなパーツを、安定紙に固定する際に。
- > パイル地やボーラーフリースなど、刺しゅう枠を使用すると枠の跡が残ってしまうような布地を使用する際には、布地を固定した安定紙を代わりに刺しゅう枠にセットします。
- > 刺しゅうをした部分を定着させます。
- > ミシンをスタートさせる前に、余分なのりを取り除きます。

スプレー洗濯のりを使用する

スプレー洗濯のりは、薄手の柔らかい布地や目の粗い布地に張りを与える際に使用します。布地の裏には更に安定紙を使用します。

- > 布地にスプレー洗濯のりをスプレーします。
- > 布地を良く乾かし、必要に応じてアイロンをかけます。

アイロン接着芯を使用する

アイロン接着芯には、様々な厚さのものがああります。布地から簡単にはがせる接着芯を使用することをお勧めします。アイロン接着芯は、トリコットやジャージーのような伸縮性のある、歪みやすい薄手の布地に適しています。

- > アイロンをかけて、接着芯を布地の裏側にくっつけます。

のり付き安定紙を使用する

のり付き安定紙は、ジャージーやシルクのような薄地や、刺しゅう枠にセットしにくい部分などに使用します。

- > 安定紙の台紙の部分が上に来るように、刺しゅう枠にセットします。
- > 台紙にはさみなどで切れ込みをいれ、はがします。
- > 布地を安定紙の上に置き、くっつけます。
- > ミシンをスタートさせる前に、余分なのりを取り除きます。

水溶性安定紙を使用する



レース刺しゅうでは、1 - 3枚の水溶性安定紙を刺しゅう枠に付けて刺しゅうします。レース刺しゅうは、土台の布がなく、刺しゅうモチーフのみが作品となります。そのため刺しゅうモチーフは全体がたなぎステッチで連結されていなければ出来上がりの際にモチーフがばらばらになってしまうので、注意が必要です。

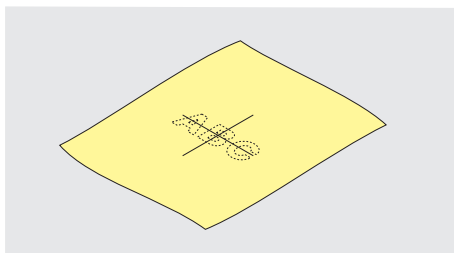
水溶性安定紙は、他の安定紙が透けて見えるような薄い布地およびレース刺しゅうに適しています。水溶性安定紙は刺しゅうをした後に水で洗い、取り除きます。パイル地のような布地の毛足を傷つけないためには、水溶性安定紙が特に適しています。また、糸が沈んで土台布が見えてしまうのを防ぐことができます。

- > 布地の裏側に安定紙を置きます。
- > 必要に応じてスプレーのりを使用します。
- > 花柄生地を表側に適切な安定紙で更に補強し、必要に応じてしつけで固定します。
- > 安定紙と布地を刺しゅう枠に張ります。
- > 刺しゅう後に刺しゅうモチーフを洗い流し、平らに広げて乾かします。

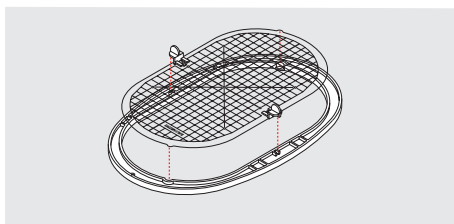
刺しゅう枠を準備する

刺しゅう枠には外枠と内枠があります。それぞれの刺しゅう枠に専用のテンプレートが付属しています。刺しゅう可能な範囲には、1 cm (0.39 inch)のグリッド線が描かれています。中央の線の中心と端には穴が開いています。布地の必要な部分に印をつけることができます。

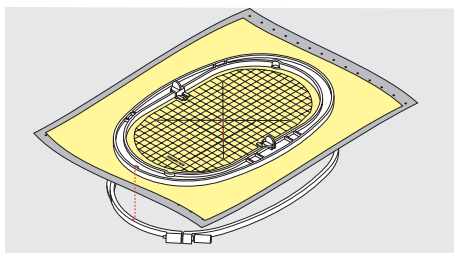
- > 刺しゅうモチーフの中央に水性ペンで印をつけます。



- > 外枠の取り付けネジを緩めます。
- > 内枠を取り外します。
- > 取り付けの際に、内枠と外枠の矢印が合うようにします。
- > テンプレートホルダーを取り付けます。
- > テンプレートを枠のBERNINAのロゴと矢印が合うように内枠にセットします。



- > 布地を内枠の下にセットします。
- > 刺しゅうモチーフの中心をテンプレートの中心に合わせます。
- > 内枠と外枠の矢印が合うように、布地と内枠を外枠の上に寄せます。



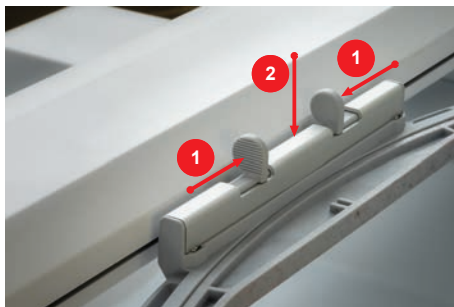
- > 布地がずれないように、二つの枠を重ねます。
- > 布地を刺しゅう枠に張ります。
- > ネジを締めます。
- > テンプレートをテンプレート用つまみを持って持ち上げ、刺しゅう枠からはずします。
- > 外枠に布地と内枠をセットする際、フリーアームを傷つけない為に、布地が1 mm程度下に出るようにセットします。

刺しゅう枠を取り付ける

- > 針を上げます。
- > 刺しゅう押えを上げます。
- > 選択した刺しゅう枠に張った布の表が上側に、取り付け金具が左側に来るようにして持ちます。
- > 刺しゅう枠を刺しゅう押えの下に入れます。
- > 刺しゅう枠取り付け金具のつまみ(1)を両側から挟んで押します。
- > 刺しゅう枠(2)を刺しゅうアームの取り付け金具にはめます。
- > 刺しゅう枠がはまるまで、下に押します。

刺しゅうの準備

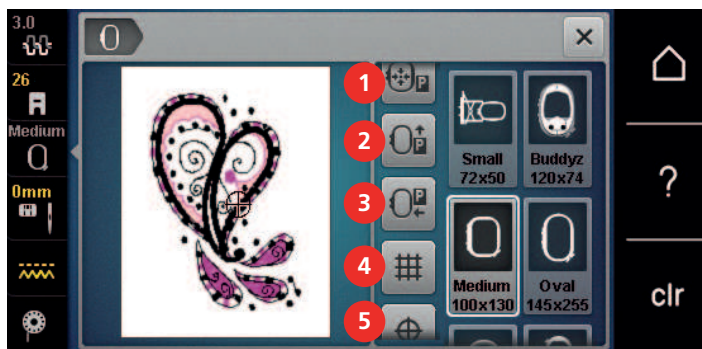
> つまみ(1)を放します。



> 刺しゅう枠取り付け金具のつまみを両側から挟んで押します。

> 刺しゅう枠を取り外します。

刺しゅう機能について



- | | | | |
|---|------------------------|---|------------------------|
| 1 | 「針が中心になる位置に刺しゅう枠を移動する」 | 4 | 「グリッド線の表示／非表示」 |
| 2 | 「刺しゅう枠を後ろへ移動する」 | 5 | 「刺しゅうモチーフの中心」 |
| 3 | 「刺しゅう枠を左へ移動する」 | 6 | 「仮の位置決め」
(スクロールで表示) |

針が中心になる位置に刺しゅう枠を移動する

針が刺しゅう枠の近くにある際、刺しゅう枠が動くことで、上糸の糸通しがしやすくなります。



> 「刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択」をタップします。



> 「針が中心になる位置に刺しゅう枠を移動する」をタップします。

> 上糸をかけます。



> 「スタート／ストップ」ボタンを押すと、刺しゅう枠が元の位置に戻ります。

刺しゅう枠を後ろへ移動する

ボビンを簡単に交換するために、糸通しをする前に刺しゅう枠を後ろへ移動しておくことをお勧めします。刺しゅう枠を後ろへ移動しておくことで、釜力バーが開けやすくなります。



> 「刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択」をタップします。



> 「刺しゅう枠を後ろへ移動する」をタップします。

> 下糸をかけます。(参照ページ: 41)



> 「スタート／ストップ」ボタンを押すと、刺しゅう枠が元の位置に戻ります。必要に応じて、上糸を引き戻します。

刺しゅう機を待機させる

刺しゅう機を接続したままでソーイングができるよう、刺しゅう機を待機させることができます。



- > «刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択»をタップします。
- > 刺しゅう枠を取り外します。



- > «刺しゅう枠を左へ移動する»をタップします。



- > «ホーム»をタップします。



- > «ソーイングモード»をタップします。

グリッド線の表示／非表示

刺しゅう枠の中心とグリッド線を表示することで、刺しゅうモチーフの位置決めを正確にすることができます。



- > «刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択»をタップします。



- > «グリッド線の表示／非表示» をタップすると、刺しゅう枠の中心がディスプレイに表示されます。
- > «グリッド線の表示／非表示» をもう一度タップすると、グリッド線が表示されます。
- > «グリッド線の表示／非表示» をもう一度タップすると、刺しゅう枠の中心とグリッド線が非表示になります。

刺しゅうモチーフの中心を選択する

刺しゅう枠は針が刺しゅうモチーフの中心またはモチーフの始まりに来る位置に移動することができます。



- > «刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択»をタップします。



- > «刺しゅうモチーフの中心» をタップして、針が刺しゅうモチーフの中心に来るように刺しゅう枠の位置を移動させます。
- > «刺しゅうモチーフの中心» をもう一度タップして、針がモチーフの始まりに来るように刺しゅう枠の位置を移動させます。

刺しゅう枠の位置を仮に決める

刺しゅうモチーフの位置を新しく決める際に、刺しゅう枠は自動的に新しい位置へと移動します。刺しゅう枠を取り付けると、「仮の位置決め」フィールドが自動的にオンになり、黄色い枠で囲まれます。

前提条件：

- ・ 刺しゅう枠を取り付けます。



- > «刺しゅう枠表示／刺しゅう枠選択»をタップします。



- > «仮の位置決め» をタップすると、刺しゅうモチーフの位置を新しく決める際に刺しゅう枠が自動的に動く機能がオフになります。
 - «仮の位置決め» は黄色い枠で囲まれていない状態になります。
- > «仮の位置決め» をもう一度タップすると、刺しゅうモチーフの位置を新しく決める際に刺しゅう枠が自動的に動く機能がオンになります。

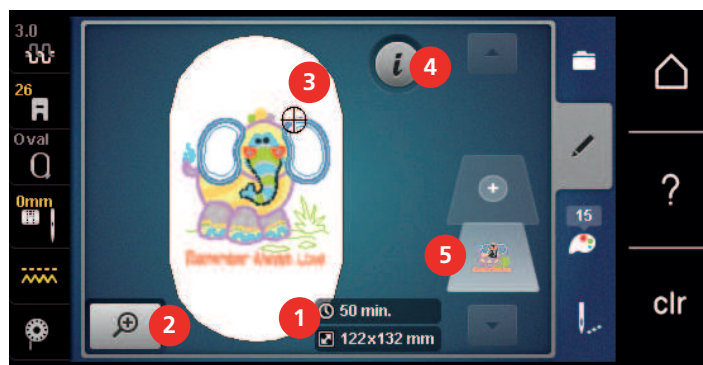
14 セットアッププログラム

14.1 刺しゅう機能の設定をセットアッププログラムで変更する

詳細は、(参照ページ: 46) をご覧ください。

15 クリエイティブな刺しゅう

15.1 刺しゅうについて



- | | | | |
|---|---------------------|---|----------------|
| 1 | 刺しゅう時間／刺しゅうモチーフの大きさ | 4 | 「iダイアログ」 |
| 2 | 刺しゅうモチーフ表示の拡大・縮小／移動 | 5 | 刺しゅうモチーフレイヤー機能 |
| 3 | 刺しゅう範囲 | | |

15.2 刺しゅうモチーフの選択と呼び出し



> 「選択」をタップします。

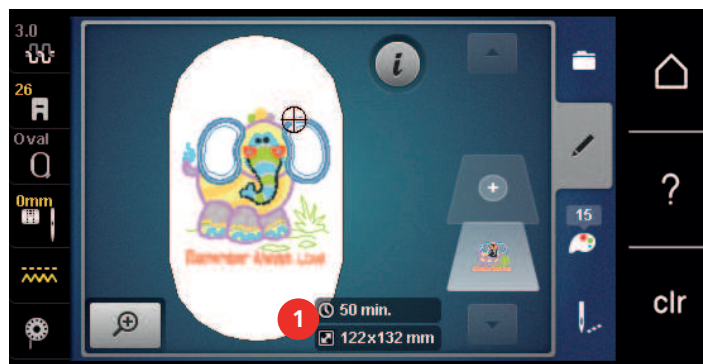


> 「刺しゅうモチーフを読み込む」をタップします。

> 新しい刺しゅうモチーフを選択します。

15.3 刺しゅう時間と刺しゅうモチーフの大きさを確認する

「編集」画面の右下(1)に、推定刺しゅう時間と刺しゅうモチーフの幅×長さがミリメートルまたはインチで表示されます



15.4 ソーイングスピードを調節する

スピードコントローラーで、ソーイングスピードを自由に調節することができます。

- > スピードコントローラーを左にスライドさせると、スピードが遅くなります。
- > スピードコントローラーを右にスライドさせると、スピードが速くなります。

15.5 刺しゅうモチーフを編集する

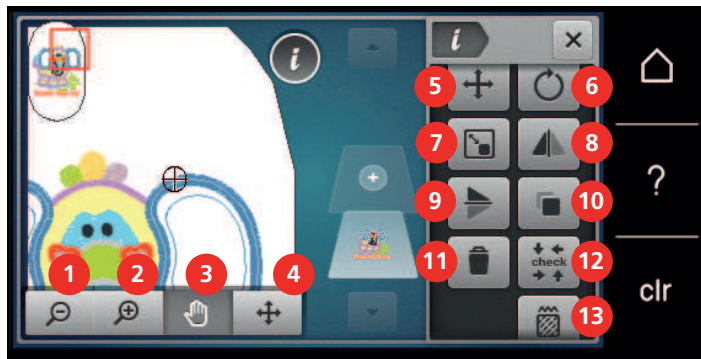
刺しゅうモチーフの編集について

- > 刺しゅうモチーフを編集するには、刺しゅうモチーフを選択します。

クリエイティブな刺しゅう



> «iダイアログ»をタップします。



- | | | | |
|---|---------------------|----|------------------------|
| 1 | «表示を縮小する» | 8 | «模様反転 左／右» |
| 2 | «表示を拡大する» | 9 | «模様反転 上／下» |
| 3 | «表示を移動する» | 10 | «コピー» |
| 4 | «刺しゅうモチーフを移動する» | 11 | «刺しゅうモチーフを削除する» |
| 5 | «刺しゅうモチーフを移動する» | 12 | «刺しゅうモチーフの大きさを調整する» |
| 6 | «刺しゅうモチーフを回転させる» | 13 | «ステッチのタイプ／刺しゅう密度を変更する» |
| 7 | «刺しゅうモチーフの大きさを変更する» | | |

刺しゅうモチーフ表示の拡大

刺しゅうモチーフの表示は拡大することができます。表示の変更にかかわらず、表示は刺しゅうポジションに合わせることができます。

> 刺しゅうモチーフを選択します。



> «表示を拡大する» をタップすると、刺しゅうモチーフの表示を編集することができます。



> «表示を拡大する» を1～4回タップすることで、刺しゅうモチーフの表示が段階的に拡大されます。



> «表示を縮小する» を1～4回タップすると、編集モードに戻ります。

刺しゅうモチーフを縮小する

刺しゅうモチーフの表示は縮小することができます。表示の変更にかかわらず、表示は刺しゅうポジションに合わせることができます。

> 刺しゅうモチーフを選択します。



> «表示を拡大する» をタップすると、刺しゅうモチーフの表示を編集することができます。



> «表示を縮小する» を1～4回タップすることで、刺しゅうモチーフの表示が段階的に拡大されます。

刺しゅうモチーフの表示を移動する

刺しゅうモチーフの表示は移動することができます。表示の変更にかかわらず、表示は刺しゅうポジションに合わせることができます。

> 刺しゅうモチーフを選択します。



> «表示を移動する» をアクティブにするには、«表示を拡大する» をタップします。



– «表示を移動する» がアクティブです（濃いグレー）。

> 刺しゅうモチーフのビューを移動します。

– 刺しゅうをする位置は変更されません。



> «表示を縮小する» をタップすると、編集モードに戻ります。

拡大した刺しゅうモチーフ表示を移動する

刺しゅうモチーフの表示は移動することができます。表示の変更にかかわらず、表示は刺しゅうポジションに合わせることができます。

> 刺しゅうモチーフを選択します。

-  > «ステッチパターンの移動» フィールドを表示するには、「表示を拡大する」をタップします。
-  > «刺しゅうモチーフを移動する»をタップします。
- アイコンが灰色になります。
- > 刺しゅうモチーフのビューを移動します。
- 刺しゅうをする位置が変更されます。
-  > «表示を縮小する» アイコンをタップすると、編集モードに戻ります。

刺しゅうモチーフを移動する

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
-  > «iダイアログ»をタップします。
-  > «刺しゅうモチーフを移動する»をタップします。
- > «多機能ボタン 上»を回すと、刺しゅうモチーフが横（平行方向）に1/10 mm単位で移動します。
- > «多機能ボタン 下»を回すと、刺しゅうモチーフが縦（垂直方向）に1/10 mm単位で移動します。
- 移動した位置が黄色い枠で囲まれたアイコンに表示されます。



-  > «刺しゅうモチーフを中央に置く»をタップします。
- 刺しゅうモチーフが刺しゅう枠の中心に移動します。

刺しゅうモチーフを回転させる

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
-  > «iダイアログ»をタップします。
-  > «刺しゅうモチーフを回転させる»をタップします。
- > «多機能ボタン 上»または«多機能ボタン 下»を右に回すと、刺しゅうモチーフは時計回りに回転します。
- > «多機能ボタン 上»または«多機能ボタン 下»を左に回すと、刺しゅうモチーフは反時計回りに回転します。
-  > «刺しゅうモチーフを+90° 回転させる» をタップすると、刺しゅうモチーフは90° ずつ回転します。

刺しゅうモチーフの大きさを比例的に変更する



刺しゅうの質を保つために、大きさの変更は20%以内をお勧めします。

刺しゅうモチーフの大きさを20%以上変更する場合には、モチーフを刺しゅうソフトで設定しなおして、もう一度ミシンに読み込む必要があります。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
-  > «iダイアログ»をタップします。
-  > «刺しゅうモチーフの大きさを変更する»をタップします。

クリエイティブな刺しゅう



- > «比率を維持» が白枠で囲まれていない場合に、«比率を維持» をタップします。
- «比率を維持» は白枠に囲まれています。



- > «多機能ボタン 上/下»を右に回すと、刺しゅうモチーフが拡大されます。
- > «多機能ボタン 上/下»を左に回すと、刺しゅうモチーフが縮小されます。

刺しゅうモチーフの大きさを変更する



刺しゅうの質を保つために、大きさの変更は20%以内をお勧めします。

刺しゅうモチーフの大きさを20%以上変更する場合には、モチーフを刺しゅうソフトで設定しなおして、もう一度ミシンに読み込む必要があります。



- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «刺しゅうモチーフの大きさを変更する»をタップします。



- > «比率を維持» が白枠で囲まれている場合に、«比率を維持» をタップします。
- «比率を維持» は白枠に囲まれていません。



- > 刺しゅうモチーフの幅を広くするには、«多機能ボタン 上»を右に回します。
- > 刺しゅうモチーフの幅を狭くするには、«多機能ボタン 上»を左に回します。
- > 刺しゅうモチーフを長くするには、«多機能ボタン 下»を右に回します。
- > 刺しゅうモチーフを短くするには、«多機能ボタン 下»を左に回します。

刺しゅうモチーフを反転させる

刺しゅうモチーフは垂直/横方向、水平/縦方向どちらにも反転することができます。



- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «模様反転 左/右» をタップすると、刺しゅうモチーフが水平方向に反転します。



- > «模様反転 上/下» をタップすると、刺しゅうモチーフが垂直方向に反転します。

ステッチの種類を変更する

サテンステッチが長すぎる場合には、たたみ縫いに変更することができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «ステッチのタイプ/刺しゅう密度を変更する»をタップします。



- > 画面の上部のボタン (1) をタップすると、サテンステッチをたたみ縫いに変更することができます。
- > ステッチの長さ (2) を設定して確認します。

ステッチの密度を変更する

サテンステッチの密度が高すぎる場合、調整をすることができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «ステッチのタイプ/刺しゅう密度を変更する»をタップします。



- > ステッチの密度 (1) を設定します。

刺しゅうモチーフの大きさと位置を確認する

刺しゅうモチーフが刺しゅうをする布地の位置に合うか、確認することができます。刺しゅう枠に入りきらない部分は刺しゅうをすることができません。

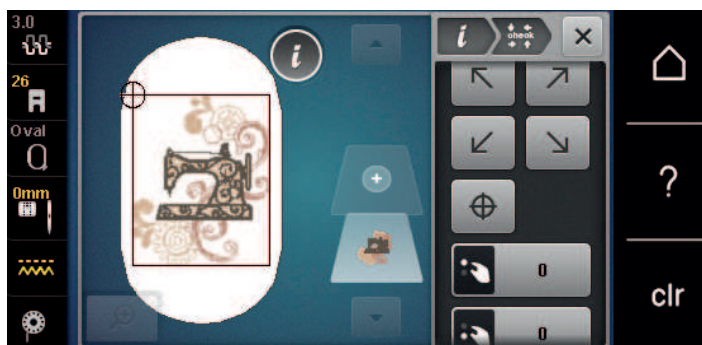
- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



クリエイティブな刺しゅう



- > «刺しゅうモチーフの大きさを調整する»をタップします。
 - ディスプレイに表示された位置に針が来るように、刺しゅう枠が移動します。



- > 適切な矢印をタップして、希望する刺しゅうモチーフの角を選択します。
 - ディスプレイに表示された位置に針が来るように、刺しゅう枠が移動します。刺しゅうモチーフが正しい位置にない場合には、«多機能ボタン 上/下»を回して刺しゅうモチーフの位置を変更し、再び全体の位置の確認をします。



- > «刺しゅうモチーフの中心»をタップすると、針が刺しゅうモチーフの中心に移動します。
- > «多機能ボタン 上»を回すと、刺しゅうモチーフが水平方向に移動します。
- > «多機能ボタン 下»を回すと、刺しゅうモチーフが垂直方向に移動します。

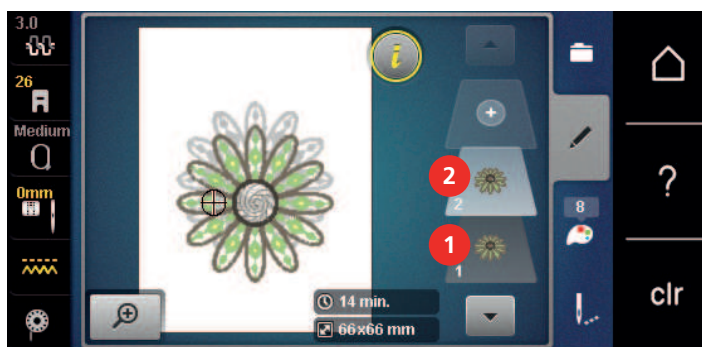
刺しゅうモチーフを複製する



- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «コピー»をタップします。
 - 刺しゅうモチーフ (1) が複製 (2) されます。



刺しゅうモチーフを削除する

アクティブな刺しゅうモチーフが削除されます。



- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «消去»をタップします。

15.6 刺しゅうモチーフのコンビネーション

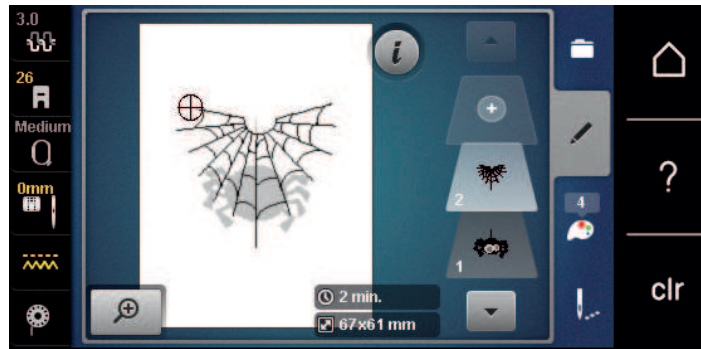
刺しゅうモチーフのコンビネーション

複数の刺しゅうモチーフを組み合わせることができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。



> «刺しゅうモチーフの追加»をタップします。



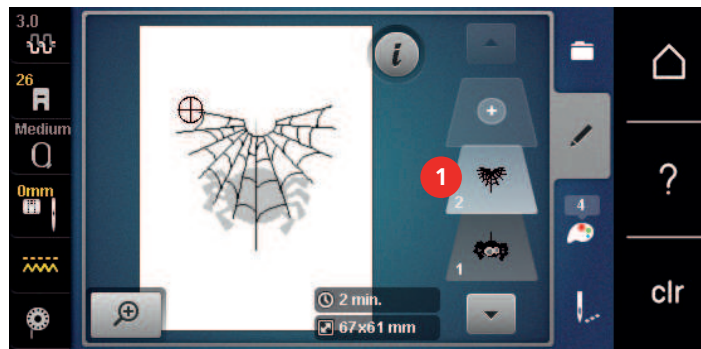
> 次の刺しゅうモチーフを選択します。

刺しゅうモチーフを一つずつ消去する

前提条件：

- ・ 刺しゅうモチーフのコンビネーションが作成されます。

> 刺しゅうモチーフレイヤー（1）から消去したい刺しゅうモチーフをタップして、外にドラッグします。
 - 新しいウィンドウが開きます。



> «決定»をタップすると、選択された刺しゅうモチーフが消去されます。

コンビネーションを複製する

コンビネーションを複製すると、個々の刺しゅうモチーフを選択することができなくなります。

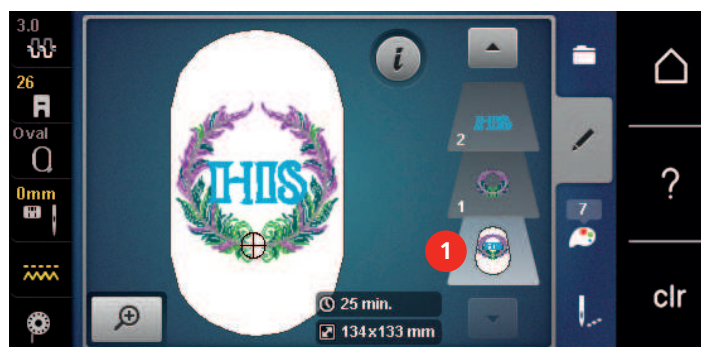
> 刺しゅうモチーフを選択します。



> «刺しゅうモチーフの追加»をタップします。

> 次の刺しゅうモチーフを選択します。

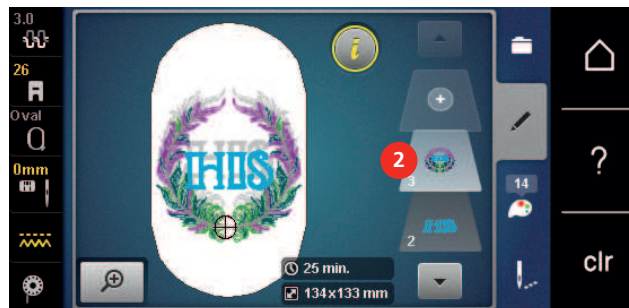
> コンビネーション（1）を選択します。



> «iダイアログ»をタップします。



> «コピー»をタップします。



– コンビネーションが複製 (2) されます。

15.7 文字列を作成する

刺しゅう文字一覧

刺しゅうモチーフ	名称
ABC	Swiss Block
ABC	Anniversary
АБВ	Russian Textbook
ABC	Rounded Sans

レタリングの作成



- | | |
|-----------|---------------|
| 1 入力フィールド | 5 «数字および数学記号» |
| 2 «消去» | 6 «特殊文字» |
| 3 «大文字» | 7 «キャンセル» |
| 4 «小文字» | 8 «決定» |



文字列は常に単色で刺しゅうされます。一文字ごとおよび一単語ごとに色を変える場合には、それぞれ別々に選択して、刺しゅうをする範囲に配置しなくてはなりません。

文字列の位置を、刺しゅう枠内で自由に決めることができます。刺しゅうモチーフが刺しゅう可能な範囲の外に位置している場合には、ディスプレイ上の刺しゅう枠が赤い枠で囲まれます。刺しゅう枠選択を使って、他の刺しゅう枠で刺しゅうしたいモチーフに合ったものがあるかどうかを確認することができます。レタリングが刺しゅう枠に収まらない場合は、個々のテキスト行を組み合わせることで上下に配置することができます。



- > «アルファベット»を選択します。
- > 刺しゅうする文字を選択します。
- > テキストを入力して確認します。

レタリングの編集

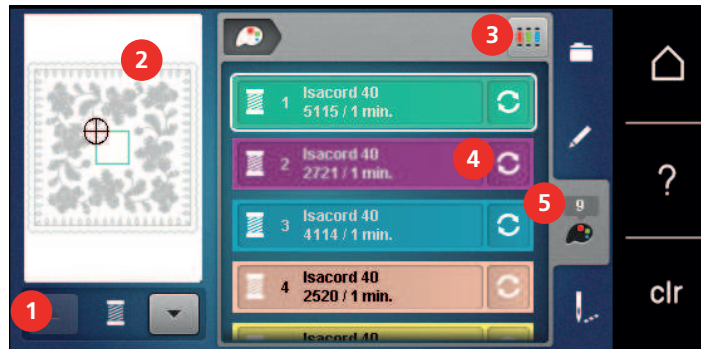
- > レタリングが作成されます。
- > «iダイアログ»をタップします。



- > «ワードアート»をタップします。
- > 文字間の距離をミリ単位で変更するには、「多機能ボタン 上」を回します。
- > レタリングを上下方向に曲げるには、「多機能ボタン 下」を左または右に回します。

15.8 刺しゅうモチーフの色を変更する

色の変更について



- | | | | |
|---|--------------|---|---------------|
| 1 | 「色表示」 | 4 | 「色／メーカーを変更する」 |
| 2 | 選択された色のプレビュー | 5 | 「色情報」 |
| 3 | 「色メーカーの指定」 | | |

色の変更

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «色情報»をタップします。



- > 変更したい色の横の「色／メーカーを変更する」をタップすると、他の色が表示されます。
- > 色をもっと表示するには、ディスプレイ上で上下にスワイプします。



- > 色番号の入力によって色を選択するには、「番号による色選択」をタップします。
- > 目的の色の番号を入力します。
 - 色アイコンが左に表示されます。
- > 色の選択を確定するには、左に表示された色アイコンをタップします。

糸メーカーを変更する

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «色情報»をタップします。



- > «色／メーカーを変更する»をタップします。
- > 他の糸メーカーを表示するには、左または右へスクロールします。



- > «色メーカーの指定»をタップします。
 - 選択された刺しゅうモチーフの糸の色が、指定した糸メーカーに変更されます。

15.9 刺しゅうモチーフを刺しゅうする

刺しゅうメニュー一覧



- | | | | |
|---|--------------|---|----------------------------|
| 1 | 「縫い」 | 5 | 「複数色の刺しゅうモチーフ オン/オフ」 |
| 2 | 「モチーフの移動」 | 6 | 「ステッチ速度を上げる」
(スクロールで表示) |
| 3 | 「工程の確認」 | 7 | 「色交換を少なくする」
(スクロールで表示) |
| 4 | 「つなぎステッチを切る」 | 8 | 「色表示」 |

しつけ縫いステッチを追加する

しつけ縫いを行うと、刺しゅうする布地の間がよりしっかりと固定されます。しつけ縫いをするときは、刺しゅうモチーフを刺しゅうする前に、「刺しゅうモチーフに沿って」または「刺しゅう枠に沿って」、最初の糸色で長方形の刺しゅうをします。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 「刺しゅう」をタップします。



- > 「しつけ縫い」をタップすると、刺しゅうモチーフに沿ってしつけ縫いができます。
- 「刺しゅうモチーフに沿ってしつけ縫い」がアクティブです。



- > 「刺しゅうモチーフに沿ってしつけ縫い」をタップすると、刺しゅう枠に沿ってしつけ縫いができます。
- 「刺しゅう枠に沿ってしつけ縫い」がアクティブです。



- > しつけ縫いを無効にするには、「刺しゅう枠に沿ってしつけ縫い」をタップします。

刺しゅう枠の移動

刺しゅうモチーフが大きくて、布地を刺しゅう枠に張り替えなければならない場合、刺しゅう枠を移動することができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 「刺しゅう」をタップします。



- > 「刺しゅう枠の移動」をタップします。
- > 「多機能ボタン 上」を回すと、刺しゅう枠が水平方向に移動します。
- > 「多機能ボタン 下」を回すと、刺しゅう枠が垂直方向に移動します。



- > 設定を決定するには、履歴ナビゲーションで「刺しゅう」をタップします。

糸切れの際に刺しゅうの工程を確認する

糸が切れた場合、刺しゅう工程確認の機能を使って、刺しゅうモチーフ内の針の位置を再度決めることができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。



- > «刺しゅう»をタップします。



- > «刺しゅう工程の確認»をタップします。
 - 画面の左側に刺しゅうモチーフの縮小図が表示されます。画面の右側に刺しゅうモチーフが拡大して表示されます。
- > 針を置きたい位置を縮小図上で選択します。
- > «多機能ボタン 上»を回すと、刺しゅう枠が少しずつ動きます。
- > «多機能ボタン 下»を回すと、刺しゅう枠が一度に大きく動きます。
 - 黄色い枠で囲まれたフィールド内の数字は、刺しゅう工程のステッチ数を示しています。
- > «番号による針の位置決め»をタップして、入力ごとにステッチを選択します。



つなぎステッチを切る

つなぎステッチを切る機能は標準設定でオンにされていて、つなぎステッチは自動的にカットされます。この機能をオフにした場合には、つなぎステッチは手で切る必要があります。



- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅう»をタップします。



- > 機能をオフにするには、「つなぎステッチを切る»をタップします。
- > 機能をオンにするには、「つなぎステッチを切る»をもう一度タップします。

色換えの頻度を少なくする

刺しゅうモチーフが重複している場合に、色換えの頻度を少なくすることはできません。



- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅう»をタップします。



- > «色交換を少なくする»をタップします。
 - 刺しゅうモチーフ内の同じ色は一回にまとめられます。
 - 刺しゅうモチーフが完了せずにミシンのスイッチがオフになった場合は、刺しゅうを続行する前に機能を再度有効にする必要があります。

複数色の刺しゅうモチーフ オン／オフ

複数色の刺しゅうモチーフは単色でも刺しゅうすることができます。



- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅう»をタップします。



- > «複数色の刺しゅうモチーフ オン／オフ»をタップします。
 - 刺しゅうモチーフが単色で刺しゅうされます。

色表示

刺しゅうモチーフの色はひとつずつ選択することができます。刺しゅう枠はまず初めに、アクティブになっている色のステッチを刺しゅうするように動きます。それぞれアクティブになっている色は、ひとつずつまたは連続して刺しゅうすることができます。



- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > «刺しゅう»をタップします。
- > 上下にスクロールして、刺しゅうモチーフの次の色と前の色を選択します。

15.10 フリーアーム刺しゅう

袖などの筒状の布地に刺しゅうをする場合に、布地をフリーアームに通して刺しゅうすることを、フリーアーム刺しゅうといいます。フリーアーム刺しゅうは、袖やズボンの裾などの細い筒状になった部分によく使用します。



刺しゅう枠を取り付けるまたは取り外す前に左の待機ポジションに動かすことで、筒状の布地を簡単にフリーアームに通すことができます。続いて刺しゅう枠を再び刺しゅうポジションに戻すには、「スタート/ストップ」をタップします。

下糸を交換する際に、刺しゅう枠を取り外す必要があるので、下糸はできるだけいっぱいに巻かれたものを使用してください。

布地の筒がとても細い場合、刺しゅうアームの動きが制限されたり、阻害されたりすることがあります。刺しゅう枠が刺しゅう中に前後に十分に動くことを確認してください。刺しゅうアームの動きが阻害されると、刺しゅうモチーフが歪んだり、布地を傷つける恐れがあります。

刺しゅうアームの動きを確認する

- > ミシン上で刺しゅうモチーフを呼び出し、編集します。
- > 刺しゅうモチーフの位置、大きさを布地にマーキングします。
- > できる限り小さな刺しゅう枠を選択します。
- > 布地に刺しゅう安定紙の種類によってそれぞれの方法で付け、刺しゅう枠に張ります。
- > 筒状の布地をゆっくりとミシンのフリーアームに通し、刺しゅう枠を刺しゅう機に取り付けます。
- > 必要であれば、刺しゅうモチーフの位置を修正します。
- > 「刺しゅうモチーフの大きさを調整する」をタップします。
- > 刺しゅうモチーフの大きさを確認したら、刺しゅうを始めます。



15.11 刺しゅうモチーフの管理

刺しゅうモチーフの管理について



- | | | | |
|---|-----------------|---|-----------------|
| 1 | 「刺しゅうモチーフを読み込む」 | 3 | 「刺しゅうモチーフを削除する」 |
| 2 | 「刺しゅうモチーフの保存」 | | |

刺しゅうモチーフをユーザーメモリーに保存する

「刺しゅうモチーフの保存」ストレージには、お気に入りの刺しゅうモチーフと編集した刺しゅうモチーフを保存することができます。

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 刺しゅうモチーフを編集します。
- > 「選択」をタップします。



- > 「刺しゅうモチーフの保存」をタップします。
 - 保存する刺しゅうモチーフが黄色い枠で囲われます。
 - 「刺しゅう機」がアクティブです。
- > 「決定」をタップします。

刺しゅうモチーフをベルニナUSBメモリーに保存する

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 刺しゅうモチーフを編集します。
- > 「選択」をタップします。



-  > «刺しゅうモチーフの保存»をタップします。
 - 保存する刺しゅうモチーフが黄色い枠で囲まれます。
- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。
-  > «USBメモリー»をタップします。
-  > «決定»をタップします。

ユーザーメモリーの刺しゅうモチーフを上書きする

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 刺しゅうモチーフを編集します。
-  > «選択»をタップします。
-  > «刺しゅうモチーフの保存»をタップします。
 - 保存する刺しゅうモチーフが黄色い枠で囲まれます。
-  > «刺しゅう機»がアクティブです。
- > 上書きされる刺しゅうモチーフを選択します。
-  > «決定»をタップします。

ベルニナUSBメモリーの刺しゅうモチーフを上書きする

- > 刺しゅうモチーフを選択します。
- > 刺しゅうモチーフを編集します。
-  > «選択»をタップします。
-  > «刺しゅうモチーフの保存»をタップします。
 - 保存する刺しゅうモチーフが黄色い枠で囲まれます。
- > ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。
-  > «USBメモリー»をタップします。
- > 上書きされる刺しゅうモチーフを選択します。
-  > «決定»をタップします。

ステッチパターンを取り込む

ステッチパターンまたはステッチパターンのコンビネーションを、ソーイングモードから刺しゅうモードにインポートすると、刺しゅうモチーフを編集することができます。この機能を使用することで、例えばボーダーパターンをすばやく簡単に作成でき、刺しゅうモチーフとして«マイデザイン»フォルダに保存できます。

-  > «ホーム»をタップします。
-  > «ソーイングモード»をタップします。
- > ステッチパターンを選択します。
-  > «ホーム»をタップします。
-  > «刺しゅうモード»をタップします。
 - ステッチパターンは自動的に «マイデザイン» フォルダに保存されます。
-  > «マイデザイン»を選択します。
- > ステッチパターンを選択します。

刺しゅうモチーフをユーザーメモリーから呼び出す



> «選択»をタップします。



> «刺しゅうモチーフを読み込む»をタップします。



> «マイデザイン»を選択します。

> 刺しゅうモチーフを選択します。

刺しゅうモチーフをベルニナUSBメモリーから呼び出す



> «選択»をタップします。

> ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。



> «刺しゅうモチーフを読み込む»をタップします。



> «USBメモリー»をタップします。

> マイデザインを選択します。

ユーザーメモリーの刺しゅうモチーフを消去する

ユーザーメモリーに保存した刺しゅうモチーフは、ひとつずつ消去することができます。



> «選択»をタップします。



> «消去»をタップします。



– «刺しゅう機» がアクティブです。

> 消去したい刺しゅうモチーフを選択します。



> «決定»をタップします。

ベルニナUSBメモリーの刺しゅうモチーフを消去する



> «選択»をタップします。



> «消去»をタップします。

> ベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。



> «USBメモリー»をタップします。

> 消去したい刺しゅうモチーフを選択します。



> «決定»をタップします。

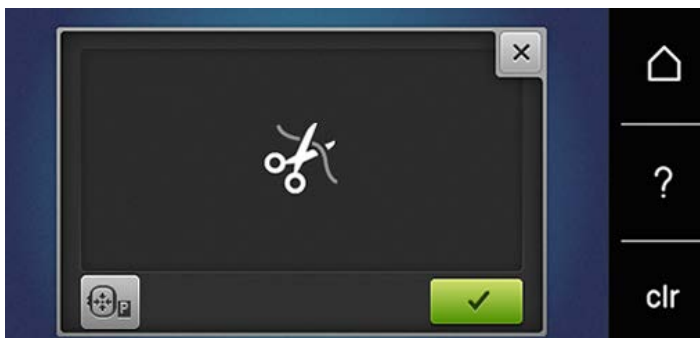
16 刺しゅうをする

16.1 «スタート/ストップ»ボタンを使って刺しゅうをする

停電などの場合、刺しゅうプロセスが中断されます。ミシンを再度起動すると、刺しゅう機が自動的に最後に刺しゅうをした位置に動きます。



- > «スタート/ストップ»ボタンを、刺しゅう機が動き出すまで長押しします。
 - ミシンは7針程度を縫った後、停止します。
- > 刺しゅう押えを上げます。
- > ディスプレイ表示に従って下糸を切り、「OK」をタッチします。



- > 刺しゅう押えを下げます。
- > «スタート/ストップ»ボタンを押して、刺しゅうを続けます。

16.2 刺しゅうスピードを速くする

刺しゅうの仕上がりを最適にするためには、刺しゅうをする位置によって、刺しゅうスピードを遅くします。刺しゅうスピードは、最適速度と最高速度から選択することができます。標準設定は最適速度です。最高速度を選択した場合、刺しゅうモチーフの質が多少落ちることがありますので、ご注意ください。

ミシンの電源を入れ直すと、刺しゅうスピードは最適速度に設定されます。

前提条件：



- ・ 刺しゅうを開始します。
- > «ステッチ速度»をタップします。
 - 刺しゅうスピードが最高速度に設定されます。
- > «ステッチ速度»をもう一度タップします。
 - 刺しゅうスピードが最適速度に設定されます。

16.3 上糸調子を設定する

上糸調子の標準設定はステッチパターンおよび刺しゅうモチーフによって自動的に設定されています。

上糸調子はベルニナの製造所で最適な状態に設定されています。上糸および下糸調子の初期設定に使われた糸は、メトロシーン/セラロン100/2（メトラー社）です。

その他のミシン糸または刺しゅう糸を使用する場合には、上糸調子に不具合が生じてしまうことがあります。このため、縫うまたは刺しゅうするものと希望のステッチパターンおよび刺しゅうモチーフに合わせて、上糸調子を個々に調整することが必要になります。

上糸調子を強めるほど上糸が張って、下糸を布地に強く引き付けます。上糸を弱めると、上糸の張りが弱くなり、下糸を布に引き付ける力が弱まります。

上糸調子の変更は、それぞれ選択したステッチパターンとすべての刺しゅうモチーフに影響します。ソーイングモード用（参照ページ: 44）と刺しゅうモード用（参照ページ: 46）の上糸調子を変更したままにするには、セットアッププログラムから設定することが可能です。

前提条件：



- ・ 上糸調子をセットアッププログラムで変更します。
- > «上糸調子»をタップします。

刺しゅうをする

> 上糸調子を調節します。



> 変更を基本設定に戻すには、右側の黄色い枠のフィールドをタップします。

> 左側の黄色い枠で囲まれたフィールドをタップすると、**セットアッププログラム**で変更した内容が初期設定に戻ります。

16.4 フットコントローラーを使って刺しゅうをする

フットコントローラーを使った刺しゅうは、スタンプワークなど小さな部分を刺しゅうするときに便利です。

> 刺しゅうを始めるには、フットコントローラーを踏み込んで、そのまま踏み続けます。

17 お手入れとメンテナンス

17.1 ファームウェア

ファームウェアのバージョンを確認する

ミシンのファームウェアとハードウェアのバージョンが表示されます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «情報»をタップします。



> «マシンデータ»をタップします。

ファームウェアを更新する



ミシンの最新ファームウェアと更新プロセスの順を追った詳しい手順は、www.bernina.com/540-supportからダウンロードできます。基本的に更新の際、ユーザーデータと設定は自動的に引き継がれます。念のためファームウェア更新の前には、バックアップとしてデータをベルニナUSBメモリーに保存しておくことをお勧めします。更新の際に、万が一これらのデータが失われてしまった場合には、バックアップから再びデータを戻すことができます。

前提条件：

- ・ ベルニナ刺しゅう機またはベルニナステッチレギュレーター押さえのような、本機に接続されているアクセサリを取り外します。

> 最新のファームウェアバージョンを搭載したUSBメモリーをマシンに差し込みます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。



> «ミシンの設定»をタップします。



> «メンテナンス／アップデート»をタップします。



> «ファームウェアを更新する»をタップします。



> ファームウェアの更新を開始するには、「アップデート»をタップします。

ヒント：この更新には数分かかる場合があります。更新中はミシンの電源は切らず、USBメモリーは外さないでください。

－ ミシンは再起動します。更新が完了すると、通知が表示されます。

保存したデータを復元する

ユーザーデータや設定がソフトウェアのアップデートの際に失われてしまった場合に、再び復元させることができます。

> データと設定を保存したベルニナUSBメモリーをミシンのUSB端子に差し込みます。



> «ホーム»をタップします。



> «セットアッププログラム»をタップします。

お手入れとメンテナンス



> «ミシンの設定»をタップします。



> «メンテナンス／アップデート»をタップします。



> «ファームウェアを更新する»をタップします。

注意

ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）を取り外すのが早すぎると保存したデータが正しく読み込まれず、ミシンを使用できません。

> ベルニナUSBメモリーは、保存したデータの読み込みが完全に終了してから取り外してください。



> «データを読み込む»をタップします。

– データが転送されると、緑色のチェックマークが短時間表示されます。

17.2 ミシン

ディスプレイを掃除する

> ディスプレイは電源をオフにした状態で、柔らかく、軽く濡らしたマイクロファイバーの布で拭きます。

送り歯を掃除する

針板の下にたまった糸くずは、時々取り除くようにします。

> 針と押え金を挙げます。

⚠ 注意

電動部品の取り扱いについて

針と釜の部分でけがをするおそれがあります。

> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

> 針と押え金を取り外します。

> 送り歯を下げます。



> 針板を取り外します。

注意

ミシンの中にたまったゴミや糸くず

機械部品と電子部品の損傷。

> 刷毛や柔らかい布を使用します。

> 圧縮空気スプレーは使用しないでください。

> 送り歯をブラシで掃除します。

釜を掃除する



電動部品の取り扱いについて

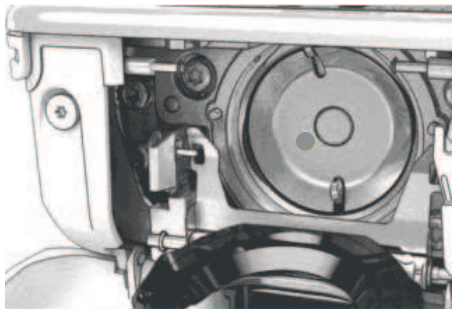
針と釜の部分でけがをするおそれがあります。

> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

- > 釜カバーを開けます。
- > ボビンケースを取り出します。
- > 取り外しレバーを左に押します。



- > 黒の大釜カバーを開きます。
- > 釜をはずします。



ミシンの中にたまったゴミや糸くず

機械部品と電子部品の損傷。

- > 刷毛や柔らかい布を使用します。
- > 圧縮空気スプレーは使用しないでください。

- > 刷毛と柔らかい布で釜のレーンの汚れをとります。その際、先の尖ったものなどは使用しないでください。
- > 中釜の中央のピンを指でつまみます。
- > 中釜の下側を大釜カバーの奥に、上から下へ斜めに差し込むように入れます。
- > 中釜を二つのカムがそれぞれの穴に合うようにし、グレーの印が見えるようにセットします。
- > 中釜を入れます。
 - 中釜は磁石になっているので、正しい位置に装着されます。
- > 大釜カバーを閉じて、留め金を閉じます。
- > はずみ車を回して確認します。
- > ボビンケースを取り付けます。

釜に注油をする

釜にオイルを塗ることで、釜部での不要なノイズの発生を防ぐことができます。ベルニナでは、次の頻度で注油を行うことを推奨しています：

- ・初めてミシンをご使用になる前に
- ・長い間使っていなかったとき
- ・集中して使用したとき：縫う前に毎日行いましょう
- ・«マシンに注油してください» の表示が出たとき
- ・釜部から不要なノイズが発生したとき



注意

電動部品の取り扱いについて

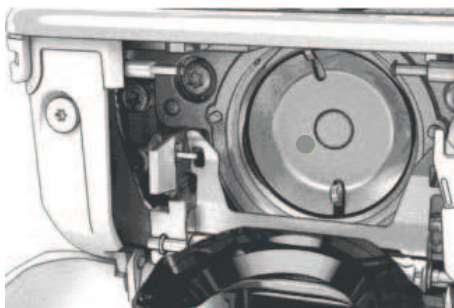
針と釜の部分でけがをするおそれがあります。

> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

- > ボビンケースを取り出します。
- > 取り外しレバーを左に押します。



- > 黒の大釜カバーを開きます。
- > 釜をはずします。



- > 刷毛と柔らかい布で釜のレーンの汚れをとります。その際、先の尖ったものなどは使用しないでください。
- > ベルニナミシンオイルを釜の軌道内に1滴加えます。



- > フェルトが湿るように、ベルニナミシンオイルを二つの油溜に一滴ずつ注します。赤い印のついた釜軸にはオイルがつかないようにします。



- > 中釜の中央のピンを指でつまみます。
- > 中釜の下側を大釜カバーの奥に、上から下へ斜めに差し込むように入れます。
- > 中釜を二つのカムがそれぞれの穴に合うようにし、グレーの印が見えるようにセットします。
- > 中釜を入れます。
 - 中釜は磁石になっているので、正しい位置に装着されます。
- > 大釜カバーを閉じて、留め金を閉じます。

- > はずみ車を回して確認します。
- > ボビンケースを取り付けます。
- > 試し縫い用の布にソーイングまたは刺しゅうをします。

糸くず入れの掃除



- > «ホーム»をタップします。



- > «セットアッププログラム»をタップします。



- > «ミシンの設定»をタップします。



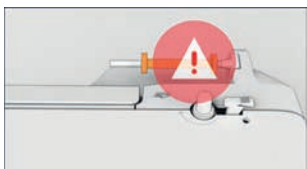
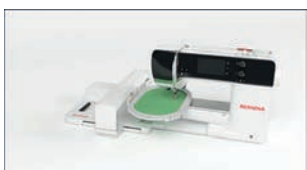
- > «メンテナンス／アップデート»をタップします。

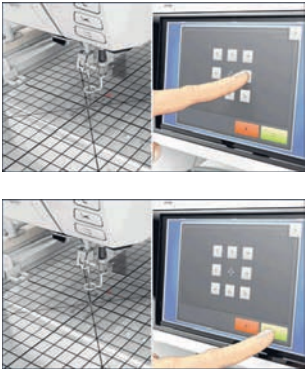
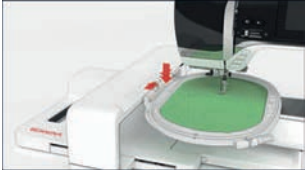


- > «糸くず入れの掃除»をタップします。
- > ディスプレイの説明に沿って、糸くず入れの掃除をします。

18 エラーと故障

18.1 エラー表示

ディスプレイ表示	原因	解決方法
	ステッチ番号が認識されない。	> 番号を確認して入れ直します。
	コンビネーションモードではこのステッチパターンの選択ができない。	> 他のステッチパターンを使用します。
	送り歯が下がっていない。	> «送り歯 上／下»ボタンを押して、送り歯を下げます。
	取り付けられている針とパンチワーク用針板が一緒に使用できない。	> 針を交換します。 > パンチワーク用針板を交換します。
	針が一番上まで上がっていない。	> はずみ車で針を一番上まで動かします。
	上糸がなくなった。	> 糸を掛けなおします。
	上糸が切れた。	> 糸を掛けなおします。
	モーターが動かない。	> はずみ車を時計回りに回し、針を一番上まで動かします。 > パンチワーク用針板を取り外します。 > 糸くずを取り除きます。 > 釜を掃除します。 > 釜をはずして、釜の裏側の磁石部分に折れた針などが付いていないか確認します。 > 正しい位置に中釜を入れます。
	振動などにより、ミシンと刺しゅう機の接続が中断された。	> ミシンと刺しゅう機が安定した平らな場所に置かれているか、確認します。 > 刺しゅう機をミシンに接続します。

ディスプレイ表示	原因	解決方法
	針の位置が刺しゅう枠の中心からずれている。	> 刺しゅう枠を調整します。
	刺しゅう機が取り付けられていない。	> 刺しゅう機をマシンに接続します。 > ベルニナ販売店にお問い合わせください。
	刺しゅう枠が取り付けられていない。	> 刺しゅう枠を取り付けます。
	刺しゅう枠が取り付けられている。	> 刺しゅう枠を取り外します。
	刺しゅう枠が動く。	> «決定»をタップします。
	メガ刺しゅう枠が上でない。	> 刺しゅう枠の位置を上 にします。
	メガ刺しゅう枠が中央でない。	> 刺しゅう枠の位置を中央にします。
	メガ刺しゅう枠が下でない。	> 刺しゅう枠の位置を下 にします。

エラーと故障

ディスプレイ表示	原因	解決方法
	刺しゅうモチーフの一部が刺しゅう枠からはみ出ている。	> 刺しゅうモチーフの位置を変えて、刺しゅうをし直します。
	刺しゅうモチーフが大きすぎる。	> 刺しゅうモチーフのサイズを小さくします。 > 大きな刺しゅう枠を取り付けます。
ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）に空き容量が不足している。	ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）に十分な空き容量がありません。	> ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）を使用しているか確認します。 > ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）のデータを削除します。
ユーザーデータがベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）に見つからない。	復元するユーザーデータはベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）にありません。	> データと設定がベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）に保存されているか確認します。
ユーザーデータの復元に失敗した。	ファームウェアのアップデートは正常に終了したがユーザーデータの復元に失敗した。	> データと設定がベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）に保存されているか確認します。 > バックアップされたデータをミシンに転送します。
ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）が接続されていません。自動アップデートの最中は常に同じベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）が接続されたままであることを確認してください。	ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）が接続されていない。	> 十分な容量のあるベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）を使用します。
ファームウェアのアップデートに失敗した。	新しいファームウェアバージョンがUSBメモリーに見つかりません。	> ファームウェアアップデート用の圧縮（ZIP）ファイルが解凍されていることを確認します。 > アップデートのデータをUSBメモリーのファイルなどに解凍せず、直接その場に解凍したか、確認します。 > ファームウェアを更新します。

ディスプレイ表示	原因	解決方法
	ミシンのクリーニング／注油が必要である。	> ミシンを掃除します。 > 釜に注油をします。 注油についての注意事項：注油の量が多すぎると、布地や糸を汚してしまう恐れがあります。 > 注油後はまず試し縫い用の布にソーイング／刺しゅうをします。
自動糸切り（糸くず入れ横）の掃除が必要である。	糸くず入れを掃除する必要があります。このメッセージは、切断がサイクル1000回に達すると、ミシンに電源を入れるたびに表示されます。	> «決定»をタップします。 – «糸くず入れの掃除»が起動されます。 > ディスプレイの説明に沿って、糸つかみの掃除をします。 – 切断サイクルのカウンタはリセットされます。
定期点検の時期になりました。お近くのベルニナ販売店にご相談ください。	ミシンの点検が必要です。前回の点検から一定の期間が経つと、お知らせの表示が出ます。 重要な情報：ミシンを定期的に点検サービスに出していただくことで、大切なミシンを正常に機能させるだけでなく、長く、安全にお使いいただけます。この点検サービスを怠るとミシンの寿命を短くすることになりかねませんし、製品保証にも影響を及ぼしかねません。修理点検サービス料は国ごとに規定されています。お近くのベルニナ販売店、またはサービスショップにご相談ください。	> ベルニナ販売店にお問い合わせください。 > お知らせ表示は«ESC»アイコンを押すと、一時的に消えます。 3回消去した後は、再び次の点検までの一定の期間が経つまで、お知らせは表示されません。
	布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aのキャリブレーションに失敗した。	> 押え金が軽い力で動くかを確認します。必要なら糸くず、ほこり、端切れを取り除きます。 > 軽くぬらした、柔らかいマイクロファイバーの布でリフレクターを掃除します。 > リフレクターの位置を確認します。必要ならリフレクターの位置を修正し、または押え金を取り替えます。 > 押え金の裏側のプラスチックが摩耗していないか確認します。必要なら押え金を取り替えます。 > 送り歯を掃除します。 > ベルニナ販売店にお問い合わせください。
#1000	糸通し器が詰まっています。	> ミシンの電源を切ります。針糸通し器を押して離す。ミシンの電源を入れます。 > 他の不具合が生じたときはベルニナ販売店に修理を依頼してください。
#1001	«糸切り»ボタンが詰まっているか、欠陥があります。	> ボタンがスムーズに動くか確認してください。 > 他の不具合が生じたときはベルニナ販売店に修理を依頼してください。

エラーと故障

ディスプレイ表示	原因	解決方法
#1002	«針位置 上/下»ボタンが詰まっているか、欠陥があります。	> ボタンがスムーズに動くか確認してください。 > 他の不具合が生じたときはベルニナ販売店に修理を依頼してください。
#1003	«スタート/ストップ»ボタンが詰まっているか、欠陥があります。	> ボタンがスムーズに動くか確認してください。 > 他の不具合が生じたときはベルニナ販売店に修理を依頼してください。
#1004 #1005 #1010	エラーの正確な原因を特定できません。	> ミシンを再起動します。 > 他の不具合が生じたときはベルニナ販売店に修理を依頼してください。

18.2 トラブルシューティング

トラブル	原因	解決方法
ステッチが一定でない	上糸が強すぎる／弱すぎる。	> 上糸調子を調節します。
	針先が鈍い、または針が曲がっている。	> 新しいベルニナの高品質な針に交換します。
	針の質が悪い。	> 新しいベルニナの高品質な針に交換します。
	糸の質が悪い。	> 品質の良い糸を使用します。
	針と糸の組み合わせが合っていない。	> 糸の番手に適切な針を選びます。
	糸掛けが間違っている。	> 糸を掛けなおします。
	布地が引っ張られる。	> 布送りを均等にします。
ステッチが一定でない 	ボビンケースが合っていない。	> 三角の印の付いた付属アクセサリーのボビンケースを使用します。
ステッチがとぶ	針が合っていない。	> 130/705Hシステムの針を使用します。
	針先が鈍い、または針が曲がっている。	> 針を交換します。
	針の質が悪い。	> 新しいベルニナの高品質な針に交換します。
	針が正しく取り付けられていない。	> 針の平らな部分を後ろ側にしてしっかり上まで差し込み、ネジを締めます。
	針先の形が合っていない。	> 布地に合った形の針先の針を使用します。

トラブル	原因	解決方法
ステッチの目がそろわない	上糸テンションディスクに糸くずなどが挟まっている。	> テンションディスクに二つ折りにした薄い布地（布端は使用しない）を通し、糸くずなどを取ります。
	糸掛けが間違っている。	> 糸を掛けなおします。
	ボビンケースの糸調子バネの下に糸くずがついている。	> 糸くずを取り除きます。
上糸が切れる	針と糸の組み合わせが合っていない。	> 糸の番手に適切な針を選びます。
	上糸調子が強すぎる。	> 上糸調子を緩くします。
	糸掛けが間違っている。	> 糸を掛けなおします。
	糸の質が悪い。	> 品質の良い糸を使用します。
	パンチワーク用針板の針穴周りまたは釜の剣先が傷ついている。	> ベルニナ販売店にお問い合わせください。 > パンチワーク用針板を交換します。
	糸が天秤に引っかかっている。 	> 天秤カバー（1）を左にスライドさせて、取り外します。 > 糸くずを取り除きます。 > 天秤カバーの4つの突起部をそれぞれの穴に合わせ、天秤カバーを右にスライドさせます。
下糸が切れる	ボビンケースが傷ついている。	> ボビンケースを交換します。
	パンチワーク用針板の針穴周りに傷がついている。	> ベルニナ販売店にお問い合わせください。 > パンチワーク用針板を交換します。
	針先が鈍い、または針が曲がっている。	> 針を交換します。
針が折れる	針が正しく取り付けられていない。	> 針の平らな部分を後ろ側にしてしっかり上まで差し込み、ネジを締めます。
	布地が引っ張られる。	> 布送りを均等にします。
	厚地の布地がずれる。	> ジーンズ押え #8などの厚い布地に適合する押え金を使用します。 > 布地の厚くなった部分を縫う際に、高さ調節板を使用します。
	糸が絡まる。	> 品質の良い糸を使用します。
振り幅が選択できない	取り付けられている針とパンチワーク用針板が一緒に使用できない。	> 針を交換します。 > パンチワーク用針板を交換します。
ソーイングスピードが遅い	室温が適切でない。	> 使用する1時間前に、ミシンを常温の部屋に置いておきます。
	セットアッププログラムで設定している。	> セットアッププログラムでスピードを調節します。 > スピードコントローラーを調節します。

エラーと故障

トラブル	原因	解決方法
ミシンが動かない	室温が適切でない。	> 使用する1時間前に、ミシンを常温の部屋に置いておきます。 > ミシンの接続コードを確認し、電源を入れます。
	ミシンが故障している。	> ベルニナ販売店にお問い合わせください。
ソーイングライトとフリーアームのライトが点灯しない	セットアッププログラムで設定している。	> セットアッププログラムでオンにします。
	ライトが故障している。	> ベルニナ販売店にお問い合わせください。
上糸センサーが機能しない	セットアッププログラムで設定している。	> セットアッププログラムでオンにします。
	上糸センサーが故障している。	> ベルニナ販売店にお問い合わせください。
ソフトウェアアップデートのエラー	USBメモリーが認識されない。	> アップデート手順に従って、USBメモリーを準備します。 > ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリ）を使用します。
	アップデート処理が中断され、ディスプレイに砂時計が表示されたままになる。	> USBメモリーを取り外します。 > ミシンの電源を切ります。 > ミシンの電源を入れます。 > ディスプレイの指示に従います。
	アップデートデータが見つからない。	> 圧縮（ZIP）ファイルを解凍します。 > アップデートのデータをUSBメモリーのファイルなどに解凍せず、直接その場に解凍します。
BSR押え金 #42 が認識されません	レンズが汚れています。	> センサーを柔らかい、軽く湿らせた布で拭きます。
	BSRケーブルが正しく差し込まれていません。	> BSRプラグを垂直に、カチッと音がするまで差し込みます。
バータックや穴かがりが繰り返して縫われない	ミシンで布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aのキャリブレーションが行われていません。	> 布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aはキャリブレーションされています。（参照ページ: 53）

19 収納と処分

19.1 ミシンを収納する

ミシンは元の梱包に収納することをお勧めします。ミシンを寒い場所で保管した場合、使用する1時間前に常温の部屋に置いておきます。

- > ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
- > ミシンは屋外で保管しないでください。
- > ミシンが気候の影響を受けないように保管してください。

19.2 ミシンを処分する

- > ミシンのクリーニングをします。
- > それぞれのパーツは材質ごとに分別して、お住まいの市町村のルールに従って処分してください。

20 機械仕様

名目	数値	単位
布地の最大厚さ	10,5 (0,41)	mm (in)
最高速度	1000	ステッチ／分
フットコントローラー	LV-1	
針システム	130/705	
寸法（糸立て棒を除く、幅×奥行×高さ）	450 × 330 × 200 (17,72 × 12,99 × 7,87)	mm (in)
寸法（刺しゅう機を含み糸立て棒を除く、幅×奥行×高さ）	750 × 330 × 450 29,53 × 12,99 × 17,72	mm (in)
ミシン重量	11,5 (25,35)	kg (lb)
刺しゅう機の重量	3,7 6,6	kg (lb)
消費電力	90	ワット
電圧	100 – 240 50 - 60	ボルト Hz
感電保護クラス	II	

21 パターンについて

21.1 ステッチパターン一覧

実用縫い

1 	2 	3 	4 	5 	6 	7 	8 	9 	10 	11 	12 	13 	14
15 	16 	17 	18 	19 	20 	22 	23 	24 	25 	26 	29 	30 	32
33 	34 												

ボタンホール

51 	52 	53 	54 	55 	56 	57 	59 	60 	61 	62 	63 	64 	66
69 													

飾り縫い

ナチュラルステッチ

101 	102 	103 	104 	106 	107 	108 	109 	110 	111 	112 	113 	114 	115
116 	117 	118 	119 	122 	123 	124 	125 	129 	130 	131 	132 	137 	138
139 	140 	141 	142 	143 	144 	145 	150 	152 	153 	154 	155 	156 	167
168 	169 	170 											

クロスステッチ

301 	302 	303 	304 	305 	306 	307 	308 	309 	319 	320 	321 	322 	323
324 	325 	326 	327 	328 	329 	330 	331 	332 	333 	334 	335 	336 	337

パターンについて

338	339

サテンステッチ

401	402	405	406	407	408	409	410	412	413	414	415	416	417
418	419	421	422	423	424	425	426	427	428	429	433	434	453
454	455	456	465	466									

幾何学模様ステッチ

601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614
615	616	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629
630	631	633	634	635	637	639	640	641	642	643	644	645	646
647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	660	661
662	663	665	666										

ホワイト刺しゅうステッチ

701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714
715	716	717	721	722	723	724	725	726	727	729	730	731	732
733	734	735	736	737	739	741	742	743	744	745	748	749	750
751	752	770	771	772	773	774	775	776	777	778			

ユーゲントステッチ

901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914
915	916	917	918	919	920	921	922	924	926	928	935	938	939
940	945	946	948	950	954	961							

キルトステッチ

1301	1302	1303	1304	1305 6 / inch 24 / cm	1306 8 / inch 32 / cm	1307 10 / inch 4 / cm	1308 irregular look	1309	1310	1311	1312	1313	1314
1315	1316	1317	1318	1319	1320	1321	1322	1323	1324	1325	1326	1327	1329
1330	1331	1332	1333	1334	1335	1336	1337	1338	1339	1340	1341	1342	1344
1345													

21.2 刺しゅうモチーフ一覧

刺しゅうモチーフを編集する



あなたの創造力を自由に働かせてください。ミシンには、多彩な刺しゅうモチーフが搭載されています。

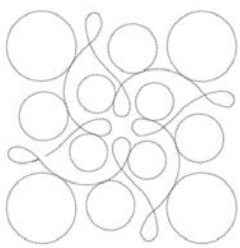
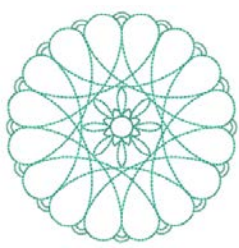
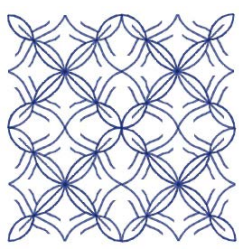
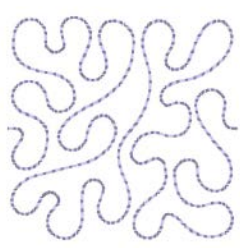
ミシンを登録すると、ベルニナカスタマーポータルから付属の刺しゅうモチーフを編集可能な形式でダウンロードできます。

刺しゅうモチーフ番号の下に次のピクトグラムのひとつがある場合は、<https://www.bernina.com/specialeffects> をご覧ください。

	下地のないレース刺しゅう		パンチワーク
	アイレット刺しゅう		コード刺しゅう
	フリンジ刺しゅう		刺しゅう枠を使った作品
	アップリケ		立体文字
	カットワーク		キルティング
	ペイントワーク		トラプント
	クリスタルワーク		

パターンについて

キルトモチーフ

Bd804_48  123 x 124 mm 4.8 x 4.9 inch 904	 1.  Isacord 40 0111	
12499-06  102 x 102 mm 4 x 4 inch 3.838	 1.  Isacord 40 5115	
12416-04  89 x 89 mm 3.5 x 3.5 inch 3.482	 1.  Isacord 40 0721	
Nz498  89 x 89 mm 3.5 x 3.5 inch 2.642	 1.  Isacord 40 3353	
12380-22  110 x 61 mm 4.4 x 2.4 inch 2.487	 1.  Isacord 40 1543	
Bd299  94 x 95 mm 3.7 x 3.7 inch 3.133	 1.  Isacord 40 0700	
Bd501_48  64 x 61 mm 2.5 x 2.4 inch 1.202	 1.  Isacord 40 3151	

飾りステッチ

Nb251_48  72 x 103 mm 2.8 x 4.1 inch 8.612	 1.  Isacord 40 2155  2.  Isacord 40 2504  3.  Isacord 40 0020  4.  Isacord 40 0020	
Nb826_48  135 x 133 mm 5.3 x 5.2 inch 11.154	 1.  Isacord 40 9971  2.  Isacord 40 9978  3.  Isacord 40 9973  4.  Isacord 40 1972	

 80090-06	 84 x 37 mm 3.3 x 1.4 inch	 3.766
1.  Applique 1 2.  Applique 2 3.  Isacord 40 4103		



21021-04	 123 x 150 mm 4.8 x 5.9 inch	 16.176
1.  Isacord 40 1161 2.  Isacord 40 1252 3.  Isacord 40 1565		



花

21009-21	 65 x 108 mm 2.6 x 4.2 inch	 4.343
1.  Isacord 40 5220 2.  Isacord 40 5210		



21027-14	 121 x 121 mm 4.8 x 4.8 inch	 7.316
1.  Isacord 40 5115 2.  Isacord 40 2721 3.  Isacord 40 4114 4.  Isacord 40 2520 5.  Isacord 40 0506 6.  Isacord 40 5100 7.  Isacord 40 1805 8.  Isacord 40 5115 9.  Isacord 40 1805		



21002-02	 110 x 160 mm 4.3 x 6.3 inch	 8.622
1.  Isacord 40 0933 2.  Isacord 40 1252		



Fq733_48	 66 x 66 mm 2.6 x 2.6 inch	 8.391
1.  Isacord 40 0670 2.  Isacord 40 5822 3.  Isacord 40 0776 4.  Isacord 40 1375		



キッズ

 Be790313	 99 x 102 mm 3.9 x 4 inch	 8.788
1.  Applique 1 2.  Applique 3 3.  Isacord 40 3750 4.  Isacord 40 1114 5.  Isacord 40 1900 6.  Isacord 40 3620 7.  Isacord 40 2510 8.  Isacord 40 5324 9.  Isacord 40 1114 10.  Isacord 40 1060 11.  Isacord 40 4114 12.  Isacord 40 0020 13.  Isacord 40 0015		



 Ck867	 122 x 133 mm 4.8 x 5.2 inch	 28.880
1.  Applique 1 2.  Applique 2 3.  Applique 3 4.  Isacord 40 5730 5.  Isacord 40 2761 6.  Isacord 40 0630 7.  Isacord 40 3910 8.  Isacord 40 0015 9.  Isacord 40 0811 10.  Isacord 40 2830 11.  Isacord 40 4174 12.  Isacord 40 1701 13.  Isacord 40 3722 14.  Isacord 40 0015 15.  Isacord 40 1430		



パターンについて

Be790309 87 x 150 mm 3.4 x 5.9 inch 13.252

1. Applique 1
2. Applique 3
3. Isacord 40 0015
4. Isacord 40 1900
5. Isacord 40 0020
6. Isacord 40 4116
7. Isacord 40 0176
8. Isacord 40 0015
9. Isacord 40 0310



Be790310 138 x 136 mm 5.4 x 5.4 inch 16.278

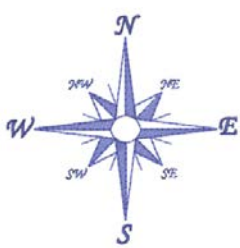
1. Applique 1
2. Applique 3
3. Applique 1
4. Applique 3
5. Isacord 40 1161
6. Isacord 40 1141
7. Isacord 40 1161
8. Isacord 40 3654
9. Isacord 40 0176
10. Isacord 40 1141
11. Isacord 40 0020
12. Isacord 40 0015
13. Isacord 40 1900



季節

Na614 102 x 101 mm 4 x 4 inch 2.867

1. Isacord 40 3543



21019-14 123 x 130 mm 4.8 x 5.1 inch 23.294

1. Isacord 40 1805
2. Isacord 40 1805
3. Isacord 40 1805
4. Isacord 40 1912
5. Isacord 40 0138
6. Isacord 40 0020
7. Isacord 40 0131
8. Isacord 40 0015
9. Isacord 40 0138
10. Isacord 40 1805



Nb754_48 114 x 128 mm 4.5 x 5 inch 13.084

1. Yenmet 7037
2. Isacord 40 2155
3. Isacord 40 0651
4. Isacord 40 0101
5. Isacord 40 2532
6. Isacord 40 0640
7. Isacord 40 1352
8. Yenmet 7030
9. Isacord 40 0232
10. Isacord 40 1123



12421-37 67 x 61 mm 2.6 x 2.4 inch 1.320

1. Isacord 40 0020



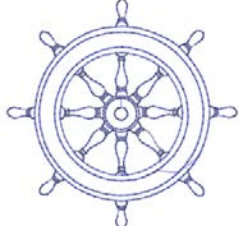
12421-03 46 x 48 mm 1.8 x 1.9 inch 2.328

1. Isacord 40 0020
2. Isacord 40 0015
3. Isacord 40 0111



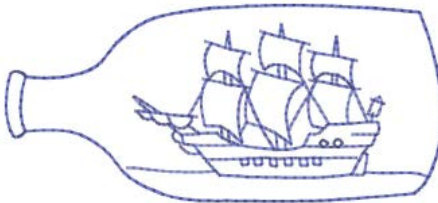
Na617 96 x 96 mm 3.8 x 3.8 inch 2.642

1. Isacord 40 3543



Na592 114 x 51 mm 4.5 x 2 inch 1.939

1. Isacord 40 3543



Nc009_48 18 x 94 mm 0.7 x 3.7 inch 936

1. Isacord 40 3641



Na597		57 x 53 mm 2.2 x 2.1 inch		920
--------------	---	------------------------------	---	-----

1.  Isacord 40 3543



ホビーとスポーツ

	80085-25		135 x 166 mm 5.3 x 6.5 inch		14.361
---	-----------------	---	--------------------------------	---	--------

1. Isacord 40 0015
2. Isacord 40 0015
3. Isacord 40 0015
4. Isacord 40 0015
5.  Isacord 40 0020
6.  Isacord 40 0112
7.  Isacord 40 0142
8.  Isacord 40 0142
9.  Isacord 40 4620
10.  Isacord 40 0142
11. Isacord 40 0015
12.  Isacord 40 1906
13.  Isacord 40 0020



	82014-28		142 x 117 mm 5.6 x 4.6 inch		26.582
---	-----------------	---	--------------------------------	---	--------

1.  Applique 1
2.  Applique 2
3.  Isacord 40 0105
4.  Isacord 40 0020
5.  Isacord 40 4073
6.  Isacord 40 1902



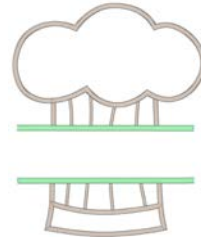
	12611-08		80 x 120 mm 3.1 x 4.7 inch		5.770
--	-----------------	--	-------------------------------	--	-------

1.  Applique 1
2.  Applique 2
3.  Applique 1
4.  Applique 2
5.  Isacord 40 1154
6.  Isacord 40 5440
7.  Isacord 40 1902



	12611-18		130 x 158 mm 5.1 x 6.2 inch		8.045
--	-----------------	--	--------------------------------	--	-------

1.  Applique 1
2.  Applique 2
3.  Isacord 40 0151
4.  Isacord 40 5440



	12472-01		138 x 142 mm 5.4 x 5.6 inch		23.233
---	-----------------	---	--------------------------------	---	--------

1.  Isacord 40 2504
2.  Isacord 40 3901
3.  Isacord 40 5610
4.  Isacord 40 4240
5. Isacord 40 0015
6. Isacord 40 0015
7.  Isacord 40 1123
8.  Isacord 40 0761
9.  Isacord 40 1902
10.  Isacord 40 2504
11.  Isacord 40 3901
12.  Isacord 40 5610
13.  Isacord 40 4240
14.  Isacord 40 1300



パターンについて

動物

Wp415_48		132 x 148 mm 5.2 x 5.8 inch		25.110
-----------------	---	--------------------------------	---	--------

1.  Isacord 40 0941
2.  Isacord 40 0532
3.  Isacord 40 0945
4.  Isacord 40 0020



 Cm213_48		58 x 102 mm 2.3 x 4 inch		7.866
---	---	-----------------------------	---	-------

1.  Isacord 40 1840
2.  Isacord 40 1055
3.  Isacord 40 1252
4.  Isacord 40 0651
5.  Isacord 40 0660
6.  Isacord 40 0020
7.  Isacord 40 1055



 Cm216_48		47 x 67 mm 1.9 x 2.6 inch		5.046
---	---	------------------------------	---	-------

1.  Isacord 40 1010
2.  Isacord 40 0101
3.  Isacord 40 0132
4.  Isacord 40 0020
5.  Isacord 40 0124
6.  Isacord 40 1010
7.  YLI variations 8012



Na248		78 x 73 mm 3.1 x 2.9 inch		10.132
--------------	---	------------------------------	---	--------

1.  Isacord 40 0101
2.  Isacord 40 3971
3.  Isacord 40 2220
4.  Isacord 40 0132
5.  Isacord 40 2051
6.  Isacord 40 2155
7.  Isacord 40 2320
8.  Isacord 40 2220
9.  Yenmet 7023



 Cm220_48		71 x 72 mm 2.8 x 2.8 inch		7.571
---	---	------------------------------	---	-------

1.  Isacord 40 1755
2.  Isacord 40 0101
3.  Isacord 40 0142
4.  Isacord 40 0101
5.  Isacord 40 4071
6.  Isacord 40 0142
7.  Isacord 40 0934
8.  Isacord 40 0020



ボーダーとレース

 21021-25		34 x 71 mm 1.3 x 2.8 inch		4.748
---	---	------------------------------	---	-------

1.  Isacord 40 1252



 12659-06		37 x 59 mm 1.4 x 2.3 inch		6.465
---	---	------------------------------	---	-------

1.  Isacord 40 4625
2.  Isacord 40 4515



21002-21		21 x 151 mm 0.8 x 5.9 inch		3.176
-----------------	---	-------------------------------	---	-------

1.  Isacord 40 1252

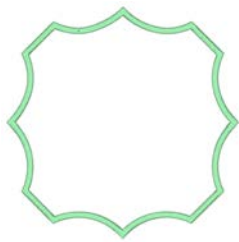
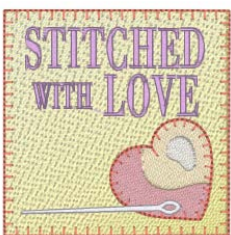


Fb436_48		29 x 133 mm 1.1 x 5.2 inch		4.735
-----------------	---	-------------------------------	---	-------

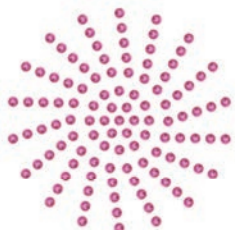
1.  Isacord 40 3130
2.  Isacord 40 3150
3.  Isacord 40 4240



フレーム

	12611-27		137 x 137 mm 5.4 x 5.4 inch		3.961
1.	 Applique 1				
2.	 Applique 2				
3.	 Isacord 40 5440				
	12649-05		91 x 88 mm 3.6 x 3.5 inch		9.087
1.	 Applique 1				
2.	 Applique 2				
3.	 Isacord 40 1840				
4.	 Isacord 40 1860				
5.	 Isacord 40 0015				
	32078-04		123 x 173 mm 4.9 x 6.8 inch		1.978
1.	 Isacord 40 0020				
2.	 Isacord 40 4174				
3.	 Isacord 40 0020				
4.	 Isacord 40 4174				
Nz195			77 x 77 mm 3 x 3 inch		15.343
1.	 Isacord 40 0660				
2.	 Isacord 40 0713				
3.	 Isacord 40 2153				
4.	 Isacord 40 1362				
5.	 Isacord 40 0870				
6.	 Isacord 40 2830				
7.	 Isacord 40 1725				
8.	 Isacord 40 4071				

Design Works

 Dw11	 70 x 71 mm 2.8 x 2.8 inch	 110	 12448-09_pw	 121 x 161 mm 4.8 x 6.3 inch	 8.265
1.  Swarovski 0502			1.  Edding 10		
			2.  Edding 2		
			3.  Edding 8		
			4.  Edding 1		
					

 21022-13_dw	 106 x 193 mm 4.2 x 7.6 inch	 15.285	 Dw05	 105 x 94 mm 4.1 x 3.7 inch	 13.334
1.  Edding 34			1.  Isacord 40 2022		
2.  Edding 68			2.  Cut 0001		
3.  Edding 6			3.  Cut 0002		
4.  Applique 1			4.  Cut 0003		
5.  Applique 2			5.  Cut 0004		
6.  Isacord 40 2640			6.  Isacord 40 2022		
7.  Applique 1					
8.  Applique 2					
9.  Isacord 40 1352					
10.  Isacord 40 1600					
11.  Isacord 40 4111			12.  Isacord 40 4103		
13.  Isacord 40 0017			14.  Isacord 40 2830		
					

索引

記号

安全上の注意事項	9
押え金の取り替え	33
押え上げレバーで押え金の位置を変える	32
押え上げレバーを取り付ける	29
下糸をかける	41
釜に注油をする	137
釜を掃除する	137
環境保護について	11
機能のアクティブ化/非アクティブ化	23
記号の説明	12
言語を選択	50
最高ソーイング速度の設定	44
刺しゅうデータのフォーマット	106
刺しゅうフレームの調整	46
刺しゅうモジュールを接続する	109
刺しゅうモチーフについて	151
刺しゅうモチーフのコンビネーション	124
刺しゅうモチーフの選択	109
刺しゅうモチーフの大きさを比例的に変更する	121
刺しゅうモチーフの大きさを変更する	122
刺しゅう機について	103
刺しゅう機を待機させる	117
刺しゅう針を取り付ける	111
刺しゅう枠の位置を仮に決める	117
刺しゅう枠を後ろへ移動する	116
刺しゅう枠を取り付ける	115
糸くず入れの掃除	139
糸こまネットを使用する	31
糸こま押えを取り付ける	31
試し縫い	106
試し縫いをする	91
実用縫い	66
上糸センサーの設定	49
上糸をかける	37
上糸調子	46, 133
上糸調子の設定	44
飾りステッチ	80
色の変更	127
針、糸、生地	24
針と糸のバランス	27
針の概要	24
針の交換	34
針の停止位置を上／下に設定する（常時）	36
節電モード	54
送り歯を掃除する	136
代理店情報を入力	51
電源コード	29
独自の設定を選択	49
二本針に糸を通す	39
標準設定に戻す	52

布ガイド付き自動ボタンホール押え #3Aのキャリブレーション	53
留め縫いの設定	44

B

BSR押えの取り付け	100
------------------	-----

F

ファームウェア	
値のカスタマイズ	23
ナビゲーション	22
機能のアクティブ化/非アクティブ化	23
接続する	
接続する	29

N

電源コード	
アメリカ／カナダ	29

あ

値のカスタマイズ	23
アルファベット	85

え

エコモードを使用	54
エラー表示	140

お

お手入れとクリーニング	136
-------------------	-----

き

キルティング	97
--------------	----

こ

コード芯	89
コンビネーションモード	58

さ

サービスデータを保存する	51
サウンドの設定	49

す

ステッチの密度を変更する	123
ステッチパターンのコンビネーションを保存する	58
ステッチパターンを選択する	55
スライドテーブル	32

そ

ソーイングアドバイザーを呼び出す	54
ソーイングスピードの調節	55, 119
ソーイングライトの設定	50

ち

- チャイルドロック 54
- チュートリアルを呼び出す 54

て

- ディスプレイの明るさの設定..... 50
- テクニカルデータ 148

と

- トラブルシューティング 144
- トリプル針の糸通し 40

な

- ナビゲーション 22

は

- パンチワーク用針板を交換する..... 36
- パンチワーク用針板を取り付ける..... 112

ひ

- ピンタック 82

ふ

- ファームウェアのバージョンの確認..... 135
- ファームウェアを更新する 135

へ

- ヘルプを呼び出す 54

ほ

- ボタンホール 87

み

- ミシンを収納する 147
- ミシンを処分する 147

よ

- レタリングの作成 126
- レタリングの編集 127



BERNINAはメトラー糸をお勧め致します

Mettler[®]

BERNINA International AG | CH-8266 Steckborn Switzerland | www.bernina.com | © Copyright by BERNINA International AG
1028855.20A.10
2023-07 JA

made to create **BERNINA**